

大阪大學總合學術博物館 年報

2018



大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2018

はじめに

本年もこうして2018年度の私たちの活動の概要『大阪大学総合学術博物館年報2018』ここに刊行し、皆様に公開できることを嬉しく思います。

2018年度も定例の展覧会として、特別展、夏期特集展覧会、企画展を開催しました。まず第11回特別展として「四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情—洋画家 中村貞夫」展を開催しました。当館にその作品の多くが寄贈されている、大阪大学文学部卒業の洋画家中村貞夫の、初期の作品から今日までの作品の系譜がよく理解できる素晴らしい展覧会となりました。それも共同主催としてご協力頂いた豊中市、毎日新聞、そして豊中市民ホール指定管理者の皆様のご協力の賜物です。また秋に開催した第12回特別展「The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語」では、当館員の研究成果の公開という形を取ったもので、多くの関連研究機関のご協力を得て実現したものです。また2018年度には3年間実施して参りました「記憶の劇場——大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」を無事に終了することができました。大学博物館の行う社会人材育成事業という新しい試みでしたが、事業を担当した教員は皆それぞれに手応えを感じることができました。次年度からは再び文学研究科に舞台を移すことになりますが、それには当館も積極的に共催いたしますので、今後も大学博物館のなすべき新しい共創型人材育成機能を探求して行きたいと思っております。

これら以外にも例年の「サイエンスカフェ」、「体験！こどもミュージアム」「大阪大学美術部夏部展」「阪大生が作った展覧会」、豊中市立小中学生理科展関連事業など、みな力のこもった取り組みとなりました。また、新たに「新興出版社啓林館様」との共主催による「わくわく学習教室」も始まり、次年度には本格的に館の事業として組み込まれる見通しとなっていることも素晴らしい成果と自負しています。

これら事業が成功裏に実施できましたのも、関係する諸機関や皆さんのご協力の賜物であることは今一度強調しておきたいと思います。社会との共創を志向する大阪大学として、大変悦ばしいことであり、この場をお借りして皆さんにお礼を申し上げたく存じます。

私たち大阪大学総合学術博物館は、世界最先端の研究を行う一方で、広く地域社会に根ざす、また社学共創に積極的な「交流型ミュージアム」を標榜しております。これからも個性的な大学博物館として邁進して参りたいと思いますので、今後ともご支援、ご鞭撻をお願い申しあげます。

2019年7月

大阪大学総合学術博物館長

永田 靖

目 次

| | |
|---|----|
| 1. 展覧会報告 I | 5 |
| 大阪大学総合学術博物館 第 11 回特別展 四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情— 洋画家 中村貞夫 | |
| ・概要 | 6 |
| ・報告（大阪大学共創機構社学共創本部 教授 橋爪 節也） | 10 |
| 2. 展覧会報告 II | 13 |
| 大阪大学総合学術博物館 第 12 回特別展 The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語 | |
| ・概要 | 14 |
| ・報告（総合学術博物館 特任講師（常勤）伊藤 謙） | 17 |
| 3. 大学を活用した文化芸術推進事業 | 21 |
| 記憶の劇場Ⅲ | |
| ・概要 | 22 |
| ・報告（総合学術博物館 特任研究員 山崎 達哉） | 26 |
| 4. シンポジウム報告 | 31 |
| <具体>再考 第 3 回大阪と前衛美術 | |
| ・概要 | 32 |
| ・報告（総合学術博物館 招へい准教授 加藤 瑞穂） | 35 |
| 5. サイエンスカフェ | 39 |
| ・2018 年度（サイエンスカフェ@待兼山 No.148 ~ 151） | 41 |
| ・2018 年度（サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-7 ~ C-9） | 41 |
| 6. 体験！こどもミュージアム@大阪大学 | 45 |
| 7. 大阪大学美術部 夏部展 2018 窓を見る～記憶 展望 実存～ | 49 |
| 8. ～繋げる・拡げる～わくわく学習教室 with Osaka University | 51 |
| 9. 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示 | 55 |
| 10. 阪大生がつくった展覧会 2018 ベスト | 58 |
| 11. 総合学術博物館支援スタッフ（ミュージアム・アシスタント） | 59 |

| | | | | |
|--------------------|----------|-------|-------|----|
| 12. 教員活動報告 | | 61 | | |
| 総合学術博物館 | 館 長 | 永田 靖 | | 62 |
| 総合学術博物館 研究・教育部 | | | | |
| ・資料基礎研究系 | 准 教 授 | 高橋 京子 | | 66 |
| | 特任助教(常勤) | 高浦佳代子 | | 72 |
| ・資料先端研究系 | 教 授 | 上田 貴洋 | | 75 |
| | 准 教 授 | 豊田 二郎 | | 79 |
| | 准 教 授 | 宮久保圭祐 | | 80 |
| ・資料情報研究系 | 教 授 | 橋爪 節也 | | 82 |
| | 助 教 | 横田 洋 | | 91 |
| 総合学術博物館 資料部 | | | | |
| | 特任講師(常勤) | 伊藤 謙 | | 92 |
| 13. 資料 | | 93 | | |
| ・2018年度の主な活動一覧 | | 94 | | |
| ・入館者数及びアンケート集計結果一覧 | | 102 | | |
| ・団体見学一覧 | | 112 | | |
| ・関連記事一覧 | | 114 | | |
| ・寄贈図書一覧 | | 116 | | |
| ・館内配置図 | | 120 | | |

1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館 第11回特別展

四大文明の源流を求めて
探求の旅、描きとめる熱情—
洋画家 中村貞夫

概 要

大阪大学総合学術博物館 第 11 回特別展「四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情—洋画家 中村貞夫」を 2018 年 4 月 27 日（金）から 7 月 21 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館及び豊中市立文化芸術センター 展示室（4 月 27 日～5 月 27 日）において開催した。

中村貞夫は大阪大学文学部でフランス文学を学びながら、小磯良平や伊藤継郎に師事して学生時代から画壇に頭角をあらわした洋画家である。本展覧会はその画業を追跡し、第一会場の大坂大学待兼山修学館では、初期の作品から独自の内向的な抽象絵画を経て自然へと回帰するまでを展示し、第二会場の豊中市立文化芸術センターでは、後年の世界四大文明をテーマに描いた大作を展示了。中村芸術の本質に迫る多彩なイベントも開催した。

本展覧会中の期間中の来場者は、5,010 名であった。

大阪大学総合学術博物館 第 11 回特別展

テーマ：「四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情—洋画家 中村貞夫」

期 間：大阪大学総合学術博物館 2018 年 4 月 27 日(金)～2018 年 7 月 21 日(土)

　　豊中市立文化芸術センター 2018 年 4 月 27 日（金）～2018 年 5 月 27 日（日）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

　　豊中市立文化芸術センター 展示室

主 催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館

　　豊中市、豊中市市民ホール指定管理者、毎日新聞社

共 催：かんさい・大学ミュージアム連携、北大阪ミュージアム・ネットワーク

協 力：畠田家住宅活用保存会、大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：5,010 人（大阪大学総合学術博物館）、2,674 人（豊中市立文化芸術センター）

●記念講演会

5 月 3 日（木）「文明と哲学」鷺田 清一（京都市立芸術大学学長、元大阪大学総長）

「中村貞夫の芸術」橋爪 節也

（大阪大学共創機構社学共創本部/総合学術博物館教授）

座談会：中村 貞夫、鷺田 清一、橋爪 節也

会 場：豊中市立文化芸術センター 多目的室

来場者数：134 名

●ミュージアムレクチャー

6 月 2 日（土）「四大文明への道」

来場者数：63 人

講 師：中村 貞夫

会 場：待兼山修学館 3F セミナー室

6 月 16 日（土）「中村貞夫とその周辺」

来場者数：19 人

講 師：竹中 哲也（大阪大学総合学術博物館研究員）

会 場：待兼山修学館 3F セミナー室

●スペシャルトーク

5月 12日（土）「歴代博物館長、画伯に迫る—“世界四大文明”に寄せて」

来場者数：98人

出 演：中村 貞夫、永田 靖（大阪大学総合学術博物館館長）

肥塚 隆（大阪大学名誉教授）、江口 太郎（大阪大学名誉教授）

橋爪 節也（大阪大学共創機構社学共創本部/総合学術博物館教授）

会 場：待兼山修学館3Fセミナー室

●ワークショップ

5月 20日（日）絵画制作「民族音楽を聴きながら(四大文明をイメージして)」

参加人数：113人

講 師：中村 貞夫

シタール演奏：田中 峰彦（大阪音楽大学講師）

会 場：豊中市立文化芸術センター 多目的室

●ミュージアムコンサート

5月 20日（日）

シタール演奏：田中 峰彦（大阪音楽大学講師）

会 場：豊中市立文化芸術センター 多目的室

●ギャラリートーク

会 場：大阪大学総合学術博物館

6月 9日（土） 参加人数 20人

6月 23日（土） 参加人数 12人

7月 7日（土） 参加人数 14人

会 場：豊中市立文化芸術センター

4月 29日（日） 参加人数 23人

5月 6日（日） 参加人数 24人

5月 13日（日） 参加人数 42人

5月 27日（日） 参加人数 20人

SADAO NAKAMURA

探究の旅、描きとめる熱情



四大文明の源流を求めて 〈特別展〉 洋画家 中村貞夫

[第一会場] 大阪大学総合学術博物館 第11回特別展
描きとめる熱情 洋画家 中村貞夫——その芸術の起源から富士へ

大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館

平成30年(2018) 4月27日(金)～6月30日(土)

開館時間：10:30～17:00（入館は16:30まで） 入場無料

※休館日：日曜日・祝日、ただし4月29日(日)、30日(月・祝)は開館

[第二会場] 描きとめる熱情 洋画家 中村貞夫——世界四大文明の源流を求めて

豊中市立文化芸術センター 展示室

平成30年(2018) 4月27日(金)～5月27日(日)

開館時間：11:00～19:00 入場無料

※休館日：月曜日、ただし4月30日(月・祝)は開館、翌5月1日休館



主催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館、豊中市、豊中市市民ホール指定管理者、毎日新聞社

共催：かんさい・大学ミュージアム連携、北大阪ミュージアム・ネットワーク

協力：畠田家住宅活用保存会、大阪大学21世紀懐徳堂

Designed by Yasumasa Kiba

探究の旅、描きとめる熱情－洋画家 中村貞夫

中村貞夫は、昭和9(1934)年大阪市に生まれ、府立大手前高校在学中に新制作展に初入選し、大阪大学文学部仏文科に進んでからも小磯良平、伊藤繼郎に師事した。昭和44(1969)年に新制作協会会員に推挙され、翌年に安井賞展に出品する。初期の抽象的傾向を見せる作品から中期の『燔祭』など絵具の材質感を意識した重厚な画風を経て、昭和60(1985)年からは『富士』の四季を描いた連作を発表し、大地のような物質感と、ミルクのように白く輝く大画面に雄大な風景を描く画風を確立した。

四大文明誕生の地に滔々と流れる河川の源流を旅し、“水”の流れを描こうと志したのが60歳である。最初は、ナイル川の源流から河口までをたどり、つづいてパキスタンを拠点にインダスシリーズに取り組む。70歳を越えて黄河と対峙した成果は、平成24(2012)年、北京の中国国家博物館での日中国交正常化40周年記念事業「黄河－中村貞夫展」などでも公開された。最後のメソポタミアは政情不安であったが、ノアの方舟伝説が残るアララト山に到達している。

本展覧会は、中村の画業を二会場で公開する。大阪大学総合学術博物館では、学生時代の初期作から中期の作品、富士や四大文明の連作、制作の基礎となったスケッチなどをとりあげ、中村の画業のあり方の根底を問う。豊中市立文化芸術センターでは、四大文明を描いた中村の大作を展示し、その壮大な世界を広く公開する。

混迷する世界情勢の中、人類の文明の根源、そして“光”を求めて世界を旅した美術家が各地で見たものがなにか、二会場約50点の作品と資料で問いたい。

I 記念講演会

日 時：5月3日（木・祝）13時～16時（12時30分受付開始）
場 所：豊中市立文化芸術センター 多目的室
定 員：150名 入場無料 ※応募方法は下記参照
講 演：「文明と哲学」鷺田清一（京都市立芸術大学学長、元大阪大学総長）
「中村貞夫の芸術」橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授、文学研究科兼任）
座談会：中村貞夫、鷺田清一、橋爪節也

II スペシャルトーク「歴代博物館長、画伯に迫る－“世界四大文明”に寄せて」

日 時：5月12日（土）14時～16時（13時30分開場）
場 所：大阪大学会館1F アセンブリーホール（豊中キャンパス内）
※入場無料、当日先着順
出 演：中村貞夫、永田靖（大阪大学総合学術博物館館長）
肥塚隆（大阪大学名誉教授）、江口太郎（大阪大学名誉教授）
橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授、文学研究科教授兼任）

III ワークショップ

日 時：5月20日（日）14時～16時（13時30分受付開始）
場 所：豊中市立文化芸術センター 多目的室
内 容：ミニ講義と絵画制作「民族音楽を聴きながら（四大文明をイメージして）」
講 師：中村 貞夫
シタール演奏：田中峰彦（大阪音楽大学講師）
対 象：小・中学生（保護者同伴可） ※定員100名 ※応募方法は下記参照

応募方法

①往復はがきでのお申し込み
往信面に、住所、氏名、電話番号、年齢、参加希望イベントを、返信宛名面に住所、氏名を明記のうえ、下記までお送りください。
〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 豊中市都市活力部文化芸術課中村貞夫展係

IV ミュージアムコンサート

日 時：5月20日（日）17時～
場 所：豊中市立文化芸術センター 展示室
定 員：約50人 入場無料
シタール演奏：田中峰彦（大阪音楽大学講師）
当日先着順（入場制限を行う可能性があります）

V ミュージアムレクチャー

日 時：①6月2日（土）13時30分～15時（13時開場）
②6月16日（土）13時30分～15時（13時開場）
場 所：大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館3階セミナー室（当日先着順）
内 容：①「四大文明への道」中村貞夫
②「中村貞夫とその周辺」竹中哲也（大阪大学総合学術博物館研究員）

VI ギャラリートーク

豊中市文化芸術センター
4月29日、5月6日、13日、27日（いずれも日曜日）
大阪大学総合学術博物館
6月9日、23日（いずれも土曜日）
※各展覧会場にて 14時より開始

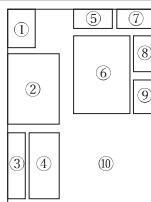
②電子メールでのお申し込み

豊中市ホームページからお申し込みください。

※複数名でお申し込みの場合、同伴者全員の情報をご記入ください。

※記念講演会は4/19（木）、ワークショップは5/2（水）必着
応募者多数の場合は抽選を行います。

表面の作品



- ①《自画像》(部分) 1950年
②《新雪の山》(部分) 2003年
③《アニ遺跡・聖堂内部》(部分) 2014年
④《ゲガルド修道院内部》2014年
⑤《機械》(部分) 1960年
⑥《セリスト》1959年
⑦《風景のコンポジション》(部分) 1952年
⑧《燔祭2》(部分) 1964年
⑨《穴を狙う》(部分) 1956年
⑩《無題1》(部分) 1961年

①、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩は大阪大学総合学術博物館会場にて展示
②、③、④は豊中市立文化芸術センター会場にて展示



[第一会場]

大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館
〒560-0043 豊中市待兼山1-20
Tel.06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp>
阪急電鉄宝塚線・石橋駅より徒歩約10分
大阪モノレール・柴原駅より徒歩約20分



[第二会場]

豊中市立文化芸術センター
〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2
Tel. 06-6864-5000 (10:00～19:00)
阪急電鉄宝塚線・曾根駅より徒歩約5分

報 告

大阪大学総合学術博物館 第11回特別展

「四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情— 洋画家 中村貞夫」

大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

教授 橋爪 節也

大阪大学総合学術博物館は、2013年に企画展「オオサカがとんがっていた時代—戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」を開催し、戦前のモダニズムから戦後の前衛美術に至る大阪の美術の流れを検証したが、大阪の美術は、前衛的な傾向だけで語られるわけではなく、具象絵画に属する画家たちの活躍も見落とせない。中村貞夫もその一人である。大阪大学文学部出身というユニークな経歴をもち、母校の豊中キャンパスや吹田キャンパスには中村の大作が飾られている。本展覧会は、その中村貞夫をテーマに画家本人とも打合せを重ねて開催した、本館における画家一人による初の単独展である。

中村は大阪市西区の鉄工所に生まれた。美術界デビューは高校三年生の昭和27年（1952）で、小磯良平や伊藤継郎に師事して《広場と車庫》《風景のコンポジション》が「新制作展」に初入選した。しかし、美術大学に進まず、昭和24年（1949）に新制大学として発足した大阪大学文学部に進学してフランス文学を専攻する。昭和32年（1957）の卒業論文は、モリエールの喜劇「人間嫌い」の考察であった。

昭和34年（1959）からの《機械》シリーズは、戦前のモダニズムの延長線上にあって、デフォルメされた明快な形態を組みあわせて画面を構成する。昭和36年（1961）からは、生け贋の動物を祭壇上で焼き、神に捧げる儀式から名を取った《燔祭》シリーズを始める。絵の具を盛り上げ、浮き彫りや線刻された装飾古墳の壁画のような、緩やかに動きある幾何学的なフォルムを画面に構成する。

この1960年代の大阪は、EXPO'70大阪万国博覧会開催に向けて活気に満ち、美術界でも、昭和37年（1962）大阪市北区宗是町33（現・北区中之島3丁目）に「具体美術協会」の本拠地「グタイピナコテカ」が開設されている。中村は表現において、具体とは異なるクールに徹した立ち位置をとるが、同時代の大阪の活気もどこかに秘めていたように思われる。

万博前年の昭和44年（1969）に新制作協会会員に推挙され、翌45年（1970）年に安井賞展に出品した。画風が変化するのは1970年代後半である。西行の『山家集』を読んで自然に関心を抱き、大峰山系に分け入って以降、大自然の情景を大きな画面に展開する。昭和57年（1982）の四万十川、土佐海岸のシリーズは、茶色を画面から省き、イエロー・オーカーで描いて絵が輝いているように感じられたという。中村は、表現者である〈自分〉を通過し

ないと〈風景〉は〈画面〉に表現できないと考えていたが、次第に〈自分〉というフィルターを通せば通すだけ、作品が曇る考えるようになる。自然と作品との間に何も挟まない中空の筒のような存在、〈風景〉と〈画面〉をそのまま結ぶ「素通しの筒」としての〈自分〉でありたいと考えるようになった。

昭和 60 年（1985）以降、《富士》のシリーズを発表し、宝塚造形芸術大学（現宝塚大学）教授となった平成 7 年（1995）から「世界四大文明」の連作へ突入する。「エジプト・シリーズ」ではナイル川の源流から河口までの約 6,700 キロを旅行し、つづいてパキスタンを拠点に「インダス・シリーズ」にとりくむ。70 歳を越えて「黄河シリーズ」がスタートし、平成 22 年の兵庫県立美術館「黄河シリーズ」の個展、平成 24 年、北京の中国国家博物館での日中国交正常化 40 周年記念事業「黄河—中村貞夫展」で公開された。最後の「メソポタミア・シリーズ」は、政情不安を乗り越えてノアの方舟伝説のアララト山に到達している。

今回の展示では、「新制作展」に初入選した高校時代の作品から大阪大学時代を経て、独自の抽象に到達した《燔祭》シリーズ、そして自然回帰を果たした四万十川、土佐海岸などの作品から《富士》のシリーズに至るまでを、大阪大学総合学術博物館待兼山修学館で展示し、それ以降の「世界四大文明」の連作を、豊中市立文化芸術センターで展示した。「世界四大文明」は、ひとつの作品でパネル何面にもなる巨大でダイナミックな作品群である。

展覧会場を二会場に分けたのは、「世界四大文明」の物理的な大きさの問題があったことにもよるが、一つの文化芸術催事を大学と自治体が協力して実現できたことにも大きな意義があったと評価できる。両会場では、座談会やワークショップ、コンサートなど、中村芸術の本質に迫る様々なイベントも開催された。



展覧会に際しては、大阪大学総合学術博物館叢書 15『精神と光彩の画家 中村貞夫—搖籃期から世界四大文明を超えて—』（橋爪節也・竹中哲也著、2018 年、大阪大学出版会）も刊行されている。なお、橋爪は本展直前に刊行された『中村貞夫画集』（第 10 卷所収、2018 年 2 月）に、論攷「Sadao.N 中村貞夫の藝術 四大文明から大阪風景への回帰。モダニズムの継承としての一」を掲載した。

なお今回は展示されなかつたが、「四大文明」以降、中村はクリスマス・イブに見た、堂島河畔で 80 号を描く夢にインスピレーションを得て「大阪風景シリーズ」に着手している。

「大阪の川、大阪の山、大阪湾、大阪の街など。春夏秋冬、朝から夜まで」を俯瞰図、鳥瞰図の大画面に描いて大阪の骨格を掴み取りたいとし、大阪大学総合学術博物館に展示された学生時代の大阪風景と重ねて、それらが己の画歴の「小さな円形の軌跡」となることを期待すると語っている。

2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 第12回特別展

The Mineral World

人と鉱物のつむぐ物語

概 要

大阪大学総合学術博物館 第12回特別展「The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語」を2018年10月22日（月）から12月21日（金）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

本展覧会では、石の“ふしき”に魅せられてきた人類の歴史と発展を東西の石の研究史から紐解き、主要な鉱物学者たちを紹介した。エピローグとして、現代そして未来の鉱物学を紹介し、最先端の鉱物研究と活用・日本が世界に先駆けて成功した惑星探査“はやぶさ”における宇宙鉱物学の成果を本学の成果を絡めて展示した。本展覧会の期間中の来場者は、4,450名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第12回特別展

テーマ：「The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語」

期 間：2018年10月22日（月）～ 2018年12月21日（金）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

後 援：産経新聞社

協 力：石見銀山資料館、公益財団法人益富地学会館、有限会社翠宝堂、国立極地研究所
宇宙航空研究開発機構、京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室、

大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター、

京都造形芸術大学、平賀源内記念館、株式会社海洋堂、大阪大学21世紀懐徳堂

入館者数：4,450人

〈ミュージアム・レクチャー〉

【会 場】大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

【定 員】各30名

11月3日（土）「“石”と人との物語—鉱物の活用と人類の発展—」

来場者数：44名

講 師：石橋 隆（公益財団法人 益富地学会館 研究員／
大阪大学総合学術博物館 博物館研究員）

11月4日（日）「石を見つけよう!!—鉱物ハンティングの楽しみー」

来場者数：50名

講 師：藤浦 淳（鉱物ハンター／産経新聞大阪本社編集企画室企画担当長）

11月17日（土）「鉱物コレクションと展示—日本、欧米、中国の博物館を例としてー」

来場者数：26名

講 師：豊 遙秋（元産業技術総合研究所 地質標本館館長／地球科学者
／理学博士）

12月15日（土）「美術にみる石—素材以上に魅力を放つ存在感と力ー」

来場者数：52名

講 師：横谷 賢一郎（大津市歴史博物館 学芸員）

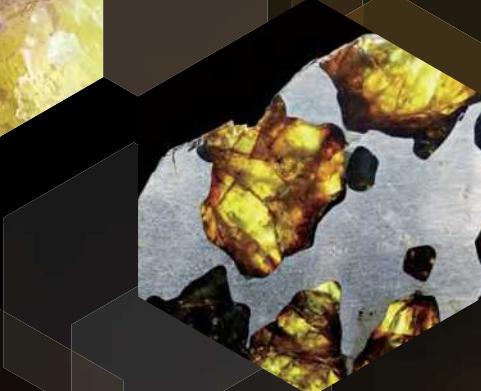


大阪大学

大阪大学総合学術博物館 第12回特別展

The Mineral World

人と鉱物のつむぐ物語



日 時：2018年10月22日(月)～12月21日(金)

10:30～17:00(入館は16:30まで)

※休館日：日曜日・祝日 ※11月3日(土・祝日)、4日(日)は開館(10:00～17:00)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

入場料：無 料

主 催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

後 援：産経新聞社

協 力：石見銀山資料館、公益財団法人益富地学会館、有限会社翠宝堂、国立極地研究所、宇宙航空研究開発機構、

京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室、大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター、

京都造形芸術大学、平賀源内記念館、株式会社海洋堂、大阪大学 21世紀懐徳堂

本展覧会には、日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(A)16H05900、基盤研究(B)17H02293)による研究の成果の一部が含まれる

Zone 1 プロローグ～人と鉱物～

《注目展示》

日本の国石“翡翠(ヒスイ)”の展示

人類の文明の発展は“石”的活用と共にある
“石”について
鉱物の研究史

Zone 2 東洋、日本における鉱物の研究史 ～本草学から鉱物学へ～

《注目展示》

江戸期に石見銀山で採掘された銀鉱石(関西初公開)
平賀源内作の火浣布

本草学

日本における本草学(江戸期)

前明治時代の日本の鉱業資源の活用

Zone 3 大阪大学の鉱物標本 ～研究者の足跡をたどる～

《注目展示》

大阪大学総合学術博物館の鉱物標本展示
(大阪高等学校旧蔵標本、竹林コレクションなど)

大阪大学が所蔵する鉱物標本について

大阪の大地から産する鉱物

大阪大学にゆかりのある研究者が発見した新鉱物
ならびに研究者に献名された新鉱物

Zone 4 鉱物の宝庫“地球”～地球から宇宙へ～

《注目展示》

火星や月を起源とする隕石(国立極地研究所蔵)

鉱物の宝庫 地球の姿

地球と人類の未来 限りある資源としての鉱物の利用

写真 上から順に

1. 翡翠製の勾玉(翠宝堂所蔵)
2. 石見銀山の銀鉱石・福石(江戸時代に採集、石見銀山資料館所蔵)
3. 塩石・植田コレクション(大阪大学総合学術博物館所蔵)
4. 石鉄隕石(アリに落下、益富地学会館所蔵)

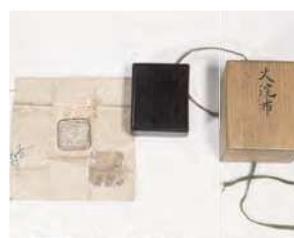
The Mineral World



火星起源隕石
(国立極地研究所所蔵)



ハウトイエン著『自然誌』
(18世紀、オランダ、個人蔵)



平賀源内作・火浣布
(京都大学図書館蔵)

- 《展示構成》 1) プロローグ～人と鉱物～
2) 東洋、日本における鉱物の研究史～本草学から鉱物学へ～
3) 大阪大学の鉱物標本～研究者の足跡をたどる～
4) 鉱物の宝庫“地球”～地球から宇宙へ～

平賀源内肖像画(平賀源内記念館所蔵)

Museum Lecture 《ミュージアムレクチャー》

会場：大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館3階セミナー室
定員：30名 参加費：無料
時間：いずれも14:00～15:30
(入場受付は30分前から開始)

申込不要
先着順

※小学生は必ず保護者同伴のこと
※ミュージアムレクチャー終了時にギャラリートークを実施

11月3日(土・祝)「石」と人との物語－鉱物の活用と人類の発展－

講師：石橋 隆 公益財団法人 益富地学会館 研究員 / 大阪大学総合学術博物館 博物館研究員

地球の豈みの中で誕生した鉱物から、有用な金属などを取り出して活用することで人類の文明は発展しました。現在の高度な文明も鉱物をはじめとする地下資源の恵みなくして成り立ちません。我々にとって不可欠な鉱物とはどのようなものかを解説し、近世における金属活用の一例として、大阪大学が調査中の『石見銀山』に遭された江戸時代の銀鉱石の研究成果などを紹介します。

11月4日(日) 「石を見つけよう!!－鉱物ハンティングの楽しみ－」

講師：藤浦 淳 鉱物ハンター / 産経新聞大阪本社編集企画室企画担当部長

小学6年生の秋の遠足が私の人生を決めた。ガーネットの結晶を探そうという課題に私は懸命になり、そして見つけてしまった。大地の星を。それ以来、鉱物を愛し、結晶に魅せられて40年、これまでの“ちょっとした発見エピソードを通じてお宝探しの魅力を語ります。

11月17日(土) 「鉱物コレクションと展示－日本、欧米、中国の博物館を例として－」

講師：豊 遙秋 元産業技術総合研究所 地質標本館館長 / 地球科学者 / 理学博士

大阪大学総合学術博物館には、約2,000点の鉱物標本が収蔵されており、豊遙秋博士によって整理が進められました。博士は豊富な記載鉱物学の経験を生かして、これまで多くの国立大学や自治体が収蔵する鉱物標本の整理をしておられます。日本のみならず、海外の博物館における鉱物コレクションとその展示について講演していただきます。

12月15日(土) 「美術にみる石－素材以上に魅力を放つ存在感と力－」

講師：横谷 賢一郎 大津市歴史博物館 学芸員

石は、その硬度や耐久性、永続性ゆえに、文明の初期段階から、道具や利器の素材とされてきました。しかし、同時に、石自体に靈性や魅力を感じて、それ自体を活かした美術品に取り上げてきた歴史が人類には、あります。今回は、東洋美術を中心にして、作品にみる魅力的な石を紹介します！

Access 《アクセスマップ》

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分

※公共交通機関をご利用ください。



 大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館
Museum of Osaka University

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel: 06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>


国立大学2018

報 告

大阪大学総合学術博物館 第 12 回特別展

「The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語」

大阪大学総合学術博物館

特任講師(常勤) 伊藤 謙

【開催趣旨】

人類は「石」とともに文明を育んできた。石器の使用や石造建築物の建設に始まり、やがて鉱物から金属を抽出して生活から装飾、祭祀にいたるまで文明の隅々にこれを利用してきた。産業革命を経た現代社会においてその重要性はますます大きくなり、いまやその関心は地球外惑星の資源にまで向けられている。本特別展はこうした人類と石、鉱物の不可分の関わりを明らかにするため、古代文明を皮切りとして本草学や日本の鉱業、標本の歴史などを主に国内文化の視点から説き起した。そして最先端の鉱物学である“宇宙鉱物学”研究を代表する日本の惑星探査機「はやぶさ」の成果への理解につなげるための展示を試みた。

【展示と詳細】

会場を 4 つの展示ゾーンに分け、「人と鉱物」、「東洋、日本における鉱物の研究史～本草学から鉱物学へ～」、「大阪大学の鉱物標本～研究者の足跡をたどる～」、「鉱物の宝庫 “地球”～地球から宇宙へ～」として、歴史的な経過をたどりつつ分野別に理解が進むよう展示を工夫した。

また木内石亭（1724～1808）や平賀源内（1728～1780）、益富壽之助（1901～1993）など近世から現代にかけて鉱物収集や研究に携わった人物について紹介し、その業績を顕彰した。

各ゾーンには、当館所蔵の鉱物・岩石・化石標本をはじめ、公益財団法人益富地学会館（京都市）、国立極地研究所（東京都立川市）、石見銀山資料館（島根県大田市）、糸魚川市教育委員会など各地の研究所や資料館、個人が所蔵する貴重な標本を展示了。また JAXA の協力を得て、小惑星イトカワの岩石サンプルを持ち帰った探査機「はやぶさ」の模型の貸与を受けて、見ごたえのある展示とした。

「人と鉱物」一石器や古代の精錬に用いられた石や鉱物、顔料や陶磁器の原材料としての鉱物、文明の中で特徴的な位置を占める宝石としての鉱物を紹介した（展示例：黒曜石、自然銅、孔雀石、ハロイサイト、ヒスイなど）。

「東洋、日本における鉱物の研究史」一貝原益軒（1630～1714）の「大和本草」や寺島良安（1654～？）の「和漢三才図会」などの江戸期の著作や、大変貴重な平賀源内制作の燃えない布「火浣布」の実物などを展示して江戸期の本草学者の足跡をたどり、その鉱物分類や研究を紹介した。また江戸期を代表する鉱物学分野の本草学者である木内石亭の「雲根志」から明治黎明期の学者・和田維四郎（1856～1920）までの系譜をたどることで日本の“鉱物学”の成り立ちを追った。

さらに 2007 年に世界文化遺産に登録された石見銀山資料館（島根県大田市）で、伊藤が見出し、石橋隆博物館研究員や石見銀山資料館と共同・研究を実施してきた江戸期の鉱物標本

を柱に、生野銀山（兵庫県）や別子銅山（愛媛県）の絵図、中世から近世の貨幣などを展示して、産業としての国内での鉱工業の歴史をたどった。石見標本発見を1面トップで報じた産経新聞大阪本社版夕刊（2017年5月19日付）も紹介した。

「大阪大学の鉱物標本」一本学博物館が所蔵する鉱物・岩石・化石のコレクションの中から代表的なものを展示、これらに付随する島津製作所や大阪高等学校など古典的なラベルにもスポットを当てた展示を行った。また地域の紹介として、大阪で見いだされる鉱物を展示し、来館者に鉱物や石を身近に感じてもらえるよう工夫した。さらに本学ゆかりの研究者が発見した新鉱物なども紹介した。

「鉱物の宝庫“地球”」—古くから存在の知られていた隕石から最先端の研究成果までを紹介した。特に隕石の宝庫とされる南極での発見にスポットを当て、隕石の展示を通じて、火星など隕石の起源などを解説。併せて、本学の教員が研究の一端を担っている小惑星探査機「はやぶさ」における最先端技術と宇宙鉱物学研究の成果を紹介して、ロマンあふれる宇宙の姿を浮かび上がらせた。

【研究のアウトリーチとしての展覧会】

昨今、大学教職員の社会貢献の必要性が重要視され、教育や研究のアウトリーチ活動が必須となっている。本学博物館では研究や教育のアウトリーチの場として、博物館を活用しており、その方法は展覧会、シンポジウム、ミュージアムレクチャーと多岐に渡っている。



本展覧会でも、そのような研究の成果の展示を志向した。具体的には、伊藤が代表者を務める日本学術振興会科学研究費補助金「若手研究(A) 16H05900 「石薬（鉱物・化石由来生薬）の本草博物学的考察に基づくマテリアルサイエンスの構築」、および伊藤が分担者を務めている基盤研究(B) 17H02293「木村蒹葭堂“知”的ネットワークの解析—絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成—」における研究成果の一端を紹介した。

展示には、前述した石見銀山の鉱物標本に加え、本研究で研究を実施してきた“石薬”的展示を実施した。さらに、2つの科研の共通のテーマである明治以前の博物学ともいえる『本草学』に焦点をあて、木村蒹葭堂（1736～1802）、木内石亭、平賀源内の3名の本草学者特に焦点をあてて紹介した。

木村蒹葭堂については、蒹葭堂の師であり江戸期を代表する本草学者である小野蘭山と蒹葭堂の書簡（博物館資料部にて研究中の資料）について、鉱物について言及している部分を公開した（初公開）。江戸時代を代表する鉱物学者といえる木内石亭については、彼の著作「雲根志」に登場する鉱物・化石たちを、現物の資料と併せて展示することを実施した。これにより江戸期の鉱物への理解と現代の鉱物への解釈の異なる部分が視覚的に明らかになり、見る者の興味をそそる魅力的な展示となったと自負している。さらに、多芸多才な天才

的発明家でも知られる平賀源内と鉱物の関りについての展示も実施した。平賀源内は鉱物についても幅広い知識を有する本草学者であり、秋田や摂津において鉱山開発にも従事していた。秩父山中で発見したアスベストを使用して、燃えない布『火浣布』を制作しており、その実物（京都大学図書館所蔵）を制作に使用した鉱物と並べて展示した。

加えて、研究の一環として資料部が実施した本館所蔵の鉱物標本の整理・調査についての成果の公開も実施した。2005年からの豊遙秋（1942～）の調査に加え、2016年から本館資料部が実施した追加調査により、本館に保管されている鉱物コレクションは、約500種、2000点にのぼる標本が保管されていることが判明した。これらの標本の中で、特筆すべきものについて展覧会において紹介した。

さらに本コレクションは、戦前に教育用として、戦後は個人コレクションの寄贈によって形成されていることがわかるなど、その収集の経緯も明らかになった。その中で、正倉院の石薬研究で著名であり、本学講師も務めた益富壽之助がコレクション形成に重要な役割を担ってきたことも判明した。これらの経緯についても、展覧会で解説を実施した。

さらには、博物館以外の本学教員の研究成果の展示も実施した。宇宙鉱物学の展示エリアにおいて、本学理学研究科基礎理学プロジェクト研究センター・豊田岐聰教授が開発した小型・高分解能のマルチターン飛行時間型質量分析計（MULTUM）を紹介した。これは、我が国の宇宙探査において将来使用される予定の分析機器であり、伝統ある大阪大学質量分析学教室の英知の結晶ともいえる高性能な機器である。

【教育の場としての展覧会】

大学博物館の重要な機能の一つが『教育』である。本展覧会においても、教育の場としての活用を試みた。

第1には、学生の展覧会への積極的な関与である。本展覧会においては、企画の段階から資料部で2か年に渡り鉱物標本整理の補助を担ってきた学生に参画を促し、具体的な展示内容などについての意見交換も実施してきた。もちろん展覧会の設営などにも、これらの学生には参加してもらい、展覧会を実習の場として活用することができた。参加した学生には、学芸員を志すものも複数おり、そのような学生の実績作りの場としても有効であったと感じている。

第2には、展覧会とそれに関連する事象をファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development、FD）の一環として本学博物館が実施している新任教員研修に取り入れたことである。座学と併せ、実際の展覧会を見学することで、大学博物館を活用したアウトリーチ活動実践についてのアプローチを紹介し、そのメソッドや考え方を習得することを志向した。

【まとめ】

本展覧会では、本館が『大学博物館』であることを最大限生かし、①本館所蔵する資料の紹介、②本学の研究の紹介、③教育の場としての大学博物館の活用、の3点について、ある一定の成果をだすことができたと自負している。これらの実践には、周囲の協力者の助けが不可欠であった。永田靖館長以下、館員各位に心より感謝申し上げる次第である。

3. 大学を活用した文化芸術推進事業

記憶の劇場Ⅲ
大阪大学総合学術博物館
－大学博物館における
文化芸術ファシリテーター育成プログラム－

概 要

大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」－大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラムを2018年7月28日（土）から2019年3月9日（土）の間、開催した。アートマネジメント人材育成講座として、文化庁「大学における文化芸術推進事業」の助成を受けた講座で、36名の受講生を迎えた。全体に関わる講座（活動①）と、それぞれの担当講師の特色を持った6つの講座（活動②～⑦）をおよそ9ヶ月にわたり開催した。プログラムの最後には作家を招き、ともに展覧会を開催した。本展覧会の会期は2週間足らずにもかかわらず期間中には506名もの来場者があり、好評であった。

「記憶の劇場Ⅲ」

大阪大学総合学術博物館－大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成講座

期 間：2018年7月28日（土）～2019年3月9日（土）

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院文学研究科

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館建設準備室、
公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）、豊中市都市活力部文化芸術
課、能勢淨るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、公
益財団法人益富地学会館

助 成：平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

協 力：大阪大学21世紀懐徳堂

年間活動：

活動① 「「記憶の劇場Ⅲ」オープニング講座」、セミナー「関西のアートシーンと将来」・
博物館オリエンテーション、「クロージング・シンポジウム」

2018年7月28日（土）、2018年9月22日（土）、2019年3月9日（土）／講座内容：
オープニング講座、オリエンテーション、セミナー、博物館見学・実習、シンポジウム

活動② 「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」

2018年8月5日（日）、2018年9月1日（土）、2018年10月13日（土）、2018年10
月27日（土）、2018年11月25日（日）、2019年1月4日（金）、2019年1月15日
（火）、2019年2月3日（日）／講座内容：座学、トークイベント、フィールドワーク、
合評会、発表会

活動③ 「自然科学に親しむ・触る・アートする～身のまわりの鉱物～」

2018年9月16日（日）、2018年9月29日（土）、2018年10月7日（日）、2019年1月
15日（火）～27日（日）／講座内容：座学、実習、展覧会

活動④ 「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」

2018年8月5日（日）、2018年8月11日（土）、2018年9月8日（土）、2018年9月
18日（火）、2018年11月1日（木）、2018年11月15日（木）、2018年11月24日（土）、
2018年12月22日（土）／講座内容：座学、会場視察、上映会、トークイベント

活動⑤ 「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」

2018年10月6日（土）、2018年12月1日（土）、2018年12月15日（土）、2019年1
月12日（土）、2019年1月31日（木）、2019年2月1日（金）、2019年2月2日（土）、
2019年2月3日（日）／講座内容：資料閲覧、展覧会、ワークショップ、上演

活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」

2018年7月7日（土）、2018年7月8日（日）、2018年8月11日（土祝）、2018年9月1日（土）、2018年9月17日（月祝）、2018年10月7日（日）、2018年10月8日（月祝）、2018年10月14日（日）、2018年10月20日（土）、2018年10月28日（日）、2018年11月17日（土）、2018年11月25日（日）、2018年12月23日（日）、2019年1月12日（土）、2019年2月8日（金）／講座内容：上演、トークイベント、上映会、演奏会、講演、鑑賞会、ワークショップ

活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」

2018年7月29日（日）、2018年8月4日（土）、2018年8月5日（日）、2018年9月11日（火）～16日（日）、2018年11月8日（木）／講座内容：準備講座、展覧会、トークイベント、ワークショップ

記憶の劇場Ⅲ

大阪大学総合学術博物館

大学博物館における文化芸術アンリテーター育成プログラム

記憶の劇場Ⅲ 展覧会



前田剛志展 ——明日の記憶

2019.2.26火→3.9土

〔開館時間〕 10:30~17:00 (入館は16:30まで)

〔休館日〕 日曜日

入場無料

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学文学研究科

連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール／大阪中之島美術館準備室／公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）

豊中市都市活力部文化芸術課／能勢津るりシアター／兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）／公益財団法人益富地学会館

助成：平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

協力：大阪大学 21世紀懇徳堂

<https://kiogeki.org/>



大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場 III」 社会と大学との協奏を生かしたリサーチ型ミュージアムの探求

本展覧会は、大阪大学総合学術博物館が主催し、近隣の劇場・音楽堂・美術館等とも共同して開催してきた、文化芸術ファシリテーター養成プログラム「記憶の劇場 III」の成果を公開するものです。この「記憶の劇場」は、博物館に收められているいわゆる〈ミュージアム・ピース〉の豊かさを引き出し、〈生きたアート〉として公開していく文化芸術ファシリテーターの育成を目指す講座です。受講されたのは、文化芸術に関心のある社会人を中心とした方々で、それぞれが6つの活動を選択し受講してきました。

本プログラムは、従来博物館が収集、維持保存し、研究してきた〈ミュージアム・ピース〉を現代社会に適合させ、それを〈生きたアート〉として現代市民社会に開き、また大学博物館としての強みを生かし、文理融合的あるいは基礎研究的な潜在力と連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方をさらに探求するものとして始まりました。本展覧会は、このプログラムに参加された受講生が、美術家の前田剛志さんとともに開催いたします。なお、本展覧会は「記憶の劇場 芸術祭」の一環として行われます。

「美術家・前田剛志による ギャラリートーク」

展覧会会場にて、前田剛志さんによる
ギャラリートークを実施します

3月2日(土)11:30~、14:00~(各回約30分)

*2月27日(水)にも在廊、
作品解説をしていただけます

会場：展覧会会場
(大阪大学総合学術博物館待兼山修学館3階)

展覧会「記憶の劇場III」に寄せて

本展は、活動の成果発表の場であると共に、受講生が
ファシリテーターとなって企画運営する美術展です。私は
展示物として作品を提供し、受講生はどの作品をどう見
せるかを検討します。

「何らかの物質や媒体に記録された物・事・言葉があ
るとして、そこに意・気を照射した瞬間の、にわかに煌めき。
これを記憶と呼ぶなら、美術作品は記憶の結晶である」
作品制作において私自身を律するためのこの文言を、
意識の深化を期待して受講生にも投げました。その反響
がどのような形に結びつくかを楽しみにしつつ、本展が、未
知なるものの発見から起こる興奮、自
身の知識・経験との重なりから生まれ
る共感、このふたつを同時に体験できる
劇場となる事を願っています。



前田 剛志 (まえだ たけし)

美術家。一九七七年生まれ。

奈良県香芝市出身。明日香村在住。

京都市立芸術大学太学院美術

研究科造形構想専攻修了。

École nationale supérieure

des beaux-arts (パリ国立高等

美術学校)へ留学。パフォーマンス、

映像、メディアアートの分野での

活動を経て、二〇一一年以降は

絵画と造形作品を中心に制作

活動を行っている。これまで、仙

台メディアテーク、金沢21世紀美

術館、宮島リバーフォーラム「堂

島リバーアワード2016」など

で作品を発表。メディアアートコ

ニットの活動として、京都国立

近代美術館「生存のエンシグス」、

中国・深圳画院「深圳国際水墨

双年展」に出演。音楽家のコラ

ボレーションでは、シアターピース

「生命の舟」、「モノオベラ 邪宗門」

などの舞台映像を担当。

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel.06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急電鉄 宝塚線 石橋駅(徒歩10分)

お問い合わせ：<https://kiogeki.org/contact>

大阪大学総合学術博物館



報 告

大阪大学総合学術博物館

「記憶の劇場Ⅲ」

—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム

大阪大学総合学術博物館

特任研究員 山崎 達哉

大阪大学総合学術博物館では、文学研究科と共に、文化庁「大学における文化芸術推進事業」の助成を受け、平成28年度より「大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」として「記憶の劇場」を開催している。平成30年度にも「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラムとして開催した。3年間のプログラムとした「記憶の劇場」は、平成30年度の開催が最終年度となつた。このプログラムは、アートマネジメントの人材を育成する講座として開いており、社会人を中心に学生も参加した。プログラムは、①博物館の〈ミュージアム・ピース〉を〈生きたアート〉として公開する、②地域社会との協奏による芸術実践の試みと基礎研究を連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方の探求、③文系理系を横断しつつ多様な文化芸術領域に柔軟に対応できる“ジェネラリスト”人材の育成、という3つの理念のもとで推進された。これらの理念を共有しつつ幅広い芸術領域に対応できるよう、様々なプログラムを用意し、1年を3期に分けた。第1期は座学中心の学習期間、第2期を具体的な研修を行う期間とし、続く第3期に研修成果を大学博物館にて展示する期間として設定した。受講者には、多ジャンルの文化芸術プログラムに対応できるよう、「記憶」という共通のテーマのもと、大阪文化、鉱物、現代音楽、演劇、震災・芸能、アーカイヴという6つの個別の講座と、共通セミナー・博物館オリエンテーションといった全体に関わる講座の全7つの講座を用意した。受講生はそれぞれ6つの講座に分かれ、フィールドワークやワークショップなどを受講し、映像の撮影や上演にかかる運営などの実践も行った。同時に専攻講座以外にも参加することで、多様な文化芸術領域に触れる機会を得た。

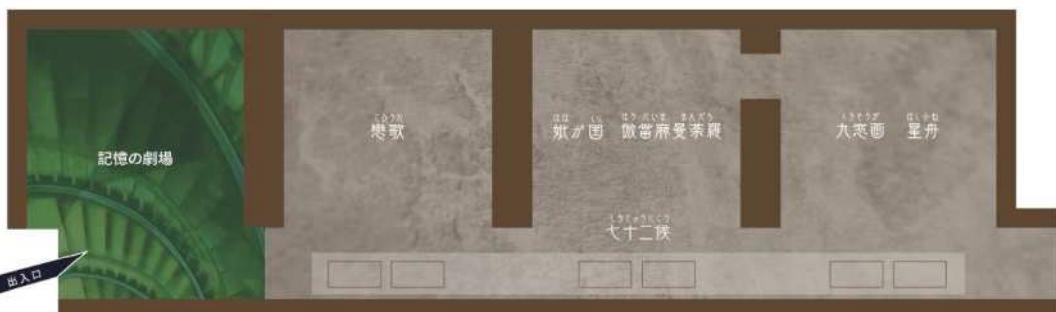
第3期にあたる期間には、約1年間のプログラムの成果発表の場として、また3年間の「記憶の劇場」の集大成として、美術家の前田剛志を迎えて、本プログラムの受講生とともに展覧会をつくりあげた。前田剛志は、京都市立芸術大学大学院美術研究科造形構想専攻を修了し、École nationale supérieure des beaux-arts（パリ国立高等美術学校）へ留学経験のある美術家であ



「展覧会「記憶の劇場Ⅲ」」パンフレット（デザイン：濱村和恵）

る。パフォーマンス、映像、メディアアートの分野での活動を経て、2011年以降は絵画と造形作品を中心に制作活動を行っている。これまで、様々な場面で作品を発表し、メディアアートユニットの活動や音楽家とのコラボレーションでは、舞台映像を担当するなど、多様な場面で活動している。このように、前田は様々な芸術ジャンルに精通しており、かつ「記憶」をテーマに創作している作家であり、多ジャンルを横断している

「記憶の劇場」において、最適な作家であったといえる。そのような前田の作品をどのようにみせるか、受講生は検討・議論を重ね、展覧会を準備し、「記憶の劇場Ⅲ」展覧会 前田剛志展——明日の記憶」を開催した。また、展覧会をより充実させるため、受講生の発案により、作家によるギャラリートークや、受講生による展示解説なども行った。なお、本展覧会は、第2期において各活動が学内外で上演や展覧会などを展開した「記憶の劇場 芸術祭」の締めくくりとして位置付けられていた。展覧会場である待兼山修学館3階多目的ルームを大きく2つの部屋に分け、「記憶の劇場Ⅲ」の活動報告の部屋と、前田剛志の作品を展示する部屋とした。



「展覧会「記憶の劇場Ⅲ」」パンフレットより、部屋割（©濱村和恵）

前述の通り、展覧会「記憶の劇場Ⅲ」は、「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラムにおける7つの講座のコンセプトと内容を紹介するとともに、1年間の講座の成果報告の場として、また受講生が前田剛志とともに展覧会をつくる場として開催された。展覧会「記憶の劇場Ⅲ」の会場は大阪大学総合学術博物館待兼山修学館多目的ルームを使用した。

展覧会「記憶の劇場Ⅲ」最初の部屋は「記憶の劇場」から始まった。この部屋では、7つの活動それぞれの1年間の成果を、パネルを中心に報告された。活動②～⑦については、担当講師と受講生とが相談し、1年間の活動で何が行われたかの報告があった。それぞれを簡単に紹介したい。活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」では、2回の乗船による講習と「KARAHORIZM 空堀主義—なぜパリ祭と“俄（にわか）”？」



第1室「記憶の劇場」展覧会入り口

／蓄音機で町家ザンマイー」などの報告と、受講生自らの手によってつくられた冊子「ここからほり」の配布を行った。活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」からは、陶芸や顔料についての実習を行い、展覧会「石を感じる～memory×sense～」の報告を行った。活動④

「モノローグ・オペラ『新しい時代』上 映会の制作」では、昨年度 17 年ぶりに上演された『新しい時代』の記録映像を活用した上映会の報告があった。パネル以外にも、上映会での感想を上演映像のダイジェストとともに提示する試みを行った。活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol. 3」では、「森本薰関係資料」を調査、研究して、「森本薰と『女の一生』」と題した展覧会と演劇公演『まだまだ生きてゐる』を行った旨の報告があった。活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」では、震災、芸能、ジャズ、などにおける、伝えることを考える講座を実施した。受講生による企画も開催し、昔ばなしにおける、伝えることについても考察できた報告もあった。活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」では、過去 2 年間の取り組みから、維新派を題材に開催した展覧会「3 つの『Re』をめぐって—維新派という地図をゆく—」とその関連企画について報告された。

第2室からは、前田剛志の作品を展示する部屋となった。受講生は展覧会開催に向けて、前田のアトリエを訪問したり、前田と打ち合わせを重ねたりして、作品の理解を深めていった。展示した作品は、受講生と作家による検討と議論により、『七十二候』、『戀歌』、『妣が国 倣當麻曼茶羅』が選ばれた。また、本展覧会のための新作として『九窓画 星舟』も用意された。作品を展示するにあたり、作品にこれまでにない印象を加え、新しい価値を提示できるよう、壁紙の選定や作品の配置場所の検討も受講生によって行われた。



第2室「記憶の劇場」活動報告パネルなど



『七十二候』展示の様子 (撮影 前田剛志)

『七十二候』は、古代中国で発祥し奈良時代に日本に伝えられた暦法のひとつ、七十二

候から着想し、自然や歳時記、稻作、祭祀や儀礼などから蒐集された題材を元に、それぞれの候に形と色が与えられた七十二個の造形作品群である。作品には、それぞれの候の名前が充てられている。本展覧会では、活動②～⑦に関連させた作品を受講生が選び、展示了。活動②では、舟と建物（家）の埴輪を象った2点（「玄鳥至」、「朔風払葉」）を展示了。活動③では、鉱物・石に関連深い作品4点（「土脉潤起」、「菜虫化蝶」、「土潤溽暑」、「天地始肅」）を選んだ。活動④では、『新しい時代』上演・上映の軌跡を辿り、「葭始生」（2000年初演の初日4月22日）、「閉塞成冬」（2017年再演の初日12月8日）、「乃東生」（2018年再演記録映像の上映最終日12月22日）の3点を選んだ。活動⑤では、森本薰『女の一生』の主人公・布引けいに関係させ、「家」をテーマに4点（「半夏生」、「大雨時行」、「雷乃収声」、「虹藏不見」）展示了。活動⑥では、新年を祝う芸能、農耕における暦、巡る季節をイメージして4点（「蚕起食桑」、「熊蟄穴」、「鱖魚群」、「桃始笑」）を選んだ。活動⑦は劇団維新派を想起させ、維新派の記憶とつながる作品を3点（「竹筍生」、「禾乃登」、「鶴鳴」）選び、展示了。なお、『妣が国 倭當麻曼荼羅』と同じ空間には、前田が特別に選んだ6点（「蓮始開」、「蟋蟀在戸」、「温風至」、「東風解氷」、「鷹乃學習」、「霜止出苗」）も展示された。



『戀歌』（左）と『妣が国』（右）展示の様子 （撮影 前田剛志）

『戀歌』は、万葉集の挽歌（万葉集 三三二九）から着想を得て制作された。大和葛城山の頂から、眼下に広がる黄昏時の大阪と奈良の広い眺望、とりわけと飛鳥を結ぶ日本最古の官道といわれる街道付近を背景の中心として、過去と未来をつなぐ童たちが歌をうたう様子が描かれている。

『妣が国 倭當麻曼荼羅』は、中将姫の伝説に感化され制作された作品で、妣は「はは」と読み、亡き母という意味を持つ。「幼くして母を亡くし、自らも母になることなく入滅した中将姫は、二重の意味で母を失った」という視座から、中将姫の求めた浄土が「妣が国」として描かれている。「倭當麻曼荼羅」とあるように、画面の構図や菩薩の配置は、當麻寺（奈良県葛城市）に伝わる當麻曼荼羅の阿弥陀浄土図（玄義分）が正確に写されている。一方で、菩薩の姿は代々の妣が集合する姿として描かれる、二上山・大和葛城山を遠景としているなど、固有の風土と伝説が結びつく時と場が表現されている。

『九窓画 星舟』は「明日の記憶」という主題から着想を得て制作された新作で、「明



『九窓画』展示の様子（撮影 前田剛志）

た。それ以外にも前田本人が在廊し解説をする日を1日（2月27日（水））設定した。

本展覧会では、様々な分野・領域における文化芸術に関する講座の成果を報告するだけでなく、それらの知見を培った受講生によって現代作家をファシリテートした内容となつた。展覧会開催に向けて、受講生が中心となり、それぞれの講座を振り返り、まとめるとともに、実際の展示準備や展示方法にまで携わった。特に、美術家・前田剛志と受講生とが協力して、展覧会をつくりあげることができたのは、本プログラム最終年度の十分な成果といえる。本プログラムにおいて、多様な文化芸術領域のファシリテートに柔軟に対応できる力を育んだだけでなく、実際にアーティストと折衝をし、新しい展覧会を実践できた。「記憶の劇場」は、様々な芸術を提供し、アーティストと交渉を重ねる機会を持ち、展覧会に結実させるという実践的なプログラムであったといえ、大学博物館の可能性を十分に広げることができたであろう。

日に記憶を繋げる」という意思と、「明日を記憶する」という構想に挑んだ作品である。9つの円窓を枠組みとして、雲海と樹海、都市、植物、鉱物、星の光の双方向の視点など、窓から覗く様々な景色を想像させる作品となっている。

展覧会期間中には、前田剛志本人によるギャラリートークを設定した（3月2日（土）11:30～と14:00～の2回）。受講生が進行を務め、各回の来場者は20名を越え、好評であつ



ギャラリートークより

4. シンポジウム報告

＜具体＞再考 第3回 大阪と前衛美術

概 要

シンポジウム

テーマ：「<具体>再考 第3回 大阪と前衛美術」

日 時：2019年1月6日(日) 14:00～17:50

会 場：大阪大学中之島センター3階 講義室304

主 催：大阪大学総合学術博物館

来場者数：110人

プログラム：

【発 表】

14:00～14:05 趣旨説明 加藤瑞穂（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

14:05～14:50 橋爪節也

(大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館、文学研究科教授)

「大大阪の時代と前衛絵画——前田藤四郎の場合」

14:50～15:35 竹内幸絵（同志社大学社会学部教授）

「吉原治良の『広報』と『廣告』」

15:50～16:35 今井祝雄（美術家、成安造形大学名誉教授）

「都市大阪の感性——〈具体〉とその後」

【討 議】

16:35～17:50



食 文化 博 物 館



第3回 大阪と前衛美術

2019年1月6日[日] 14:00—17:50
大阪大学中之島センター3階 講義室304
定員80名 聴講無料、事前申込み不要、当日先着順
(13時15分より整理券を配布します)

[会場・交通案内]

大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53
tel. 06-6444-2100

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

- ◎京阪中之島線・中之島駅（6番出口）より徒歩約5分
- ◎京阪中之島線・渡辺橋駅（1番出口）より徒歩約5分
- ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
- ◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分
- ◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
- ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅（4番出口）より徒歩約10分

大阪大学総合学術博物館では、関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972年）について、従来の解釈を複数の視点から見直すために、2016年度より一年に一度テーマを設けてシンポジウムを行ってまいりました。2016年度は「第1回 1950年代の前衛グループ」、2017年度は「第2回 1930年代の前衛」を開催し、それぞれの文脈で具体的な特質を検討しました。シリーズ3回目で最後となる今年度はより視野を広げて、具体が活動を展開した大阪という都市との

関わりに重点をおきます。大阪で前衛美術はどのような位置を占めてきたのか、そこに特徴はあるのか等について、実際に具体で活動し、グループ解散後も都市における美術のあり方を提起してきた作家や、都市と美術を考える上で重要な分野である広告デザインの研究者らを招いて話合います。なお本シンポジウムは、平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）課題番号 16KO2266「具体美術協会」再考—複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面—）による研究成果の一部です。

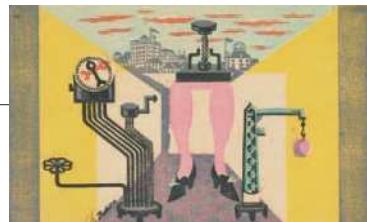
プログラム

1.6.Sun.

14:00-14:05 趣旨説明 加藤瑞穂

14:05-14:50 [発表1]

大大阪の時代と前衛絵画
——前田藤四郎の場合
橋爪節也



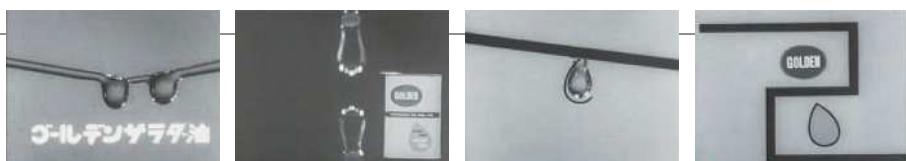
前田藤四郎《脚と機械（廊下に立つ婦人）》1928年頃
リノカット、紙 15.5×25.5 cm
大阪新美術館建設準備室蔵



前田藤四郎《聴覚》1929年
リノカット、紙 24.5×37.5 cm
大阪府20世紀美術コレクション

14:50-15:35 [発表2]

吉原治良の
「広報」と「広告」
竹内幸絵



吉原製油「ゴールデンサラダ油」テレビコマーシャル 1960年 制作：株式会社ティ・シー・ジー

15:50-16:35 [発表3]

都市大阪の感性
——〈具体〉とその後
今井祝雄



今井祝雄《タイムストーンズ400》1982年
石粉・ポリエステル・ガラス繊維・鉄骨 3×1.2×16.5 m
新大阪駅前（大阪市淀川区西中島）

16:35-17:50 [討議]

橋爪節也

大阪大学教授 共創機構社会学共創
本部／総合学術博物館／文学研究科
東京藝術大学美術学部附属古美術研究施設助手、大阪市立近代美術館建設準備室を経て現職。専門は日本東洋美術史。「木村兼葭堂——なにわ知の巨人」（2003）、「没後八〇年記念佐伯祐三展」（2008）、「北野恒富展」（2018）等の展覧会に携わる。編著書に『モダン心斎橋コレクション——メトロポリスの時代と記憶』（国書刊行会、2005）、『大大阪イメージ——増殖するマンモス／モダン都市の幻像』（創元社、2007）、『映画「大大阪観光」の世界——昭和12年のモダン都市』（大阪大学出版会、2009）等。

竹内幸絵

同志社大学社会学部教授
サントリーミュージアム「天保山」学芸員を経て現職。専門は広告史、デザイン史、歴史社会学。著書『近代広告の誕生——ポスターがニューメディアだった頃』（青土社、2011）は初の日本のポスター通史と評価される。2012年日本広告学会賞受賞。編著に『広告の夜明け——大阪・萬年社コレクション研究』（思文閣、2017）、共著に『幻の東京オリンピックとその時代』（青弓社、2009）、『メディア学の現在』（新訂第2版）（世界思想社、2015）、『大衆文化とナショナリズム』（森話社、2016）等。

今井祝雄

美術家、成安造形大学名誉教授
大阪市立工芸高校在学中の1964年、第14回具体美術展に初出品。翌年会員になり1972年まで在籍。1966年、第10回シェル美術賞展で一等賞受賞。当時より絵画やレリーフに留まらず、写真、映像等多岐にわたるメディアに取り組み、今日に至るまで毎年発表。1980年以後はパブリックアートの研究・制作にも携わる。著書に『白からはじまる』（ブレーンセンター、2001）、『未完のモノメント』（樹花舎、2004）、『タイムコレクション』（水声社、2015）等多数。2018年11月よりアクセル・ベルヴォールト・ギャラリー（ベルギー）で最新の個展開催中。

[問い合わせ先]

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

豊中市待兼山町1-13

大阪大学会館内

tel. 06-6850-6714(平日9:00-17:00)

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

加藤瑞穂

大阪大学総合学術博物館
招へい准教授

1990年代半ばより具体美術協会に関する展覧会企画、論文執筆等に取り組む。最新の論考に「美術と演劇の間——具体美術協会と維新派との接点をさぐる」（永田靖編『維新派の時代（仮）』大阪大学出版会、2018予定）等。本シンポジウム企画者。



報 告

シンポジウム <具体>再考

「第3回 大阪と前衛美術」

大阪大学総合学術博物館

招へい准教授 加藤 瑞穂

本シンポジウムは、関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」(略称：具体、1954-1972年)について、これまで問われることが少なかった複数の視点からの再考を目的として2016年度より一年に一度、継続的に行っている企画の三回目にあたる。シリーズで最後となる2018年度は過去二回よりもさらに視野を広げ、具体が活動を展開した大阪という都市との関わりに重点をおいた。大阪で前衛美術はどのような位置を占めてきたのか、そこに特徴はあるのか等をテーマにして、実際に具体で活動し、グループ解散後も都市における美術のあり方を提起してきた作家や、都市と美術を考える上で重要な分野である広告デザインの研究者らを招いて検討した。

最初に、弊館の橋爪節也が「大大阪の時代と前衛絵画——前田藤四郎の場合」と題して、近代大阪における美術の特徴と、その典型的な作家としての前田藤四郎に関する発表を行った。橋爪はまず、大阪が第二次市域拡張で「大大阪」になった1925年前後の時代を振り返り、当時の市長・關一が主導した都市計画では、美術館や美術教育機関の設置、美術家団体の設立といった文化行政を推進する姿勢が明確にあったという事実を掘り起こした。そして、前衛的な美術を積極的に受け入れた当時の「大大阪モダニズム」を復権する必要性を説いた。その美術の特徴として、第一に印刷・広告との距離が近く、生活に密着していた点、第二に諧謔・ユーモアがありながら現実からは遊離してしまわず、常にリアリズムに根ざしていた点、第三に美術教育機関の中心となる美術学校がない、いわばアカデミズムが空白であった点を指摘した。その具体的な事例として挙げたのが、大阪を代表する日本画家である北野恒富、未来派に触発された作品をいち早く手がけた洋画家の普門暁らで、いずれも美術作品のみならず、ポスターや挿絵を手がけ、商業施設でのディスプレイに積極的に関与したという。その文脈で版画家である前田藤四郎の仕事を考察し、作品を具体的に示しながらそれらに先の三つの特徴が織り込まれていることを明らかにした。前田がめざしたのは、いわゆる純正美術ではなく、現代大衆に親しまれる商業美術であり、それを前田は「三文版画」あるいはフランスのエピナール版画にも似たものという意味で「昭和エピナール」と呼ぶ。その作品に前田は、当時の前衛であったシュルレアリスムのコラージュの手法を積極的に取り入れ、感覚的な新しさを表現しつつ、版画と写真製版等の印刷を等価に扱って、それまでの版画の枠には収まらない独創性を發揮した。橋爪は、大大阪という古い過去のように思われるかもしれないが、実は具体が結成された約30年前でしかなく、それほど遠くは離れていない、私たちはそのような時間の物差しで過去を顧み、そこから改めて現在を俯瞰する意識を持つべきではないかと結んだ。

続いて、広告の社会史を研究している竹内幸絵氏が「吉原治良の『広報』と『広告』」と題した発表で、吉原の1930年代から60年代にわたる写真・映像に対する関心を取り上げ、実際に1960年代に放映された吉原製油のテレビコマーシャルについて考察した。最初に、1930年代初頭に吉原が撮影した多数の16ミリフィルムのうち、「cine-memo」と名づけられた5分あまりの映像について、それに関する筆者の2011年の論考を参照しながら、クローズアップやコントラストの強調など、当時の実験的表現を積極的に試みている点、そして造形美術とは異なって何度も再現でき、しかも多数の人に見せることが可能なメディアに、吉原が戦前から関心を寄せていた点を確認した。その後、具体を結成した戦後へと目を転じ、グループの活動を開始するにあたって機関誌『具体』の刊行に重きをおいた点に、吉原の「広報」への強い意欲を読み取った。特に竹内氏は、その『具体』創刊と、吉原が吉原製油社長に就任した年とが同じである事実に注目し、会社を経営する際の姿勢が、具体的活動を推進していく上でも生かされたのではないかと推察する。さらに吉原の「広報」的姿勢は、1960年に具体が実施した、大阪難波の高島屋屋上でのアドバルーンを使った「国際スカイフェスティバル」にも見出すことができるとした。その後、「国際スカイフェスティバル」と同年に製作された吉原製油ならびに、日清製油や味の素、豊年製油といった同業他社によるテレビコマーシャルを実際に会場で映写した上で、吉原製油のものが際立って実験的であることを指摘し、前衛美術とデザイン（商用表現）とを分け隔てることなく自由に行き来する吉原の姿勢を浮彫りにした。それは、橋爪が先の発表で前田藤四郎の特色として挙げた、生活に密着した大衆をめざす美術のあり方、同時代の前衛的表現を貪欲に取り入れ感覚的な新しさを実現する姿勢につながるものだろうと結論づけた。

最後に、元具体会員で、1980年以降はパブリックアートの研究と制作に携わってきた今井祝雄氏が「都市大阪の感性——〈具体〉とその後」と題して、1960年代以降の自身の制作活動を振り返りつつ、特に大阪という都市空間における60-70年代の美術について検討した。今井氏が具体的作品を初めて実際に目にしたのは、大阪市立工芸高校一年のときで、友人に誘われて1962年にオープンしたばかりのグタイピナコテカを訪れたという。1964年に大阪のヌーヴ画廊で個展「17才の証言」を開いたときに具体メンバーが来場し、最終日に訪れた吉原の誘いで具体美術展に出品するようになった。今思い起こせば、当時は街中に現代美術の作品が設置されるようになった時代で、その先駆として1958年にフェスティバルホール南側壁面に設置された建畠覚造や向井良吉らによるレリーフ《牧神、音楽を楽しむの図》や、同年西長堀（大阪市西区）に竣工した公団住宅、通称マンモスアパートの一階に設置された吉原治良による壁画が挙げられる。また、恒久的ではないが1960年の高島屋屋上で開かれた「国際スカイフェスティバル」も、街中での発表という点でパブリックアートと呼べるのではないか。その後1960年代には、現代美術が商業空間に進出する動きも顕在化し、具体会員であった向井修二が北新地（大阪市北区）のジャズ喫茶店チェックの店内を記号で埋め尽くす、あるいは今井氏自身が北堀江（大阪市西区）にあったディスコ・スペースデリシャスの店内を紫の毛足の長い絨毯で覆い、角と隅がない空間をつくる等の事例がある。具体解散後は、在籍中に十分に実現できなかつた、美術館や画廊の枠に

止まらない活動への思いを強くし、屋外空間での音を使った作品やビデオアート、パブリックアートへと関心を広げた。以上のように60-70年代を振り返った今井氏は、最後に大阪特有の美術に対する感性について、「おもろい、けったい、いらんことしい」という言葉で表現し、新しいものを面白がり、それを許容する文化的な土壤がありながら、過去のものを歴史的に顧み、見直す姿勢が乏しい点に大阪の課題があるのではないかと締めくくった。

これらの発表に続いて、筆者が司会を務めた上記の三氏による討議では最初に吉原製油のテレビコマーシャル（1960年）が話題となった。その実験性は、遡れば吉原が戦前の1930年代初めに手がけた映像「cine-memo」に通じると竹内氏は捉えており、それについて橋爪は、具象的モティーフの形態に着目して抽象的表現を行う戦前のバウハウスにおけるラズロ・モホリ＝ナジ的な志向ではないか、その造形意識は戦前の大阪市立工芸学校で行われていたバウハウス的教育や、浪華写真俱楽部の写真に共通すると述べた。また今井氏はコマーシャルの音に注目し、当時のミュージック・コンクレート的な要素を見出した上で、1960年代は松本俊夫など映像作家がテレビコマーシャルを手がけ、前衛的な作曲家が音楽を担当するという事例があったと付言した。それらを踏まえて竹内氏は、戦後に映像撮影の技術が進展し、広告の媒体が紙から映像へと推移していく時代に、吉原が戦前に育んだ志向を改めて顕在化させたのが吉原製油のテレビコマーシャルであり、その時期は美術においても転換点だったのではないかとまとめた。

次に、先のコマーシャル制作と同年に高島屋屋上で催された「国際スカイフェスティバル」について討議を進めた。この催しは、先の竹内氏の視点に基づいて、美術家として先進的な感覚を求める吉原と、経営者として広報的視点を持つ吉原という二面の接点から生まれたものと言えるが、今井氏は同様の性格を持つ試みとして、第11回具体美術展（1962年）の「具体カードボックス」を挙げた。会員直筆のカードを購入できる販売機のようなものだが、実はボックスの中に人が入って手動でカードを中から出す仕組みで、「国際スカイフェスティバル」も含め、そこに商都・大阪の特質が見出せるとした。また橋爪は、複数のアドバルーンが高島屋屋上に上がる様子を、大阪の都市景観の中で捉え直した場合、御堂筋という大阪の中心軸に沿って、戦後復興後に竣工した新傾向の建築、難波の新歌舞伎座、心斎橋の大丸百貨店やそごう百貨店、中之島の朝日ビルディングやフェスティバルホール等が並び、かつての「大大阪」を彷彿とさせる景観が広がっていたのではないかと想像した。

これに続き話題となったのが前田藤四郎で、とりわけ前田が舞台背景を担当した、1932年の純粹広告演劇第1回試演「覗く」であった。メガネ肝油の商品の広告を織り込みながら進められた上演形式は、東京ではまだ前例が見当たらず、しかも前田の舞台背景は、残っている資料を参



照すれば構成主義的で、大阪の先取の気質が窺える催しと言える。それに関連して今井氏は、橋爪の発表で語っていた、吉原が前田らと共に1947年に結成した汎美術家協会で舞台公演を経験していたことが、具体結成後に舞台での発表へとつながった点、吉原が球場を借りて吉原製油の主催でイベントを行うにあたり、メンバーにアイデアを募ることが多かった点に言及した。その後、橋爪が発表で提起した大阪の美術の特色のうち、ユーモラスかつリアルであることを重視する点について改めて議論が交わされ、商工業の街である大阪では物の存在が身近で、例えばペンキの飛沫など「リアルな物質が日常に生み出す抽象的形象」が生活に密着している点を橋爪が補足して説明した。具体に関しても、素材としての物質を重視する姿勢は、そうした大阪における美術の傾向に連なるものだと筆者は考える。

最後に、大阪では特色ある斬新な美術活動が多数あったにもかかわらず、現状ではそうした過去を十分に顧みているとは言い難く、今後それをいかに継承していくか、課題を出し合った。今井氏は作家の立場から、過去に手がけたが現存しない自身の作品については、当時の形態をそのまま再現するのではなく、当時の精神に基づいて改めて現在の状況下で制作する試みが必要とし、それを再制作の代わりに「追制作」と呼んだ。また、自身が過去に制作した新大阪駅前のモニュメント《タイム・ストーンズ400》(1982年)について解説を加えた。

大阪城築城の際に使われなかつた残念石の型を取り、そのレプリカを二十個積み上げ、20年後さらに積み上げるべくその足元に一個置いた、いわば「未完の作品」だが、施主側の事情で20年経っても最後の一箇は積まれずに置かれたままになっている。これはある意味で、過去の文化的蓄積を等閑視する大阪の現状を象徴しているようでもあり、計画策定から35年以上も経過している大阪市の近代美術館建設や、長らく放置されていた岡本太郎の《太陽の塔》等にも共通する課題だろうと総括した。橋爪は、過去自体を知らない人がいかに多いかに言及し、この「忘却した記憶」を取り戻すために、新しく建つ美術館で、大阪固有の展覧会を幾度も開催して人々の間に定着させる必要性を訴えた。また竹内氏は、今の若い世代は、吉原製油のテレビコマーシャルを実際に面白いと感じており、広報を強く意識していた具体についても興味を持つにちがいなく、デジタルネイティブの彼らがその面白さを広げていってくれることの可能性を語った。筆者は研究者の立場から、具体について論じる言説を地道に積み重ねていく努力が必要と考えている。現在では海外の研究者が積極的に具体的論文を発表しているが、日本国内の地の利を生かした緻密な調査・研究の発表はまったく十分でなく、そうした研究に取組むと同時に、それを展覧会や講演会等でいかに広報し周知していくかというプロデューサー的視点も求められていることを、討議を通して確認した。

このシンポジウムには定員80名のところ110名の来場者があり、2016年度・2017年度に統いて、専門家のみならず一般の美術愛好家の間でも関心を集めたと言えるだろう。三氏の発表と討議についてはすべて書き起こしを行い、2019年9月末には弊館ホームページで公開した。それは、当日来場できなかつた人に広く内容を周知すると共に、弊館の研究活動の一端を認識してもらう一助となるにちがいない。なお本企画は、平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号16K02266 「具体美術協会」再考-複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面）による研究成果の一部である。

5. サイエンスカフェ@待兼山 サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

期 間：サイエンスカフェ@待兼山

2019年1月12日（土）～2019年3月16日（土） カフェNo.148～151

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

2019年1月19日（土）～2019年3月9日（土） カフェNo.C-7～C-9

主 催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の生活の中では接する機会が少ない専門家と一般の方々の間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は2008年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。家族や友人と一緒に参加される方もおり、実施当日には会場が大いに盛り上がっているようすも見られる。

サイエンスカフェの実施状況：

| | | | |
|---------|----|---------------------------------------|----------------|
| 2008 年度 | 前期 | カフェ No. 1 ~ 13 | 実施 13回 |
| | 後期 | カフェ No. 14 ~ 27 | 実施 14回 |
| 2009 年度 | 前期 | カフェ No. 28 ~ 37 | 実施 10回 |
| | 後期 | カフェ No. 38 ~ 46 | 実施 9回 |
| 2010 年度 | 前期 | カフェ No. 47 ~ 55 | 実施 9回 |
| | 後期 | カフェ No. 56 ~ 65 | 実施 10回 |
| 2011 年度 | 前期 | カフェ No. 66 ~ 80 | 実施 15回 |
| | 後期 | カフェ No. 81 ~ 88 | 実施 8回 |
| 2012 年度 | 前期 | カフェ No. 89 ~ 99 | 実施 11回 |
| | 後期 | カフェ No. 100 ~ 107 | 実施 8回 |
| 2013 年度 | 前期 | カフェ No. 108 ~ 112 | 実施 5回 |
| | 後期 | カフェ No. 113 ~ 116 | 実施 4回 |
| 2014 年度 | 通年 | カフェ No. 117 ~ 126 | 実施 10回 |
| 2015 年度 | 通年 | カフェ No. 127 ~ 134 | 実施 8回 |
| 2016 年度 | 通年 | カフェ No. 135 ~ 141 カフェ No.C-1 ~ C-3 | 実施 7回 実施 3回 |

サイエンスカフェの実施状況：

| | | | |
|---------|----|------------------|--------|
| 2017 年度 | 通年 | カフェ No.142 ~ 147 | 実施 6 回 |
| | | カフェ No.C-4 ~ C-6 | 実施 3 回 |

| | | | |
|---------|----|------------------|--------|
| 2018 年度 | 通年 | カフェ No.148 ~ 151 | 実施 4 回 |
| | | カフェ No.C-7 ~ C-9 | 実施 3 回 |

サイエンスカフェ@待兼山（2018年：2019年1月12日～2019年3月16日 No.148～151）

| No. | 実施日 | タイトル | 要旨 |
|-----|---------|----------------|---|
| | | コーディネーター | |
| 148 | 1/12(土) | 左右非対称の生物学 | 動物のからだの構造や機能には、左右非対称性が頻繁にみられます。ヒトの心臓が左側にあることや、巻貝の貝殻の巻方向が種ごとに決まっていることなどがその例です。からだの左右差を生み出す驚くべき仕組みについてお話しします。 |
| | | 松野 健治 氏 | |
| 149 | 2/2(土) | 樹から下りたサル、地上を歩く | 人類の最大の特徴は直立二足歩行であるとされています。すなわち人類の進化は 地上を二本足で歩くことからはじまったのです。それ以前の人類の祖先は、他の 灵長類と同様に樹上生活をしていました。それでは、人類は、いつ、どこで、どのようにして、地上で歩くようになったのでしょうか。こうした点を解明するため、化石や現生靈長類との形態比較、あるいはDNA分析など様々な研究が行われています。それらについて、運動学的な比較研究を中心に紹介します。 |
| | | 中野 良彦 氏 | |
| 150 | 3/2(土) | グローバルな人の移動の経済学 | 2016年の英国の欧州連合離脱以降、世界各国で自国優先を掲げる政黨の支持拡大が続き、社会の分断が深刻化しています。しかし自国の利益を声高に主張した後に、どのような社会を実現したいのか、その未来図は未だ十分に描かれているとは言えません。今回のサイエンスカフェでは、感情論ではなく、科学的根拠に基づいた中長期的な外国人政策のあり方についてディスカッションを行います。 |
| | | 佐伯 康考 氏 | |
| 151 | 3/16(土) | 対話型調停の核心 | 日常のなかで抱える「小さな」しかし放置してはおけないトラブルを、私たちが自分の手で解決していく対話型調停のエッセンスを、演劇的な台本や関連する映像などを手がかりに参加者と一緒に具体的に考えてみたい。 |
| | | 仁木 恒夫 氏 | |

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館（2018年：2019年1月19日～2019年3月9日 No.C-7～C-9）

| No. | 実施日 | タイトル | 要旨 |
|-----|---------|-------------------------|--|
| | | コーディネーター | |
| C-7 | 1/19(土) | 素粒子ミュオンで考古学資料を透視する | ミュオンは、大型の加速器施設で人工的に生成される素粒子の一つです。この最先端の物理学研究で使われる素粒子を、全く分野の違う考古学資料の分析に利用した新しい研究について紹介します。 |
| | | 二宮 和彦 氏 | |
| C-8 | 2/9(土) | 吸着～私たちの生活を支える古くて新しい科学技術 | みなさん、“吸着”って知っていますか？実は、空気や水の浄化、気体の分離貯蔵から大規模空調まで、私たちの生活を支える至る所で使われている科学技術です。古くて新しい吸着の科学と技術について紹介します。 |
| | | 上田 貴洋 | |
| C-9 | 3/9(土) | 働くことの研究 -意欲・能力・幸福- | 「働き方改革」でがぜん注目を浴びている日本人の働き方。誰しも働いた経験はありますが、それを客観的に捉え直す機会は意外に少ないのでしょうか。この講義では最近の経済学研究のトピックをいくつかご紹介して、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。 |
| | | 柿澤 寿信 氏 | |

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気で、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して、専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 148

2019年1月12日(土)

左右非対称の生物学

松野 健治(理学研究科)

時間:14:00~15:30

対象:高校生以上

No. 150

2019年3月2日(土)

グローバルな人の移動の経済学

佐伯 康考(共創機構社学共創本部)

時間:14:00~15:30

対象:高校生以上

No. 149

2019年2月2日(土)

樹から下りたサル、地上を歩く

中野 良彦(人間科学研究科)

時間:14:00~15:30

対象:高校生以上

No. 151

2019年3月16日(土)

対話型調停の核心

仁木 恒夫(法学研究科)

時間:14:00~15:30

対象:高校生以上

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

定 員: 各回とも30名

参加費用: 無料

主 催: 大阪大学共創機構社学共創本部/総合学術博物館

共 催: 豊中市立中央公民館

協 力: 大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

Webフォームあるいは往復ハガキにてお申し込みください。

Webフォーム

以下URLの「申込受付期間確認ページ」リンクからお申込みください。

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/2018-11-26-12891/>

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記してください。
ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛に
ご送付ください。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前まで (*No. 148のみ12月22日(土)まで)です。期間は各カフェで異なりますので確認をお願いします。往復ハガキについては締切日必着でお願いします。

*応募多数の場合、原則として抽選で決定します。 抽選結果はメール、もしくはハガキでお知らせします。

Museum of Osaka University

Science Café at Chuo Kominkan

コーヒーやドリンクを片手に、ゆったりとした雰囲気で「科学する」とはどういうものか、研究者とともに考える「サイエンスカフェ」を楽しみませんか。この機会を大阪大学の研究者と市民の皆様とのコミュニケーションの場にしたいと思っています。ぜひ一度ご参加ください。（中央公民館でマチカネワニ化石の下あごの模型も展示します。）

No.C-7

2019年1月19日(土)

素粒子ミュオンで考古学資料を透視する

二宮 和彦(大阪大学大学院理学研究科)

対象:高校生以上

受付開始:2019年1月8日(火)14:00より

No.C-8

2019年2月9日(土)

吸着～私たちの生活を支える古くて新しい科学技術～

上田 貴洋(大阪大学共創機構社学共創本部)

対象:高校生以上

受付開始:2019年1月25日(金)14:00より

No.C-9

2019年3月9日(土)

働くことの研究—意欲・能力・幸福—

柿澤 寿信(大阪大学全学教育推進機構)

対象:高校生以上

受付開始:2019年2月25日(月)14:00より

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

開催場所: 豊中市立中央公民館

時 間: 各回14:00～15:30

定 員: 各回30名

参加費用: 無料

主 催: 大阪大学共創機構社学共創本部/総合学術博物館

共 催: 豊中市立中央公民館

協 力: 大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

電話による事前申込の受付をいたします。

06-6866-0555

(豊中市立中央公民館)

※各カフェの受付開始日をご確認の上お申し込みください。

※定員に達し次第受付を終了させていただきます。

豊中市立中央公民館 〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-3 TEL: 06-6866-0555

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



No.C-7

2019年1月19日(土)

素粒子ミュオンで考古学資料を透視する

二宮 和彦 (大阪大学大学院理学研究科)

【講演内容】

ミュオンは、大型の加速器施設で人工的に生成される素粒子の一つです。この最先端の物理学研究で使われる素粒子を、全く分野の違う考古学資料の分析に利用した新しい研究について紹介します。

No.C-8

2019年2月9日(土)

吸着～私たちの生活を支える古くて新しい科学技術～

上田 貴洋 (大阪大学共創機構社学共創本部)

【講演内容】

みなさん、“吸着”って知っていますか？実は、空気や水の浄化、気体の分離貯蔵から大規模空調まで、私たちの生活を支える至る所で使われている科学技術です。古くて新しい吸着の科学と技術について紹介します。

No.C-9

2019年3月9日(土)

働くことの研究—意欲・能力・幸福—

柿澤 寿信 (大阪大学全学教育推進機構)

【講演内容】

「働き方改革」でがぜん注目を浴びている日本人の働き方。誰しも働いた経験はありますが、それを客観的に捉え直す機会は意外に少ないのでしょうか。この講義では最近の経済学研究のトピックをいくつかご紹介して、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

豊中市立中央公民館 〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-3 TEL: 06-6866-0555

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

6. 体験！こどもミュージアム@大阪大学

期 間：2018年8月20日（月）～ 22日（水）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

大阪大学会館 21世紀懐徳堂スタジオ

主 催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

後 援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

小学生の子どもたちに、文系、理系を問わず様々な分野の学間に興味と関心を持ってもらうことを目指して、「体験！こどもミュージアム@大阪大学」を開催した。本企画は小学校4・5・6年生対象にしたもので、いずれも実験・実演を交えた体験型授業を行い、参加した子どもたちからも好評であった（当日の参加者数は延べ46名、保護者含まず）。なお、本企画を開催するにあたり、豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会からの後援と大阪大学 21世紀懐徳堂の協力を得た。



「ジャワガムランであそぼう
～うたとおどりと音と～」



「ブロックでレスキューロボットを作って動かそう」

授業内容

8月20日（月）

タイトル：「液晶を楽しもう！」

講 師：久保 孝史 氏（大阪大学理学研究科 化学専攻教授）

参加人数：19人

概 要： 液晶と聞いて真っ先に思い浮かべるのは、携帯電話やノートパソコン、壁掛けテレビなどのディスプレイでしょう。実は、そのディスプレイの中にトロトロの液状物質が詰まっているのをご存知でしたか？
液体と結晶の中間状態である液晶とはいっていどのような物質なのか、どうしてディスプレイに用いられるのかについて、簡単な実験を交えながら解説します。

8月21日（火）

タイトル：「ブロックでレスキュー ボットを作って動かそう！」

講 師：大阪大学レゴ部（大阪大学公認学生団体）新井 亮 氏（基礎工学部3年）他
参加人数：14人

概 要： みんなの身の回りにいるロボットがどのように動かされているかを知っていますか？人がロボットを動かす時にはロボットが理解できるような言葉で話す必要があります。この言葉こそがプログラミングです。今回は2人で1チームになって歩くレスキュー ボットを作って、プログラミングソフトでのロボットを自由自在に動かしてみましょう。

8月22日（水）

タイトル：「ジャワガムランであそぼう～うたとおどりと音と～」

講 師：ほんま なほ 氏（大阪大学COデザインセンター准教授）

参加人数：13人

概 要： ジャワガムランはインドネシア（ジャワ島）の民族楽器で、青銅（せいどう）と竹で作られた打楽器や太鼓を、歌などと一緒に演奏します。おどりの伴奏をすることもあります。みなさんも楽器を演奏したり、歌ったり、おどったりしながら、ガムランを使った表現作品を一緒につくりませんか？

2018
体験！こども

参加者
募集！

ミュージアム

@大阪大学

対象者：小学4～6年生

参加費無料

大阪大学
公式マスコットキャラクター
「ワニ博士」

コース①
液晶を楽しもう！



コース②
ブロックで
レスキュー
ロボットを作つて
動かそう！



コース③
ジャワガムランで
あそぼう



コース① 定員：20名

8/20月

14:00～15:30

コース② 定員：14名

8/21火

14:00～15:30

コース③ 定員：20名

8/22水

14:00～16:00

ところ：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

豊中市待兼山町 1-20（大阪大学豊中キャンパス内）（阪急宝塚線・石橋駅より徒歩約 10 分）

※コース③では、待兼山修学館3階セミナー室に集合後、別棟に移動します（移動時間 10 分程度）。

申込み切
7/23月
必着

主催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

2018 体験!

こどもミュージアム@大阪大学

定員:
20名

コース①

8/20月
14:00 ~ 15:30



液晶を楽しもう!

液晶と聞いて真っ先に思い浮かべるのは、携帯電話やノートパソコン、壁掛けテレビなどのディスプレイでしょう。実は、そのディスプレイの中にトロトロの液状物質が詰まっているをご存知でしたか?

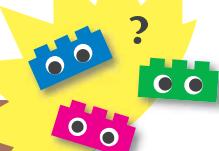
液体と結晶の中間状態である液晶とはいってどのような物質なのか、どうしてディスプレイに用いられるのかについて、簡単な実験を交えながら解説します。

講師：理学研究科化学専攻教授 久保 孝史

定員:
14名

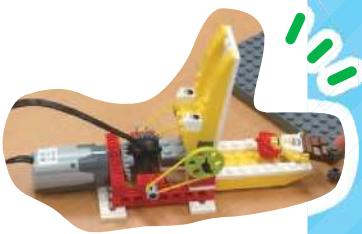
コース②

8/21火
14:00 ~ 15:30



ブロックで レスキューロボットを作って動かそう!

みんなの身の回りにいるロボットがどのように動かされているかを知っていますか？人がロボットを動かす時にはロボットが理解できるような言葉で話す必要があります。この言葉こそがプログラミングです。今回は2人で1チームになって歩くレスキューロボットを作り、プログラミングソフトでそのロボットを自由自在に動かしてみましょう。



講師：大阪大学レゴ部（大阪大学公認学生団体）新井 亮（基礎工学部 3年）他

定員:
20名

コース③

8/22水
14:00 ~ 16:00



ジャワガムランであそぼう～うたとおどりと音と～

ジャワガムランはインドネシア（ジャワ島）の民族楽器で、青銅（せいどう）と竹で作られた打楽器や太鼓を、歌などと一緒に演奏します。おどりの伴奏をすることもあります。みなさんも楽器を演奏したり、歌ったり、おどったりしながら、ガムランを使った表現作品を一緒につくりませんか？動きやすい服装でご参加ください。



※コース③では、待兼山修学館3階セミナー室に集合後、別棟に移動します（移動時間10分程度）。

講師：CO デザインセンター准教授 ほんま なほ
ジャワ・ガムラングループ ダルマ・ブダヤ

■ 申込方法

- ※往復はがきに、ご希望のコース番号（はがき1通につき1コース1名）、
参加者の住所、氏名、よみがな、学校名、学年、保護者の氏名、電話番号を
明記のうえ、下記の申込先までお送りください。（お預かりした個人情報は適切に管理し、本事業以外には使用いたしません。）
- ※返信用はがきの宛名も必ず明記してください。
- ※応募多数の場合は抽選を行います。ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
- ※必ず保護者の方同伴で参加をお願いします。
- 保護者の方へ　※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。
※保護者の方は見学のみでお願いします。

<申込先・問合せ先>

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館
Tel. 06-6850-6714

申込締切日：2018年7月23日（月）必着

交通のご案内



阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分
※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館

7. 大阪大学美術部 夏部展 2018 「窓を見る～記憶 展望 実存～」

期 間：2018年9月1日(土)～2018年9月10日(月)

※9月2日、9日(日)は閉館

会 場：大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3階多目的ルーム



【概要】

私達にとって窓とは何でしょうか。

かつて人類がはじめて住居の壁に空けた隙間から外の世界を覗いた時、その窓からは光が差し、風がそよいだでしょう。

現代に生きる私達の窓は、多くはガラスで遮られ、カーテンが掛けられることもあります。しかし、依然として窓は内と外との境界として働きます。

それでは、芸術における窓とは。たとえば画家はときにキャンバスを窓枠に見立て、そのフレームの中に情景を描き、またときに自らの内面の外部に写すスクリーンとして扱ってきました。現代の様々なアーティストたちは、そのフレームを問い合わせ直すことを試み、いまや作品は作家の持つ「窓=境界」の内にも外にも同時に存在するようになったといえるでしょう。

今回の部展では、単なるフレームであることをやめた現代の「窓」と私たちの接点をみつめます。一方では過去を想起し、一方では未来に広がる眺めを志向します。そしてそこから見えてくる、私たち自身のあり方も。

【テーマ】

『窓を通じてその中へ』

暗闇のなかに並ぶ部屋がどんなテーマで作られているか、覗いてみてください。遠くからビル全体を見れば夜景、近づけば部屋それぞれの小世界が現れます。単調に並んだ容器物の中に、雑多な部屋が不規則に入居しています。ビルの形をしながらも、ひとつのまとまった物ではありません。手始めに、各階のフロア名を示します。

*太陽と戦慄

*操舵室

*不思議な研究室

*銭湯

*内は外

*新卒採用面接会場

*恐竜

*図書館

*食堂

*公衆トイレ(男子)

『窓と揺られて』

今回この企画では展望、未来につながる窓として車窓を題材にしました。視界を限定する窓ではなく未知の世界を見せる窓を表現するために、最初は電車の中だということを知らせません。「これは車窓だ」という知識がなければ、電車は不思議な風景をみせます。そこから電車に乗っていたことに気づくときに自分の動きを感じるので、通勤通学に使うときは当たり前に思っていた、窓とともに進んでいく不思議さを感じて下さい。

『記憶の風景』

当企画は「同じ風景でも人によって見え方が違う」という実感を作品で表現できなかという試みから始まった。風景を見る時の視点を考えたとき、「人それぞれ」という主体の違いを<地点軸>とすると、もう一つ「それはいつ見た風景なのか」という「記憶」に関係する<時間軸>が浮かび上がってくる。

ある風景、友人の結婚式だとか旅行先の朝食のメニューだとか何でもない日の帰り道の風景だとか、何か過去の「風景」を思い出すとき、そこにはプルースト効果のような五感を介した「とっかかり」(誘発因子)が存在するはずだ。その「とっかかり」を窓や扉、穴といった作品の額縁で視覚的に表現し、そこから作者が思い思いに過去を遡って「記憶の風景」を描いた。

窓なのか扉なのか、はたまた穴なのか。「風景」を縁取る枠の形や色、大きさ、高さといった違いはそのまま視点の違いを表している。十人十色の「記憶の風景」を独創的な「窓」からのぞいてみてほしい。

『窓—意識』

当企画では、窓のもつ、「コミュニケーションが行われる接点」であるという性質を取り上げます。窓は、内部と外部を接続する開口部。空隙を通してやりとりされるコミュニケーション・シグナルは、窓の表面に投影されます。その意味で、窓は意識が集積する特異な面あるいは空間なのです。そして人やさまざまな存在のもつ意識が集積し、「窓の意識」とも言うべき自己参照的な情報の流れが作り出されます。その移り変わりを表現することを試みたのがこの『窓—意識』というインスタレーションです。

また当展覧会には、「窓のストーリー」の〈開始〉、未来を志向する〈展望〉、過去の〈記憶〉にまつわる企画と時間の流れを主題にとった企画が並びます。この『窓—意識』は、その後に位置しており、時間の流れが収束し、そこからあらゆる可能性が溢れ出す〈現在—実存〉を表現する作品でもあります。

8. ～繋げる・拡げる～わくわく学習教室

with Osaka University

期 間：2018年11月24日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主 催：株式会社新興出版社啓林館・大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館

小学生を対象とした体験型講座として「～繋げる・拡げる～わくわく学習教室 with Osaka University」を開催した。本企画は、株式会社振興出版社啓林館がCSR活動として実施している「～繋げる・拡げる～わくわく学習教室」を、大阪大学を会場とし、本館と共に開催する新しい企画である。開催にあたっては、大阪市教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会からの後援と大阪大学21世紀懐徳堂の協力を得た。「理科」に特化した取り組みであるが、学外から講師を招へいするなど、これまでの「体験！こどもミュージアム@大阪大学」とは異なる新しい試みも実施した。小学校3・4・5・6年生を対象とした講座はいずれも実験・実演を交えた体験型授業で、子どもたちが楽しんで参加できるイベントとなった（当日の参加者数は延べ51名、保護者含まず）。



「スーパーボールロケット」



「冷やしてわかる？ものの正体」



授業内容

コース①

タイトル：「スーパー ボールロケット」

講 師：十河 秀敏 氏（箕面自由学園中学校・教育顧問）

参加人数：16人

概 要： スーパーボールに取り付けたロケットが高く飛び上がります。どうしてでしょう。手に持ったスーパー ボールロケットがもつ位置エネルギー（たかさのエネルギー）は、手を離した時から変換していく、地面と衝突すると運動エネルギー（ロケットの速度のエネルギー）に変換されロケットが高く飛んでいきます。このことを体験しながら「エネルギー保存の法則」について学習しましょう。

コース②

タイトル：「DNA を観察しよう」

講 師：十河 秀敏 氏（箕面自由学園中学校・教育顧問）

参加人数：18人

概 要： ”染色体” ”遺伝子” や ”DNA” という言葉をよく耳にします。何か 「難しいもの」と思っていないででしょうか。DNA は、「簡単には見ることができないもの」というイメージを持っているのではないでしょうか？バナナを使えば、DNA は実験で簡単に取り出されるので目で見ることができます。どんな風に目で見ることができるのでしょうか？さあ、生物の体の DNA（設計図）を見てみましょう。

コース③

タイトル：「冷やしてわかる？ものの正体」

講 師：宮久保 圭祐（大阪大学共創機構社学共創本部/総合学術博物館 准教授）

参加人数：17人

概 要： 水は加熱すると沸騰して水蒸気になります。冷やすと氷になります。実はあらゆるものは、「分子」と呼ばれている小さい粒がたくさん集まってできています。この小さい粒々は冷やすと動きが遅くなり、温めると活発に動けるようになります。その動きの違いがものの見た目や硬さにかかわっています。色々なガスや液体、結晶、やわらかいゴムのようなものを、とても冷たい液体窒素で冷やしてみて、見た目や硬さがどのように変化するかを調べて、粒々のふるまいを想像してみましょう。

2018 ~繋げる・拓げる~ わくわく学習教室

参加者
募集!

対象者：小学3～6年生

参加費無料

with Osaka University

11/24 土

コース①

スーパーボール
ロケット



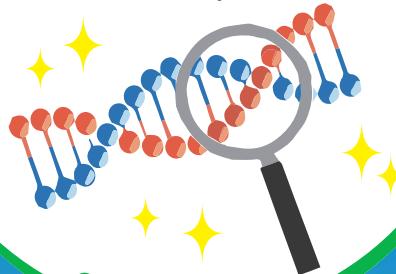
コース
①

13:00～13:50

箕面自由学園中学校・教育顧問
十河 秀敏

コース②

DNAを
観察しよう



コース
②

14:20～15:10

箕面自由学園中学校・教育顧問
十河 秀敏

コース③

冷やしてわかる?
ものの正体



コース
③

15:40～16:30

大阪大学共創機構社学共創本部
総合学術博物館・准教授
宮久保 圭祐

申込締切：先着順 定員になりしだい締め切れます

ところ：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

豊中市待兼山町 1-20 (大阪大学豊中キャンパス内) (阪急宝塚線・石橋駅より徒歩約 10 分)

主 催：株式会社新興出版社啓林館・大阪大学総合学術博物館



株式会社新興出版社啓林館
<https://www.shinko-keirin.co.jp/>



大阪大学総合学術博物館
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

2018 ~繋げる・拡げる~ わくわく学習教室 with Osaka University

コース1

11月24日(土)
13:00～13:50



スーパー ボールロケット

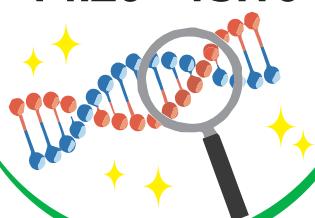
定員
20名

スーパー ボールに取り付けたロケットが高く飛び上がります。どうしてでしょう。手に持ったスーパー ボールロケットがもつ位置エネルギー（たかさのエネルギー）は、手を離した時から変換していき、地面と衝突すると運動エネルギー（ロケットの速度のエネルギー）に変換されロケットが高く飛んでいきます。このことを体験しながら「エネルギー保存の法則」について学習しましょう。

箕面自由学園中学校・教育顧問 十河 秀敏

コース2

11月24日(土)
14:20～15:10



DNAを観察しよう

定員
20名

“染色体” “遺伝子” や “DNA” という言葉をよく耳にします。何か「難しいもの」と思っていないでしょうか。DNAは、「簡単には見ることができないもの」というイメージを持っているのではないでしょうか？バナナを使えば、DNAは実験で簡単に取り出されるので目で見ることができます。どんな風に目で見ることができるのでしょうか？あ、生物の体のDNA（設計図）を見てみましょう。

箕面自由学園中学校・教育顧問 十河 秀敏

コース3

11月24日(土)
15:40～16:30



冷やしてわかる？ものの正体

定員
20名

水は加熱すると沸騰して水蒸気になり、冷やすと氷になります。実はあらゆるものは、「分子」と呼ばれている小さい粒がたくさん集まってできています。この小さい粒々は冷やすと動きが遅くなり、温めると活発に動けるようになります。その動きの違いがものの見た目や硬さにかかわっています。色々なガスや液体、結晶、やわらかいゴムのようなものを、とても冷たい液体窒素で冷やしてみて、見た目や硬さがどのように変化するかを調べて、粒々のふるまいを想像してみましょう。

大阪大学共創機構社学共創本部 総合学術博物館・准教授 宮久保 圭祐

申込み方法

定員 各回 20名

下記申し込みURLか、QRコードよりお申し込みください。

<申込先・問合せ先>

株式会社新興出版社啓林館

<https://reserva.be/toyonakawakuwaku>

お問い合わせ先

メール yu-kishida@shinko-keirin.co.jp

電話 06-6775-6518

(お預かりした個人情報は適切に管理し、本事業以外には使用いたしません。)



申込開始日: 2018年11月3日(土) 先着順 (各回で定員になり次第締め切ります)

※必ず保護者同伴でのご来場をお願い致します。

●保護者の方へ ※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

※保護者の方は見学のみでお願いします。

交通のご案内



阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分
※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館

9. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示

展示期間：2018年12月1日（土）～2018年12月8日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主 催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館、豊中市教育センター

共 催：豊中市教育委員会

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

後 援：豊中市

【展示概要】

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学校理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び表彰しています。今回初の試みとして、今年の豊中市立小中学校理科展に出品された児童・生徒の自由研究作品約550点から各賞を受賞した優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示します。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

【展示作品一覧】

- ・魚類以外の脊椎動物の唾液の違いを調べよう
(南部陽一郎賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・地震の揺れによる砂地盤の液状化のメカニズムと被害について
(大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・服部緑地フシギな菌マップ (大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・新千里東町・北町の公園でカナブン調査
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・ゲルマニウムラジオとアンテナの実験
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・割れにくいシャボン玉～空中がだめなら水の中へ！～
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・天気と気温の変化 (豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・どんな物でもきれいにできるの？～ヤマトシジミの浄化実験～
(大阪府学生科学賞受賞)
- ・身近にある葉っぱの秘密 (大阪府学生科学賞受賞)
- ・カブトムシ大研究 第2弾 (大阪府学生科学賞受賞)
- ・昆虫採集のすすめ (大阪府学生科学賞受賞)
- ・筋かいの役割とその強度 (大阪府学生科学賞受賞)

【イベント】受賞者による発表会

日 時：2018年12月8日（土）13:00～14:30

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階 セミナー室

定 員：30名（当日先着順・予約不要） 参加費：無料

大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター

コラボレーション企画

とよなかしりつしょうちゅうがくせいりかく
豊中市立小中学生 理科展

大阪大学
公式マスコットキャラクター
「アリ博士」



てんじ

ナテライト展示

今年の豊中市立小中学生理科展に出品された児童・生徒の自由研究

作品約550点から選ばれた優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で

展示します！最終日には作者による発表もあります！

会場

大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館 3階セミナー室

★入場無料

作品展示

2018 12/1 土～8 土

開館時間 10:30～17:00
(入館は16:30まで) (2日(日)は休館)

発表会

2018 12/8 土
13:00～14:30

定員 30名
当日先着順
予約不要

問合せ先 〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

Tel. 06-6850-6714

アクセス 阪急電鉄 宝塚線 石橋駅 (徒歩10分)



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館・豊中市教育センター
共催：豊中市教育委員会 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 後援：豊中市



▲会場アクセス MAP

※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

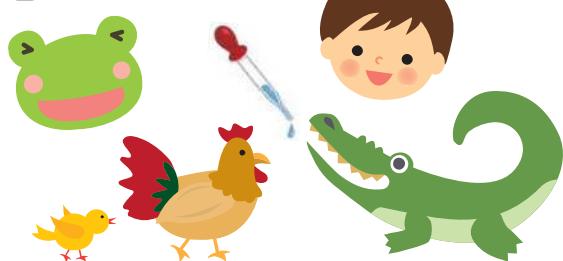
豊中市立小中学生理科展 サテライト展示

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示されている作品は以下の各賞を受賞された作品です。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。



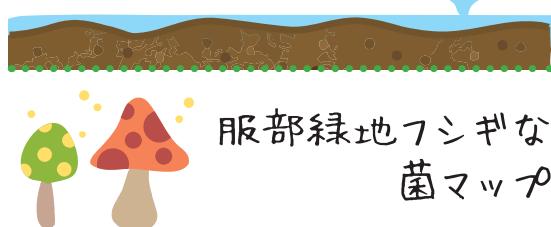
南部陽一郎賞

魚類以外の脊椎動物の唾液の違いを調べよう



大阪大学総合学術博物館長賞

地震の揺れによる砂地盤の液状化のメカニズムと被害について



服部緑地フシギな菌マップ



大阪大学総合学術博物館待兼山賞

新千里東町・北町の公園でカナヅン調査



ゲルマニウム
ラジオと
アンテナの実験



豊中市教育センターあすなろ賞

割れにくいシャボン玉
～空中がだめなら
水の中へ！～



天気と気温の
変化



大阪府学生科学賞 作品テーマ

- ★ゲルマニウムラジオとアンテナの実験
- ★どんな物でもきれいにできるの？～ヤマトシジミの浄化実験～
- ★身近にある葉っぱの秘密
- ★魚類以外の脊椎動物の唾液の違いを調べよう
- ★新千里東町・北町の公園でカナヅン調査
- ★地震の揺れによる砂地盤の液状化のメカニズムと被害について

- ★カブトムシ大研究 第2弾
- ★天気と気温の変化
- ★服部緑地フシギな菌マップ
- ★昆虫採集のすすめ
- ★割れにくいシャボン玉へ空中がだめなら水の中へ！～
- ★筋かいの役割とその強度

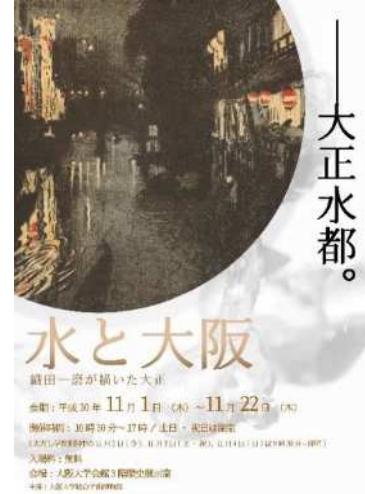


10. 阪大生がつくった展覧会 2018 ベスト 「水と大阪—織田一磨が描いた大正—」

期 間: 2018年 11月 1日(木) ~ 2018年 11月 22日(木)
会 場: 大阪大学会館 3F 歴史展示室

概 要 :

2010 年度より開講している博物館学実習では、受講生が A・B 各日程 4 班ずつに分かれて模擬展示を企画・実施しています。2014 年度から、優秀な展示を歴史展示室にて一般に公開することにしました。今年度は、教員・受講生による投票により A 班・B 班から最優秀班をそれぞれ選出し、両班で新たに企画したものを合同展示として発表しました。



展示概要 :

織田一磨（おだかずま、1882~1956）は、明治期から昭和にかけて活躍した版画家です。明治 15 年に東京で生まれ、12 歳の時に家族と大阪に移ります。思春期を大阪で過ごした後、広島石版印刷所や大阪市役所図案調製所に勤め、東京と大阪を行き来しました。明治 40 年（1907）版画雑誌『方寸』に参加したほか、明治 42 年（1909）、若い文学者や画家が集まった「パンの会」に加わり、画風にも大きな影響を受けました。

葛飾北斎などに関心を抱き研究書を著した一方、画家が原画を描き、版木の彫刻や摺りの作業は職人と分担する浮世絵の方法ではなく、画家自身が原画から版を彫刻して摺る作業まで手掛ける「創作版画」に打ち込み、洋画を基礎に木版画や石版画の技術を学んだ作品は、優れた風景画としての一面も有しています。

織田の人生に深く関わった東京と大阪という二つの都市の姿を、大正 5 年(1916)の『東京風景』と大正 6 年(1917)の『大阪風景』という各 20 点の石版連作にまとめ、発表しましたが、とりわけ河川の多い大阪の景観は、耽美主義とも言われた当時の織田の画風と合致し、『大阪風景』では、思春期を過ごした水都の水辺を中心に、近代化で移り変わる景色が描かれます。

本展では、『大阪風景』20 点のうち 6 作品を「水と大阪」をテーマに紹介し、併せて 2017 年度に大阪大学総合学術博物館に収蔵された『大阪の川岸』を特別展示します。運河や海、雨や雪など、様々な形で水と融合した大正期の大阪風景は、多くの水路が埋め立てられた現代とは異なる魅力で溢れています。織田の描く“水と大阪”をご堪能下さい。

【主な展示品】

- ・織田一磨『大阪風景』より《中之島、四ツ橋雨景、道頓堀川など（複製）》
- ・織田一磨『大阪の川岸』第一章（実物）

11. 総合学術博物館支援スタッフ (ミュージアム・アシスタント)

大阪大学総合学術博物館では、教育的視点および総合学術博物館活性化のため、本学学生を博物館事業の業務に従事させることにより、社会との接点を実践的に学ぶ機会等を提供し、当該学生のコミュニケーション能力向上の一助にすること、経済的な援助を行うことにより当該学生の学生生活を支援させることを目的として、総合学術博物館支援スタッフ(ミュージアム・アシスタント)を2017年7月から雇用しています。

総合学術博物館支援スタッフ(ミュージアム・アシスタント)は具体的には、常設展の解説(ミュージアムトーク)や、総合学術博物館主催イベントの準備対応など、総合学術博物館に関する業務を担当しています。

2018年度のミュージアム・アシスタントの活動実績(活動月・日・人数)

| 活動月 | 活動日(人數) |
|---------|---|
| 2018年4月 | 7日(1名)、14日(3名)、21日(3名)、28日(3名)、30日(1名) |
| 5月 | 1日(2名)、12日(3名)、19日(1名)、26日(2名)、 |
| 6月 | 2日(3名)、9日(2名)、16日(2名)、23日(1名)、30日(1名) |
| 7月 | 14日(2名)、21日(3名)、28日(2名) |
| 8月 | 4日(1名)、18日(1名)、20日(2名)、21日(2名)、22日(2名)、25日(1名) |
| 9月 | 22日(1名)、29日(1名) |
| 10月 | 3日(3名)、6日(2名)、13日(2名)、20日(2名)、27日(3名) |
| 11月 | 3日(3名)、4日(1名)、10日(3名)、15日(1名)、17日(2名)、20日(1名)、24日(1名) |
| 12月 | 1日(1名)、8日(3名)、15日(2名)、22日(2名) |
| 2019年1月 | 12日(2名)、19日(3名)、26日(3名) |
| 2月 | 2日(1名)、9日(2名)、23日(1名) |
| 3月 | 2日(1名)、9日(1名)、23日(1名)、30日(1名) |

活動の様子（常設展の解説）



12. 教員活動報告

2018 年度 教員実績表

(2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 3 月 31 日)

総合学術博物館 館長 永田 靖

| | | |
|--------|-----------|-------|
| 研究・教育部 | 資料基礎研究系 | |
| | ・准教授 | 高橋 京子 |
| | ・特任助教(常勤) | 高浦佳代子 |
| | 資料先端研究系 | |
| | ・教 授 | 上田 貴洋 |
| | ・准 教 授 | 豊田 二郎 |
| | ・准 教 授 | 宮久保圭祐 |
| | 資料情報研究系 | |
| | ・教 授 | 橋爪 節也 |
| | ・助 教 | 横田 洋 |
| 資料部 | ・特任講師(常勤) | 伊藤 謙 |

総合学術博物館 館長

教授 永田 靖

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|-----------------------|---------------|
| 秋～冬学期・共通教育科目[全学部・全学年] | 演劇学入門 |
| 春～夏学期・文学部 | 演劇学講義 |
| 秋～冬学期・文学部 | 演劇学講義 |
| 春～夏学期・文学部 | 演劇学演習 |
| 秋～冬学期・文学部 | 演劇学演習 |
| 春～夏学期・文学部 | 演劇学演習 |
| 春～夏学期・文学部 | 演劇学演習 |
| 秋～冬学期・文学部 | 演劇学演習 |
| 春～夏学期・文学研究科修士課程 | 芸術環境論講義 |
| 春～夏学期・文学研究科修士課程 | 芸術環境論講義 |
| 通年・文学研究科修士課程 | アート・プロデュース論演習 |
| 通年・文学研究科修士課程 | 修士論文作成演習 |
| 春～夏学期・文学研究科博士前期課程 | 演劇学講義 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 演劇学講義 |
| 春～夏学期・文学研究科博士前期課程 | 演劇学演習 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 演劇学演習 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 演劇学演習 |
| 通年・文学研究科博士前期課程 | 芸術計画論演習 |
| 通年・文学研究科博士前期課程 | 修士論文作成演習 |
| 春～夏学期・文学研究科博士後期課程 | 演劇学特殊講義 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士後期課程 | 演劇学特殊講義 |
| 春～夏学期・文学研究科博士後期課程 | 演劇学特殊演習 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士後期課程 | 演劇学特殊演習 |
| 通年・文学研究科博士後期課程 | 演劇学博士論文作成演習 |

学生指導

| 学生数（留学生含む） | 留学生数 | 共同・分担した指導教官人数 |
|------------|------|---------------|
| 38名 | 5名 | 1名 |

学位論文審査等（修士論文・卒業論文省略）

| 学位申請者および論文名 | 主査・副査の別 |
|--|---------|
| 黄資翠 野田秀樹の社会政治劇の成立 | 主査 |
| 秋山良都 統一後ドイツにおけるポザウネンコアの研究-ハノーファー福音ルター派教会教区の事例を中心に | 副査 |

【研究活動】

執筆活動（論文、総説、評論、辞典項目、各種記事など）

| タイトル等 | 掲載誌他 | 報道年月 |
|--|--|------------------------|
| 『街に拓く大学 -大阪大学の社学共創』 | 共編、大阪大学出版会 | 2019年3月 |
| Crossing the Sea: The Ishinha Theatre Company's Geographical Trail | <i>Transnational Performance, Identity and Mobility in Asia</i> , Iris H.Tuan & Ivy Chang (ed.), Palgrave Macmillan, 2018, pp. 53-67 | 2018年 |
| 「関西戦後新劇史 1945～1969」 | 図書新聞 3393号 | 3月30日、2019 |
| 記憶の上演-博物館資料を活用する演劇上演 | Arts and Media | 2018, July, pp.190-193 |

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---|--|----------------|------------|
| 中之島における野外演劇の可能性 | クリエイティブ・ラボ中之島「水辺における野外演劇の可能性」文化庁戦略的芸術文化創造推進事業、中之島センター | 2019年2月24日 | シンポジウム |
| Expanding or going beyond the boundaries of theatre | Asian Theatre WG Seoul Colloquium, <i>Expanding the boundary of theatre</i> , Korean National University of Arts | 22, Feb., 2019 | Colloquium |

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---|--|-----------------|------------|
| 演劇のアジア的転回 -ポスト・グローバリゼーションの時代に向けて | 平成30年度適塾記念講演会、大阪大学中之島センター | 2018年12月10日 | 講演 |
| 劇団維新派のアジアー『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』を中心 | 2018年度大阪・京都文化講座「アジアから関西へ／関西からアジアへ」第7回、立命館大阪梅田キャンパス | 2018年11月26日 | 公開講座 |
| 演劇に劇場がなぜ必要なのか？ | 日本演劇学会研究集会、静岡文化芸術大学 | 2018年11月10日 | 講演ディスカッション |
| Nose Ningyo Joruri: its challenge and dilemma | <i>The 2nd Asian Theatre Summit, Asian Theatre Association, Bangladesh Fine Arts and Performance Academy, Dahka, Banguradesh</i> | 5 October, 2018 | 招待講演 |
| Representation of 'Machuria' in Japanese Post-War Plays | IFTR Belgrade Congress, Theatre and Migration: Theatre, nation and Identity, Manila Conference, Belgrade University | 12 July, 2018, | 研究発表 |
| 演劇と文化現象 | 日本演劇学会 2018 年全国大会、神戸松蔭女子学院大学 | 2018年6月30日 | 会長挨拶 |
| 「演劇と文化現象」日韓演劇学会合同大会 | 韓国演劇学会、日本演劇学会共催、神戸松蔭女子学院大学 | 2018年6月29日 | 会長挨拶 |
| 藝術と教養-藝術は教養たりえるのか？ | 藝術学関連学会連合第 13 回公開シンポジウム、慶應義塾大学来往舎シンポジウムスペース | 2018年6月2日 | 企画・司会・趣旨説明 |
| 「中村貞夫と演劇」 | 「中村貞夫展関連イベント」トーケンショー『歴代博物館長、画伯に迫る』 大阪大学総合学術博物館 | 2018年5月12日 | シンポジウム |

【学会等企画運営】

| 学会名 | 開催地 | 役割 | 期間 |
|---|------------------------------------|---------------------------|---------------------|
| IFTR Asian Theatre WG Seoul Colloquium, <i>Expanding the boundary of theatre,</i> | Korean National University of Arts | Convener, Co-organizer | 21&22, Feb., 2019 |
| IFTR Belgrade Congress, Theatre and Migration: Theatre, nation and Identity, Manila Conference, | Belgrade University, Serbia | Convener | 9-13, July, 2018 |
| The 6 th International Asian Theatre Studies Conference; Controversy & Conciliation | Taipei National University of Arts | Co-Organizer | 2-3 November, 2018 |
| 「演劇と文化現象」日韓演劇学会合同大会 | 神戸松蔭女子学院大学 | 共主催者 | 2018年6月29日 ～7月1日 |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|-------------------------------|-------|-----------------|-------|
| 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B） | 永田靖 | 平成29年～ 平成32年 | 新規 |

【社会貢献、管理運営等】

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|---|---------|---------|-------|
| 日本演劇学会会長 | 2013年6月 | | 継続 |
| International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Convener | 2009年6月 | | 継続 |
| 21世紀懐徳堂学主 | 2015年8月 | 2021年8月 | 継続 |
| 総合学術博物館長 | 2015年8月 | 2021年3月 | 継続 |
| 兵庫県立尼崎青少年創造劇場企画委員 | 2013年4月 | | 継続 |
| 吹田市文化振興事業団理事 | 2014年4月 | | 継続 |
| 社学共創本部長 | 2017年8月 | 2021年8月 | 継続 |
| 豊中市立文化芸術審議会委員 | 2015年6月 | | 継続 |

研究・教育部 一 資料基礎研究系
准教授 高橋京子

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|---------------------|--------------|
| 春～夏学期・薬学部・4回生・薬学研究科 | 漢方薬学（分担） |
| 薬学部・薬学科（6年制）・3回生 | 長期課題研究 |
| 薬学部・薬学科（6年制）・5回生 | 長期課題研究 |
| 薬学部・薬科学科（4年制）・4回生 | 卒業研究 |
| 春～夏学期 薬学研究科 | 伝統医薬解析学特別講義 |
| 通年 薬学研究科（修士課程） | 創成薬学ゼミナール1 |
| 通年 薬学研究科（博士課程） | 医療薬学ゼミナール3 |
| 通年 薬学研究科（博士課程） | 特別演習 |
| 共通教育基礎セミナー | 博物館体験コース（分担） |

学生指導

| 学生数（留学生含む） | 留学生数 | 共同・分担した指導教官人 数 |
|------------|------|-------------------|
| 7名 | 0名 | 0名 |

学位論文審査等

| 学位申請者および論文名 | 主査・副査の別 |
|--|---------|
| 末元 吹季 地域特産果樹を活用した生薬国産化研究： <i>Prunus persica</i> と <i>Diospyros kaki</i> | 主査 |
| 奥薗 彰吾 伝統と暗黙知に基づく地域性の強化：大分県竹田市のサフラン栽培 | 主査 |
| 中村 朝実 伝統的薬用芍薬の潜在的資源探査と応用：耕作放棄地のシャクヤク栽培 | 主査 |
| 家入 啓至 大分県竹田市のサフラン栽培：伝統知が育む香気特性品質 | 主査 |

学外での教育活動（集中講義等）

| 授業科目名 | 機関名 | 期間 |
|----------------------------|------------------|-----------------|
| 専門科目 生活と福祉 漢方今昔物語：生薬国産化 | 放送大学 大阪学習センター | 2018年10月20日～21日 |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|--|------------------------------|-------------------------------------|--------------|-------|
| 柿蒂の薬能及び薬用部位に関する史的深化 | 楠木歩美、高浦(島田)佳代子、 <u>高橋京子</u> | 薬史学雑誌 | 53:43-49 | 2018年 |
| 『緒方洪庵の薬箱』収載生薬の統計学的解析：数値化に基づく緒方洪庵の治療観の考察 | 高浦(島田)佳代子、川瀬 雅也、 <u>高橋京子</u> | 薬史学雑誌 | 53:50-55 | 2018年 |
| 新たな医療文化の形成：緒方洪庵の薬箱研究 | 高橋 京子 | 薬史学雑誌 | 53:1-7 | 2018年 |
| 大和薬種の伝統：歴史と風土に守られた奈良の生薬、(依頼原稿) | 高橋 京子 | approach Autumn | 223:4-5, | 2018年 |
| The medicinal traditions of Nara-Preserving herbal ingredients | Kyoko Takahashi | approach 2018 Autumn-Special Report | 223-sp. :1-2 | 2018年 |

著書

| 著書名 | 著者名 | 出版社 | 頁数 | 発行年月 |
|------------------------|-----------|---------|----------------|---------|
| 社学共創本部叢書 新版 緒方洪庵と適塾 | 適塾記念センター編 | 大阪大学出版会 | pp22-25 29日 | 2019年3月 |

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

| タイトル等 | 報道機関名 | 報道年月 |
|--|-----------|------------|
| 六史学会講演報告「緒方洪庵の薬箱研究を可能にした大阪大学所蔵ケシ標本の意義」 | 薬史レター第81号 | 2019年3月 |
| あちこち聖地 森野旧薬園：医の知恵守る 枯れぬ情熱 | 読売新聞 夕刊 | 2018年7月17日 |

学術講演会など

| 講演タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---|------------------------|--------------------|---|
| 新たな医療文化の形成：緒方洪庵の薬箱研究、(招待講演) | 東京大学 東京 | 2018年4月14日 | 日本薬史学会総会・特別講演 |
| Morino-kyuyakuen Garden and the Matsuyama-honzo, (Invitation) | 中国・蘄春 Qichun, China | 2018年5月25日 ~28日 | 2018 Lishizhen Health International Summit Forum of TCM |

| 講演タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|---------------|-------------|--|
| 緒方洪庵の薬箱研究を可能にした大阪大学所蔵ケシ標本の意義 (招待講演) | 順天堂大学、東京 | 2018年12月15日 | 六史学会合同例会 |
| 薬食同源の実践：竹田ブランドサフランの品質特性を活かす | 竹田市総合文化ホール、大分 | 2019年3月29日 | 科研基盤B特設研究成果報告会 竹田式サフラン栽培の伝統と革新～世界品質のサフランを未来へ、そして世界へ～ |

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|--------------------|----------------|-----------------|
| 日本東洋医学会生薬原料委員会調査報告に基づく漢方生薬処方実態の可視化 | 大阪国際会議場、大阪 | 2018年6月9日～10日 | 日本東洋医学会69年会 |
| 緒方洪庵使用薬箱の材質調査：非破壊的手法による実態把握、 | 高知市文化プラザかるぽーと、高知 | 2018年6月16日～17日 | 文化財保存修復学会第40回大会 |
| 適塾の医療文化財に現存する麻薬等規制対象物に関する研究 | 香川大学、高松 | 2018年6月21日～22日 | 第13回日本博物科学会 |
| 耕作放棄地での薬用シャクヤク栽培におけるマルチの有無および種類が定植1年目の生育に及ぼす影響 | 鹿児島大学・郡元キヤンパス、鹿児島 | 2018年9月22日～24日 | 園芸学会平成30年度秋季大会 |
| 香気特性に着目した新規アプローチ：サフランの品質評価 | 長良川国際会議場、岐阜 | 2018年9月1日～2日 | 第35回和漢医薬学会 |
| サフランの品質評価：メタロミクスによる特性比較 | 安田女子大学、広島 | 2018年9月16日～17日 | 日本生薬学会第65回年会 |
| 緒方洪庵の晩年期使用薬箱：現存薬品の特性、 | メディアシップ2階 日報ホール、新潟 | 2018年10月27日 | 日本薬史学会2018年会 |
| 緒方洪庵の薬箱研究：生薬基原の史的深化とマテリアルサイエンス | 大阪大学総合学術博物館、大阪豊中 | 2018年12月12日 | 第5回大学総合学術博物館研究会 |
| 耕作放棄地の活用を図る：伝統的薬用芍薬の潜在的資源探査と応用、 | 東京農大・厚木キャンパス、神奈川 | 2018年12月8日～9日 | 薬用植物栽培研究会 |
| 伝統と暗黙知に基づく地域性の強化：大分県竹田市のサフラン栽培、 | 東京農大・厚木キャンパス、神奈川 | 2018年12月8日～9日 | 薬用植物栽培研究会 |
| 大和芍薬の潜在的資源探査と応用：耕作放棄地再生への取組 | 幕張メッセ、千葉 | 2019年3月22日～24日 | 日本薬学会第139年会 |
| 大分県竹田市のサフラン栽培：伝統知が育む香気特性品質 | 幕張メッセ、千葉 | 2019年3月22日～24日 | 日本薬学会第139年会 |

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|-------------------------------------|----------|----------------|-------------|
| 緒方洪庵の壯年期薬箱：『撒尔』の基原に関する史的深化と実地臨床、 | 幕張メッセ・千葉 | 2019年3月22日～24日 | 日本薬学会第139年会 |
| 緒方洪庵の壯年期使用薬箱「蘭苔」基原の史的深化とマテリアルサイエンス、 | 幕張メッセ・千葉 | 2019年3月22日～24日 | 日本薬学会第139年会 |

報道

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|------------------------------|---------------|------------|-------------------|
| 『薬草のタイムカプセル』～奈良・森野旧薬園の四季～ | 毎日放送 映像'18 放送 | 2018年9月30日 | BS-TBS 再放送(1時間番組) |
| あちこち聖地 森野旧薬園：医の知恵守る 枯れぬ情熱 | 読売新聞 夕刊 | 2018年7月17日 | |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|---|-------|-----------|-------|
| 日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 A 近世医療文化財の普遍的価値創成：『薬箱』の包括的保存技術の確立と実践 | 高橋京子 | 2017-2019 | 継続 |
| 日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 B (特設分野研究) 薬食同源を実現する特産園芸作物の歴史的探索評価および多角的総合利用技術の開発 | 後藤一寿 | 2017-2020 | 継続 |
| 日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 C 農業・農村を基盤としたアグリセラピーを契機とした共生福祉社会の展開可能性 | 中川光弘 | 2017-2019 | 継続 |
| 日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 C 博物資料利活用のパラダイムシフト：なにわ発・生薬遺産アーカイブ | 高浦佳代子 | 2018-2020 | 新規 |
| 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」 分担 | 川嶋浩樹 | 2016-2020 | 継続 |

寄付

| 寄付名 | 寄付者名 | 金額 | 受入年月 | 継続/新規 |
|------------------------------------|------|-------|---------|-----------|
| 高橋京子薬用資源・伝統医薬研究助成金 (J100903073) | 長江義明 | 300万円 | 2018年8月 | 新規(薬学研究科) |

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

| 講演名・題目 | 場所 | 主催者名 | 年月日 |
|---|-------------------|----------------------------|---------------------|
| 2018年春季展覧会開催 「生薬ワンダーランド～森野旧薬園所蔵古石コレクションと松山本草～」 | 森野旧薬園 奈良県・宇陀市 | 森野旧薬園・大阪大学総合学術博物館資料基礎研究計主催 | 2018年4月 1日～6月17日 |
| 植村左平次政勝と森野旧薬園、第3回松阪市民大学 | 松坂市公民館 三重県・松阪市 | 松坂市公民館松阪学講座 | 2018年10月 16日 |
| 科研基盤B特設研究会・オランダにおける施設農業の展開と園芸療法の実践～ワーヘニンゲン大 | ワーヘニンゲン 大・オランダ | 基盤B特設研究 成果報告会 | 2018年7月 17日 |

団体見学の説明等

| 団体名（人数） | 説明日 | 備考 |
|--|-------------|---------|
| 新入職員研修（39名） | 2018年4月10日 | 上田・高橋担当 |
| (株)ツムラ東洋医学推進課（3名） | 2018年4月26日 | 高橋・高浦担当 |
| 高知県立牧野財団水上元理事長他（2名） | 2018年5月31日 | 高橋・高浦担当 |
| MA常設説明会 | 2018年6月30日 | MA監督 |
| MA常設説明会 | 2018年8月25日 | MA監督 |
| MA常設説明会 | 2018年11月17日 | MA監督 |
| サイエンスカフェNo.150「グローバルな人の移動の経済学」佐伯康考コーディネーター | 2019年3月2日 | 司会 |

相談

| 相談分類 | 開始年月 | 終了年月 |
|--|----------|------|
| 江戸期医療事情・薬草（奈良県医療政策部）アドバイザー（漢方のメッカ推進プロジェクト） | 2013年12月 | 継続中～ |
| 史跡・森野旧薬園保存管理計画策定委員会 副委員長（宇陀市教育委員会文化財課） | 2015年11月 | 継続中～ |
| 高知県立牧野植物園 アドバイザー | 2014年4月 | 継続中～ |

学内の各種委員等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|-----------------|---------|------|-------|
| 大阪大学適塾記念センター | 2011年4月 | | 継続 |
| 大阪大学男女協働推進センター | 2015年4月 | | 継続 |
| 総合学術博物館・企画調整委員会 | 2016年4月 | | 新規 |
| 同 グローバル・情報委員会 | 2016年4月 | | 新規 |
| 同 博物館教育推進委員会 | 2016年4月 | | 新規 |
| 適塾記念会 幹事 | 2015年 | | 新規 |

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

| 委員会名 | 役職 | 期間 | 継続/新規 |
|----------------|--------------------|--------|-------|
| 日本薬理学会 | 学術評議員 | 2006年～ | 継続 |
| 富山大学和漢医薬総合研究所 | 特任研究員 | 2011年～ | 継続 |
| 日本薬学会近畿支部会 | 委員 | 2007年～ | 継続 |
| 高知県立牧野植物園 | 上席客員研究員～ アドバイザー | 2013年～ | 継続 |
| 日本東洋医学会生薬原料委員会 | 委員 | 2014年～ | 継続 |
| 日本薬史学会 | 評議員 | 2015年～ | 継続 |
| 東大阪文化財保護審議委員会 | 委員 | 2017年～ | 継続 |

研究・教育部 一 資料基礎研究系

特任助教(常勤)・高浦 佳代子

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|-----------------------|------------------------|
| 春～夏学期・共通教育科目(全学部・全学年) | 博物館体験コース(共担) |
| 春～夏学期・大学院薬学研究科 | 伝統医薬解析学特別講義(共担) |
| 大学院横断科目・学際融合教育科目(集中) | 実践ミュージアムコミュニケーション学(共担) |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|---|---------------------|-------|----------|---------|
| 『緒方洪庵の薬箱』収載生薬の統計学的解析：数値化に基づく緒方洪庵の治療観の考察 | 高浦(島田)佳代子、川瀬雅也、高橋京子 | 薬史学雑誌 | 53・50-55 | 2018年6月 |
| 柿蒂の薬能及び薬用部位に関する史的深化 | 楠木歩美、高浦(島田)佳代子、高橋京子 | 薬史学雑誌 | 53・43-49 | 2018年6月 |

著書

| 著書名 | 著者名 | 出版社 | 頁数 | 発行年月 |
|------------|-----------|---------|---------|------------|
| 新版 緒方洪庵と適塾 | 適塾記念センター編 | 大阪大学出版会 | pp22-25 | 2019年3月29日 |

学術講演会など

| 講演タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--------------------------|-----------------------------------|----------------|--|
| 竹田式サフラン栽培の歴史検証：篤農技術確立への道 | 竹田市総合文化ホール グラントたけた(大分県 竹田市) | 2019年3月 29日 | 科学研究費基盤(B)特設研究 成果報告会 竹田式サフラン栽培の伝統と革新～世界品質のサフランを未来へ、そして世界へ～ の1演題として登壇 |

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|------------------------------------|-------------------------|----------------|------|
| 日本東洋医学会生薬原料委員会調査報告に基づく漢方生薬処方実態の可視化 | 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) | 2018年6月8日～10日 | 口頭発表 |
| 緒方洪庵使用薬箱の材質調査：非破壊的手法による実態把握 | 文化財保存修復学会第40回大会 (高知) | 2018年6月16日～17日 | 口頭発表 |

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|-----------------------|----------------|--------|
| 適塾の医療文化財に現存する麻薬等規制対象物に関する研究 | 第13回博物科学会(高松) | 2018年6月21日～22日 | 口頭発表 |
| 香気特性に着目した新規アプローチ：サフランの品質評価 | 第35回和漢医薬学会学術大会(岐阜) | 2018年9月1日～2日 | 口頭発表 |
| サフランの品質評価：メタロミクスによる特性比較 | 日本生薬学会第65回年会(広島) | 2018年9月16日～17日 | 口頭発表 |
| 耕作放棄地での薬用シャクヤク栽培におけるマルチの有無および種類が定植1年目の生育に及ぼす影響 | 日本園芸学会平成30年度秋季大会(鹿児島) | 2018年9月22日～24日 | 口頭発表 |
| 耕作放棄地の活用を図る：伝統的薬用芍薬の潜在的資源探査と応用 | 薬用植物栽培研究会第1回研究総会(神奈川) | 2018年12月8日～9日 | 口頭発表 |
| 伝統と暗黙知に基づく地域性の強化：大分県竹田市のサフラン栽培 | 薬用植物栽培研究会第1回研究総会(神奈川) | 2018年12月8日～9日 | ポスター発表 |
| 大和芍薬の潜在的資源探査と応用：耕作放棄地再生への取組 | 日本薬学会第139年会(千葉) | 2019年3月20日～23日 | 口頭発表 |
| 大分県竹田市のサフラン栽培：伝統知が育む香気特性品質 | 日本薬学会第139年会(千葉) | 2019年3月20日～23日 | 口頭発表 |
| 緒方洪庵の壮年期使用薬箱『蘭苔』基原の史的深化とマテリアルサイエンス | 日本薬学会第139年会(千葉) | 2019年3月20日～23日 | 口頭発表 |
| 緒方洪庵の壮年期薬箱：『撒尔』の基原に関する史的深化と実地臨床 | 日本薬学会第139年会(千葉) | 2019年3月20日～23日 | 口頭発表 |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|--|--------|--------------------------|-------|
| 農林水産省 委託プロジェクト研究 市場開拓に向けた取組を支える研究開発 「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」 | 川嶋 浩樹 | 2016年度～2020年度 | 継続 |
| 公益財団法人 日本食品化学研究振興財団 平成30年度研究助成金「安全・高品質な国産サフラン生産拡大のためのアクションリサーチ：アグリセラピーへの応用と地域健康力の向上」 | 高浦 佳代子 | 2018年4月～2019年3月 (継続可) | 継続 |
| 日本学術振興会 科研費 基盤研究(C)「博物資料利活用のパラダイムシフト：なにわ発・薬業遺産アーカイブ」 | 高浦 佳代子 | 2018年4月～2021年3月 | 新規 |

団体見学の説明等

| 団体名（人数） | 説明日 | 備考 |
|----------------------------------|------------|-------------|
| ㈱ツムラ東洋医学推進課(4名) | 2018年4月26日 | |
| 高知県立牧野財団・水上元理事長&東京農業大学・妙田准教授(2名) | 2018年5月31日 | |
| 理学部サマースクールに参加する特別聴講学生(留学生)(18名) | 2018年7月17日 | |
| 大阪大学理学部生物(20名) | 2018年8月7日 | 生物学野外実習(講義) |

学内の各種委員会等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|--------------------|---------|------|-----------|
| 総合学術博物館・グローバル教育委員会 | 2018年4月 | | 継続(委員会統合) |

研究・教育部 一 資料先端研究系
教授 上田貴洋

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|----------------------------|------------------------|
| 春～夏学期・共通教育科目[全学部・全学年] | 博物館体験コース（共担） |
| 春～夏学期・共通教育・専門基礎科目[理学部・1年生] | 基礎化学1 |
| 通年・理学部化学科・4年生 | 化学特別研究 |
| 通年・理学部化学科・4年生 | 化学文献調査 |
| 春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化） | 核磁気共鳴分光学(I)（共担） |
| 春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化） | 核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担） |
| 春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化） | 核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担） |
| 秋～冬学期・理学研究科博士前期課程（化） | 核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担） |
| 秋～冬学期・理学研究科博士前期課程（化） | 核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担） |
| 通年・理学研究科博士後期課程（化） | 核磁気共鳴分光学特別セミナーI |
| 通年・理学研究科博士後期課程（化） | 核磁気共鳴分光学特別セミナーII |
| 通年・理学研究科博士後期課程（化） | 核磁気共鳴分光学特別セミナーIII |
| 大学院横断科目・学際融合教育科目（集中） | 実践ミュージアムコミュニケーション学（共担） |

学生指導

| 学生数（留学生含む） | 留学生数 | 共同・分担した指導教官人数 |
|---------------|------|---------------|
| 1名（理学研究科化学専攻） | 0 | 2 |
| 3名（理学部化学科） | | 1 |

学位論文審査等

| 学位申請者および論文名 | 主査・副査の別 |
|---|---------|
| 山田和哉 固体NMRと光学・電子顕微鏡を組み合わせた大腸菌生細胞の多層階定量解析法に関する研究 (博士学位論文・大阪大学大学院理学研究科化学専攻) | 副査 |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|---|--|------------------|-----------------------|------|
| Structure and Dynamic Behavior of the Na-Crown Ether Complex in the Graphite Layers Studied by DFT and ¹ H NMR | K. Gotoh*, S. Kunimitsu, H. Zhang, M. M. Lerner, K. Miyakubo, T. Ueda, H.-J. Kim, Y.-K. Han, and H. Ishida | J. Phys. Chem. C | 122 (20), 10963-10970 | 2018 |

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---|--|----------------|----------------|
| NMR Study of Dynamic Hydration Structure of Ions Confined in Nanospace | Ryota Ogura, Takahiro Ueda, the 8th Pacific Basin Conference on Adsorption Science and Technology (PBAST-8) (北海道大学) | 2018年9月3日～5日 | ポスター (大学院生) |
| メソ孔内に生成した水和イオンのNMR法による動的構造評価 | 小倉涼太、○上田貴洋、日本化学会第99春季年会 (兵庫県神戸市 甲南大学・岡本キャンパス) | 2019年3月16日～19日 | 口頭 |
| Subnanometer Scale gaps between graphene oxide layers with Water adsorption | Ryuuke FUTAMURA, Taku IIYAMA, Takahiro UEDA, Katsumi KANEKO, 日本化学会第99春季年会 (兵庫県神戸市 甲南大学・岡本キャンパス) | 2019年3月16日～19日 | 口頭 |

研究（学会）発表の世話人、座長、受賞審査など

| 学会・研究集会など（場所） | 年月日 | 件数 | 備考 |
|---|---------------|-------------------|----------------|
| 日本化学会第99春季年会（兵庫県神戸市 甲南大学・岡本キャンパス） | 2019年3月16-19日 | 5件（座長） 6件（審査員） | |
| 第32回日本吸着学会研究発表会（大阪大学・豊中キャンパス） | 2018年11月8-9日 | | 実行委員会 委員長 |
| the 8th Pacific Basin Conference on Adsorption Science and Technology (PBAST-8) (北海道大学) | 2018年9月3-5日 | | プログラム 編集委員長 |

論文査読など

| 学術雑誌 | 件数 | 備考 |
|------------------------------|----|----|
| Adsorption (Springer Nature) | 1 | |
| 山田科学振興財団研究援助 | 1 | |

【共同研究および外部資金獲得状況】

寄付

| 寄付名 | 寄付者名 | 金額 | 受入年月 | 継続/新規 |
|-----------|------------------|-------|-----------------|-------|
| 社学術相談必要経費 | LG Japan Lab 株式会 | 55 万円 | 2018 年 7 月 12 日 | 新規 |

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

| 講演名・題目 | 場所 | 主催者名 | 年月日 |
|---|---------------------|------------------------|------------------|
| 大阪大学理学部化学科新入生研修・大阪大学総合学術博物館の教育・研究・社会貢献 | 理学 J 棟 2 階 南部陽一郎ホール | 大阪大学理学部化学科 | 2018 年 4 月 14 日 |
| 第 64 回豊中市立小中学生理科展表彰式 理科研究に関する講演 | 豊中市教育センター | 豊中市教育センター | 2018 年 11 月 17 日 |
| サイエンスカフェ@中央公民館 C-8 : 吸着～私たちの生活を支える古くて新しい科学技術～ | 豊中市立中央公民館 | 大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館 | 2019 年 2 月 9 日 |

団体見学の説明等

| 団体名（人数） | 説明日 | 備考 |
|-------------------------|------------------|--------|
| 大阪大学 新入職員研修 | 2018 年 4 月 10 日 | 2 名で共担 |
| 大阪大学理学部化学科（新入生研修）（79 名） | 2018 年 4 月 14 日 | |
| 桜井谷地区社会福祉協議会（約 30 名） | 2018 年 11 月 24 日 | |
| 奈良市立一条高等学校（41 名） | 2018 年 11 月 26 日 | |

相談

| 相談分類 | 開始年月 | 終了年月 |
|------------------------|----------------|------------------|
| 学術相談「低濃度臭気吸着剤開発に関する相談」 | 2018 年 7 月 1 日 | 2018 年 12 月 31 日 |

学内の各種委員等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|--|----------|------|-------|
| 図書館委員会委員 | 2012年4月 | | 継続 |
| 総合図書館図書選定小委員会委員 | 2012年4月 | | 継続 |
| 計画・評価委員会 委員 | 2014年4月 | | 継続 |
| 21世紀懐徳堂運営委員会 副委員長 | 2015年11月 | | 継続 |
| 大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業 記念出版・展示実行委員会委員 | 2017年1月 | | 継続 |
| 大阪大学共創機構社学共創本部副本部長 | 2018年1月 | | 継続 |
| 大阪大学共創機構社学共創本部 インターナショナル共創部門長 | 2018年1月 | | 継続 |

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

| 委員会名 | 役職 | 期間 | 継続/新規 |
|-----------------|-----------|----------|-------|
| 日本吸着学会 運営委員会 | 運営委員 | 2014年4月～ | 継続 |
| 日本吸着学会 | 理事 | 2017年4月～ | 新規 |
| 日本吸着学会第32回研究発表会 | 実行委員会 委員長 | 2018年11月 | 新規 |
| 豊中市学校教育審議会委員 | 委員 | 2015年6月～ | 継続 |
| 大阪大学生協 | 教職員理事 | 2014年5月～ | 継続 |
| 大阪大学生協 | 教職員常任理事 | 2017年5月～ | 新規 |

研究・教育部 一 資料先端研究系
准教授 豊田二郎

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|---------------|-------------|
| 春学期・工・1 | 化学基礎論 AI |
| 夏学期・工・1 | 化学基礎論 AI |
| 春～夏学期・歯、基礎工・2 | 化学実験 |
| 春～夏学期・理・M1 | 核磁気共鳴分光学(I) |
| 夏学期・理・M1 | 核磁気共鳴分光学(I) |

学外での教育活動（集中講義等）

| 授業科目名 | 機関名 | 期間 |
|------------------|------|-------|
| 大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化 | 関西大学 | 5月26日 |

【研究活動】

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---------------------|--------|-----------|---------------|
| セルロース加水分解過程の計算化学的研究 | 東京工業大学 | 2018年9月6日 | 第30回基礎有機化学討論会 |

【社会貢献、管理運営等】

団体見学の説明等

| 団体名（人数） | 説明日 | 備考 |
|------------------|-------|----|
| 広島市立大塚中学校 2学年 8名 | 5月22日 | |
| 近畿大学附属高校 80名 | 7月13日 | |
| X線の会 30名 | 9月8日 | |

学内の各種委員等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|------------------------|-----------|------|-------|
| ODINS 運用部会 部局ネットワーク担当者 | 2002年4月1日 | | 継続 |

研究・教育部 一 資料先端研究系
准教授 宮久保圭祐

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|-------------------------------------|-------------------|
| 春～夏学期・医学部医学科・1年 | 共通教育専門基礎教育科目・化学概論 |
| 春～夏学期・歯学部歯学科・2年 基礎工学部化学応用化学科・2年 | 共通教育専門基礎教育科目・化学実験 |
| 秋～冬学期・医学部保険学科・1年 基礎工学部システム工学科・2年 | 共通教育専門基礎教育科目・化学実験 |
| 春～夏学期・理学研究科・博士課程前期 | 核磁気共鳴分光学 (共担) |
| 春～夏学期・全学部・1年 | 博物館体験コース (共担) |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|---|---|-------------------------|------------------------|-------------|
| Structure and Dynamic Behavior of the Na-Crown Ether Complex in the Graphite Layers Studied by DFT and ${}^1\text{H}$ NMR | K. Gotoh, S. Kunimitsu, H. Zhang, M. M. Lerner, K. Miyakubo, T. Ueda, H.-J. Kim, Y.-K. Han, and H. Ishida | <i>J. Phys. Chem. C</i> | 122・20・10963 -10970 | 2018年 5月 |

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

| 講演名・題目 | 場所 | 主催者名 | 年月日 |
|---|--------------------|----------------------------------|------------|
| 大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化 大阪大学総合学術博物館フィールドワーク | 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 | 関西大学 ・コンソーシアム大阪 | 2018/6/2 |
| ～繋げる・拡げる～わくわく学習教室 with Osaka University 「冷やしてわかる？ものの正体」担当 | 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 | (株) 新興出版社啓林 館・ 大阪大学総合学術博物館 | 2018/11/24 |

団体見学の説明等

| 団体名（人数） | 説明日 | 備考 |
|--------------------------|-----------|----|
| 岡山県立倉敷青陵高等学校（85） | 2018/5/19 | |
| 上宮高等学校（39） | 2018/7/18 | |
| 国立大学法人 10 大学理学部事務長会議(24) | 2019/1/31 | |
| ヒューマンアカデミー日本語学校大阪校(13) | 2019/2/15 | |
| ヒューマンアカデミー日本語学校大阪校(13) | 2019/2/22 | |
| NPO 法人大阪府高齢者大学校同窓会北部(36) | 2019/3/18 | |

学内の各種委員等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|-----------------------|---------|------|-------|
| 全学教育推進機構専門基礎教育部門 化学部会 | 2018/04 | | 新規 |
| 豊中地区安全衛生委員会 | 2015/04 | | 継続 |
| 総合学術博物館湯川記念室 | 2015/04 | | 継続 |

研究・教育部 一 資料情報研究系
教授 橋爪節也

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|-------------------|---|
| 春～夏学期・文学部 | 東洋美術史演習〔共担〕 |
| 春～夏学期・文学部 | 日本美術史演習 |
| 春～夏学期・共通教育科目 | 博物館体験コース〔共担〕 |
| 春～夏学期・文学研究科博士前期課程 | 東洋美術史修士論文作成演習〔共担〕 |
| 春～夏学期・文学研究科博士前期課程 | 日本美術史演習 |
| 春～夏学期・文学研究科博士後期課程 | 東洋美術史博士論文作成演習〔共担〕 |
| 春～夏学期・文学研究科博士後期課程 | 日本美術史特殊演習 |
| 秋～冬学期・文学部 | 東洋美術史演習〔共担〕 |
| 秋～冬学期・文学部 | 日本美術史講義 |
| 秋～冬学期・文学部 | 日本美術史演習 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 東洋美術史修士論文作成演習〔共担〕 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 日本美術史講義 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士前期課程 | 日本美術史演習 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士後期課程 | 東洋美術史博士論文作成演習〔共担〕 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士後期課程 | 日本美術史特殊講義 |
| 秋～冬学期・文学研究科博士後期課程 | 日本美術史特殊演習 |
| 通年・文学部 | 日本美術史演習(見学演習1)〔共担〕 |
| 通年・文学部 | 日本美術史演習(見学演習2)〔共担〕 |
| 通年・文学部 | 博物館学(学内実習)〔共担〕 |
| 通年・文学研究科博士前期課程 | 日本美術史演習(見学演習1)〔共担〕 |
| 通年・文学研究科博士前期課程 | 日本美術史演習(見学演習2)〔共担〕 |
| 通年・文学研究科博士後期課程 | 日本美術史特殊演習(見学演習1)〔共担〕 |
| 通年・文学研究科博士後期課程 | 日本美術史特殊演習(見学演習2)〔共担〕 |
| 工学部1年生 9月開催 | 学外研修 |
| 一般・学生 | 「記憶の劇場」大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」 |

学生指導

| 学生数（留学生含む） | 留学生数 | 共同・分担した指導教官人数 |
|-----------------------------------|------------|---------------|
| 27名 文学部（学部12）・文学研究科（前期課程3、後期課程12） | 1名（博士前期課程） | 2名 |

学位論文審査等

| 学位申請者および論文名 | 主査・副査の別 |
|--|---------|
| 中村真菜美 谷文晁研究－大名文化圏における風景愛好趣味との関わりに着目して | 主査 |

学外での教育活動（集中講義等）

| 授業科目名 | 機関名 | 期間 |
|-------|----------|------------|
| 大阪学 | 帝塚山学院大学 | 2018年4月～5月 |
| 古美術研究 | 愛知県立芸術大学 | 2018年10月 |
| 古美術研究 | 広島市立芸術大学 | 2018年12月 |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|--|------|---|---|------------|
| 「大大阪モダニズム」の復権—「阪神間モダニズム」と私鉄沿線モダニズムの再検証 | 橋爪節也 | 『美術フォーラム 21』 | 第37号特集：「地方美術史」って何？—三つのアプローチ | 2018年5月30日 |
| “大大阪”と美術館—理想の文化都市建設を目指した時代— | 橋爪節也 | 『融合時代の都市政策提言誌』 | Vol.26 特集・芸術文化と都市の新時代—芸術文化都市大阪を目指して—」一般財団法人大阪地域振興調査会 16～18頁 | 2018年7月 |
| GREATERとGREATのはざまで—「大大阪」再発見と言葉の問題 | 橋爪節也 | 大阪市中央公会堂開館100周年記念特別展「大大阪モダニズム—片岡安の仕事と都市の文化」図録、大阪くらしの今昔館 | 72～74頁 | 2018年7月 |

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|----------------------------------|------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------|
| 大大阪と画家たち第三回 小出檜重と「下手もの漫談」 | 橋爪節也 | 『やそしま』 | 第12号 関西・大阪21世紀協会、上方文化芸能運営委員会 82~144頁 | 2018年12月1日 |
| 新しいミュゼオロジーの開拓—大学博物館は地域の“記憶”を搖さぶる | 橋爪節也 | 永田靖、佐伯康考編『大阪大学社会共創叢書1 街に拓く大学』大阪大学出版会 | 115~163頁 | 2019年3月 |

著書

| 著書名 | 著者名 | 出版社 | 頁数 | 発行年月 |
|--|-----------|---------|------|------------|
| 精神と光彩の画家 中村貞夫 搖籃期から世界四大文明を超えて（大阪大学総合学術博物館叢書15） | 橋爪節也・竹中哲也 | 大阪大学出版会 | 114頁 | 2018年5月 |
| 大阪市の昭和 | 橋爪節也 | 樹林社 | 288頁 | 2018年11月9日 |
| 『美術フォーラム21』第37号特集：「地方美術史」って何？—三つのアプローチ | 橋爪節也編集 | 醍醐書房 | | 2018年5月30日 |

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

| タイトル等 | 報道機関名 | 報道年月 |
|---|---|-------------|
| 大阪市中央公会堂開館100周年記念特別展「大大阪モダニズム - 片岡安の仕事と都市の文化 -」図録解説 | 大阪くらしの今昔館 7頁、28・29頁、15~24頁、40頁、43~48頁 | 2018年7月 |
| 大阪しちーだいば～11 「“大大阪”って何だ？」 対談 仲野徹・橋爪節也 | 『望星』7月号 東海教育研究所 | 2018年6月15日 |
| モダニズムの都市イメージが面白い—洋画家・小出檜重、日本画家・池田遙邨の“大大阪”— | 『あんじゅ』VOL75・2018夏号 大阪市立住まい情報センター | 2018年7月 |
| 現代人にこそ理解されるべきマルチな才能—暁鐘成 | 「暁鐘成のしおり」大阪ガス エネルギー文化研究所発行 | 2018年9月4日発行 |
| 大大阪へのサウダージと秋田實を巡る断想 | 『大阪春秋』第172号—没後40年漫才の父・秋田實とその時代 新風書房 40頁～43頁 | 2018年11月 |

| タイトル等 | 報道機関名 | 報道年月 |
|--|--|-------------|
| 「大大阪モダニズム」の時代によるこそ | 永美太郎『エコール・ド・プラトーン』第1巻、解説リイド社、218・219頁 | 2019年1月31日 |
| 文化的な土壤改良が大阪の地盤沈下を解決する、か？ | 「CEL」121号【特集】ルネッセ 今とこれから、大阪ガス エネルギー・文化研究所、28～29頁 | 2019年3月1日 |
| 絵を飾る人のキモチ第16回 雨の絵はブルーなきもち？－池田遙邨の《雨の大坂》 | いきかたのカタチ 住ムフムラボ https://www.sumufumulab.jp/column/ | 2018年6月27日 |
| 絵を飾る人のキモチ第17回 大阪市中央公会堂に住むとすれば……竣工100周年の美しき館をめぐる些細な妄想 | いきかたのカタチ 住ムフムラボ https://www.sumufumulab.jp/column/ | 2018年9月27日 |
| 絵を飾る人のキモチ第18回 「雲の峰は大阪の焼けたる煙かな」青木月斗－この一年を締めくくる掛け軸をどう掛ける | いきかたのカタチ 住ムフムラボ https://www.sumufumulab.jp/column/ | 2018年12月27日 |
| 絵を飾る人のキモチ第19回 「とんぼの惑星のマンションに絵を掛けるとどう見えるか、たこたこ眼鏡と大阪 | いきかたのカタチ 住ムフムラボ https://www.sumufumulab.jp/column/ | 2018年3月22日 |
| なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く24 関西の味－うまいもんを描く－ 聞き手 橋爪節也・古川武志／構成長山公一 | 『大阪春秋』第170号 特集「千早赤阪—おおさか唯一の村—」91頁～93頁 新風書房 | 2018年4月1日 |
| なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く25 柳画－一人間の機微を描く－ 聞き手 橋爪節也・古川武志／構成長山公一 | 『大阪春秋』第171号 特集「和泉市 ココロトリコ イズミ—和泉の歴史は面白い！」新風書房 | 2018年7月31日 |
| なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く26 なつかしの漫才師たち 聞き手 橋爪節也・古川武志／構成 長山公一 | 『大阪春秋』第172号 特集「没後40年 漫才の父・秋田實とその時代」新風書房 | 2018年11月 |
| なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く27 テレカつて何だろう？ 聞き手 橋爪節也・古川武志／構成 長山公一 | 『大阪春秋』第173号 特集「堺台場と幕末大阪湾警備」 新風書房、99～101頁 | 2019年2月28日 |
| 橋爪節也「おおさかKEYわーど」第89回 『いの字絵本 恋の都大阪の巻』 堂本印象の大坂 | 「いちょう並木」No.422、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と3頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018年4月10日 |
| 橋爪節也「おおさかKEYわーど」第90回 「オオサカから世界四大文明へ」 | 「いちょう並木」No.423、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と3頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018年5月10日 |

| タイトル等 | 報道機関名 | 報道年月 |
|---|--|------------------|
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 91 回 「堺筋は百貨店ストリート」 | 「いちょう並木」No.424、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 6 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 92 回 「住みやすき街、近代都市建設の精神」 | 「いちょう並木」No.425、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 7 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 93 回「再発見はステンドグラスと商業の神様の杖 大阪のおもかげⅢ」 | 「いちょう並木」No.426、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 8 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 94 回 「鳥のまなざしで下界を眺める パノラマ地図のたのしみ」 | 「いちょう並木」No.427、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 9 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 95 回 「フィランソロピーをご存知ですか それは大阪人の伝統」 | 「いちょう並木」No.428、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 10 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 96 回 「開館 100 周年記念に、中央公会堂八景を勝手につくってみた」 | 「いちょう並木」No.429、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 11 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 97 回 「メモリアルイヤーオンパレード「キンカ」近畿化学協会も 100 周年」 | 「いちょう並木」No.430、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2018 年 12 月 10 日 |
| 橋爪節也「おおさか KEY わーど」第 99 回 「もうひとつの“大大阪” なにわの情緒を書き残したい」 | 「いちょう並木」No.432、大阪市教育委員会発行、大阪市生涯学習センター編集、表紙と 3 頁 https://osakademanabu.com/about/magazine | 2019 年 3 月 10 日 |

学術講演会など

| 講演タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---|--------------|----------------|---|
| 記念講演会 橋爪 節也「中村貞夫の芸術」並びに「座談会」中村 貞夫、鶴田清一、橋爪 節也「探求の旅、描きとめる熱情—洋画家 中村貞夫」 | 豊中市立文化芸術センター | 2018 年 5 月 3 日 | 主催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館、豊中市、豊中市市民ホール指定管理者、毎日新聞社 共催：かんさい・大学ミュージアム連携、北大阪ミュージアム・ネットワーク 協力：畠田家住宅活用保存会、大阪大学 21 世紀懐徳堂 |

| 講演タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|------------------------------------|-------------|---|
| スペシャルトーク「歴代博物館長、画伯に迫る—“世界四大文明”に寄せて」出演：中村貞夫、永田靖、肥塚隆、江口太郎、橋爪節也 | 大阪大学会館アセンブリーホール | 2018年5月12日 | 主催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館、豊中市、豊中市市民ホール指定管理者、毎日新聞社 共催：かんさい・大学ミュージアム連携、北大阪ミュージアム・ネットワーク 協力：畠田家住宅活用保存会、大阪大学21世紀懐徳堂 |
| 講演・対談 MOU-ICHIDO 大阪文化② 橋爪節也「美術を愛する実業家の見た夢—山本發次郎と慈雲、白隱、佐伯祐三ー」 | CAFE Lab. / グランフロント 大阪北館 ナレッジキャピタル | 2018年5月30日 | |
| 橋爪節也 講演会「映画『大大阪観光』を読み解く～都市観光・モダニズム・政策プロモーション～」 | 大阪くらしの今昔館 | 2018年8月19日 | 大阪市中央公会堂開館100周年記念特別展「大大阪モダニズム - 片岡安の仕事と都市の文化 - 」 |
| 橋爪節也「花開く百貨店文化—大大阪時代のデパートと美術発信ー」 | 逸翁美術館 | 2018年11月24日 | 逸翁美術館 2018展示III 百貨店で花開く—阪急工美会と近代の美術家たち—関連企画 |
| 橋爪節也 記念講演会「大阪の「茶話会」と大正期の日本画壇 ー国画創作協会と連動したかー」 | 和歌山県立近代美術館 | 2018年12月8日 | 創立100周年記念「国画創作協会の全貌展」 |
| 橋爪節也「大阪の“知”的個性を求めてー木村蒹葭堂とそのネットワーー」 | 大阪市中央公会堂大集会室 | 2019年1月18日 | 近畿化学協会委創立100周年記念式典 市民公開記念講演会 |
| 橋爪節也「なにわの戯画をコレクションしてみると」 | BBプラザ美術館 | 2019年1月20日 | BBプラザ美術館「2018年度コレクション展II 明治から平成にみるコレクションのかたち」 |
| 橋爪節也「趣味人と大大阪」 | 大阪市住まい情報センター3階ホール、大阪くらしの今昔館 | 2019年3月10日 | 企画展「モダン都市大阪の記憶」関連企画 |

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|---|------------|----------------------|
| 大正イマジュリィ学会第43回研究会・公開シンポジウム「ヴィジュアルから切る"大大阪" アート、博覧会、マスメディア」 | 大阪くらしの今昔館 | 2018年7月29日 | |
| 橋爪節也「大大阪の時代と前衛絵画——前田藤四郎の場合」「シンポジウム〈具体〉再考 第3回 大阪と前衛美術」 | 大阪大学中之島センター | 2019年1月6日 | 主催・大阪大学総合学術博物館 |
| 橋爪節也「『20世紀少年』としての私—大阪と博覧会—」 北大阪ミュージアム・ネットワーク シンポジウム 大阪でEXPOを考える | 関西大学梅田キャンパス「KANDAI MeRISEホール」 | 2019年1月12日 | 主催・北大阪ミュージアム・ネットワーク」 |
| 佐伯祐三と近代の洋画記念シンポジウム「佐伯祐三作品の魅力」 橋爪節也、寺口淳治（広島市現代美術館副館長）、守谷賢一（新宿区立新宿歴史博物館学芸課長） | 田辺市立美術館 | 2019年1月13日 | |
| 雑誌『道頓堀』（道頓堀雑誌社）にみる大正時代の道頓堀 | 国際日本文化研究センター 「近代東アジアの風俗史」研究代表者 井上章一・斎藤光 | 2019年3月17日 | |

報道

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|--|---|-------------|----------------|
| 「芳醇なる悠久の時 特別展 洋画家中村貞夫」 | 毎日新聞 | 2018年4月26日 | |
| 「私の視点 委縮社会、欲しい独創 大阪大教授・橋爪節也さん」 | 毎日新聞大阪夕刊 | 2018年12月13日 | 大阪万博開催に関して |
| 「開催成果を「大阪中之島美術館」へつなぐ 「なにわの企業が集めた絵画の物語」展 | 「KANSAI*OSAKA 文化力」No.131 2019/WINTER・冬 公益財団法人 関西・ 大阪21世紀協会 | 2019年1月25日 | 総合監修した展覧会のレポート |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|--|-------|--------------|-------|
| 科学研究費補助金 基盤研究(B) 木村兼葭堂“知”的ネットワークの解析—絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成 | 橋爪節也 | 2017年～2019年度 | 継続 |

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

| 講演名・題目 | 場所 | 主催者名 | 年月日 |
|--|-----------------|--|------------------------|
| 総合監修「なにわの企業が集めた絵画の物語」展 —コーコーポレートアートコレクション | 堂島リバーフォーラム | 関西経済同友会 企業所有美術品 展実行委員会 | 2018年10月4日～18日 |
| 橋爪節也プロデュース『アートでひもとく中央公会堂の100年』大阪市中央公会堂開館100周年記念 | 大阪市中央公会堂 | 大阪市中央公会堂 | 2018年11月28日～2019年3月25日 |
| 企画 企画展「モダン都市大阪の記憶」 | 大阪くらしの今昔館 | 大阪くらしの今昔館 | 平成31年3月2日～4月7日 |
| 座談会「なぜ、パリ祭と“俄”？」藤田富美恵(童話作家)、古川武志(大阪市史料調査会) 橋爪節也司会 山崎達哉 「KARAHORIZM 空堀主義—なぜパリ祭と“俄(にわか)”？／蓄音機で町家ザンマイー」 | 大阪藝術劇場 | 「記憶の劇場」 | 2018年10月13日 |
| 大阪市中央公会堂特別室解説 | 大阪市中央公会堂 特別室 | アートエリア B1開館10周年 を機に行う新たなプロジェクト 「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」 | 2018年12月7日 |
| 座談会「サロン・ド・中之島2019 橋爪節也氏が語る大阪市中央公会堂にまつわるアートな話」 | 大阪市中央公会堂 特別室 | 大阪市中央公会堂 | 2019年3月6日 |
| 「ギャラリートーク」企画展「モダン都市大阪の記憶」関連企画 | 大阪くらしの今昔館 | 大阪くらしの今昔館 | 2019年3月21日 |

学内の各種委員等

| 委員会あるいはWG名 | 就任年月 | 退任年月 | 継続/新規 |
|---------------|----------|------|-------|
| 公開講座運営委員会 | 2008年4月 | | 継続 |
| アーカイブス運営委員会 | 2012年10月 | | 継続 |
| 適塾記念センターハウス会議 | | | 継続 |

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

| 委員会名 | 役職 | 期間 | 継続/新規 |
|-----------------|-----------------|------------|-------|
| 大正イマジュライ学会 | 常任委員 | | 継続 |
| 美術史学会 | 常任委員 | 2018年～ | 新規 |
| 一般財団法人懐徳堂 | 評議員 | | 継続 |
| 大阪市市民表彰審査会 | 臨時委員 | 各年に就任 | 継続 |
| 八尾市今東光記念館 | 展示アドバイザー | | 継続 |
| 大阪市中央公会堂 | 文化財保護アドバイザ ー | | 継続) |
| 田辺市立美術館協議会 | 協議会委員 | 2017年～ | 新規 |
| 吹田市立博物館協議会 | 協議会委員 | | |
| 財団法人・天門美術館評議委員会 | 評議員 | 2016年～ | 継続 |
| 堺市美術作品等資料収集会議 | 委員 | 2019年3月29日 | 新規 |

【受賞・顕彰】

| 受賞・顕彰 | 主催団体名 | 受賞年月 | 備考 |
|----------------------------|------------------|----------------|--|
| 2018年 関西元気文化圏賞 ニューパワ ー賞 | 関西元気文化圏推 進協議会 | 2019年1月22 日 | 総合監修した展覧会の主催 者である関西経済同友会企 業所有美術品展実行委員会 が団体として受賞 |

研究・教育部 一 資料情報研究系
助教 横田洋

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|----------------------------|--------------------------|
| 春～夏学期・全学教育推進機構・1年 | 基礎セミナー「博物館体験コース」 |
| 通年・文学部・2、3、4年 | 博物館学（学内実習） |
| 春～夏学期・文学部・文学研究科・ 2、3、4年 | 演劇学講義・演劇学特殊講義 芸術環境論講義 |
| 博士前期課程・博士前期課程 | |

学外での教育活動（集中講義等）

| 授業科目名 | 機関名 | 期間 |
|-------|-------|------------------|
| 映画の歴史 | 大手前大学 | 2018年10月～2019年3月 |

【研究活動】

研究（学会）発表など

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|---------------|------|------------|---------|
| 「乙女文楽人形肩板の調査」 | 大阪大学 | 2019年3月19日 | 乙女文楽研究会 |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|--|-------|---------------|-------|
| 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「芸能史的環境における映画とその影響に関する研究」 | 横田洋 | 平成27年度～平成30年度 | 継続 |
| 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「人形衣装調査を中心とした乙女文楽の総合的研究」 | 林公子 | 平成28年度～平成30年度 | 継続 |

資料部
特任講師（常勤） 伊藤 謙

【教育活動】

担当授業

| 学期・学部・学年 | 科目名 |
|--------------|------------------|
| 通年・文学部・3回生以上 | 博物館学(学内実習) |
| 1回生 | 基礎セミナー「博物館体験コース」 |

【研究活動】

学術論文

| 論文名 | 著者名 | 雑誌 | 号・巻・頁 | 発行年月 |
|---|-------|------|-------------|---------|
| 大阪府八尾市顕証寺所蔵の寺宝『大蛇骨』（シャチ頭骨）の調査（Research on temple's treasure “Daijakostu” preserves in Kensho-ji, Yao City, Osaka Prefecture, Japan） | 伊藤謙ほか | 地学研究 | 第65号 第2号 | 2019年2月 |

著書

| 著書名 | 著者名 | 出版社 | 頁数 | 発行年月 |
|------------------------|-------|---------|----|---------|
| 鉱物～石への探求がもたらす文明と文化の発展～ | 伊藤謙ほか | 大阪大学出版会 | 96 | 2019年3月 |

報道

| タイトル | 場所 | 年月日 | 備考 |
|-------------------------------|------|------------|----|
| 蓮如上人ゆかりの伝承頭骨はシャチだった 大阪・八尾の顕証寺 | 産経新聞 | 2018年6月23日 | |

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

| 補助金の種類および研究題目 | 研究代表者 | 期間 | 継続/新規 |
|--|-------|-----------|-------|
| 錦からみる学際融合研究 - 織物のマルチ・ディメンショナル・研究の確立 - | 代表 | 2017-2020 | 新規 |
| 木村蒹葭堂“知”のネットワークの解析－絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成－ | 分担 | 2017-2020 | 新規 |
| カンキツの分類と種の起源・伝播の解明－田中標本の解析と人文・社会学的調査－ | 分担 | 2016-2019 | 継続 |
| 石薬（鉱物・化石由来生薬）の本草博物学的考察に基づくマテリアルサイエンスの構築 | 代表 | 2016-2019 | 継続 |

13. 資料

掲載項目

- ・2018年度の主な活動一覧
- ・入館者数及びアンケート集計結果一覧
- ・団体見学一覧
- ・関連記事一覧
- ・寄贈図書一覧
- ・館内配置図

2018年度の主な活動一覧

| 期間 | 主な活動 |
|-------------|---|
| 2018年 | |
| 4月21日 | 「第19回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」【1回目】が開催された。(主催：大阪大学21世紀懐徳堂 協力：大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館) |
| 4月27日～7月21日 | 大阪大学総合学術博物館 第11回特別展「四大文明の源流を求めて 探求の旅、描きとめる熱情— 洋画家 中村貞夫」を開催した。(主催：大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館、豊中市、豊中市民ホール指定管理者、毎日新聞社 共催：かんさい・大学ミュージアム連携、北大阪ミュージアム・ネットワーク 協力：畠田家住宅活用保存会、大阪大学21世紀懐徳堂 第一会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館、第二会場：豊中市立文化芸術センター 展示室) |
| 5月3日 | 特別展関連イベント 記念講演会を開催した。(講演「文明と哲学」講師：京都市立芸術大学学長、元大阪大学総長 鶩田清一氏、講演「中村貞夫の芸術」講師：大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也、座談会：中村貞夫氏、鶩田清一氏、橋爪節也 会場：豊中市立文化芸術センター) |
| 5月12日 | 特別展関連イベント スペシャルトーク「歴代博物館長、画伯に迫る—“世界四大文明”に寄せて」を開催した。(出演：中村貞夫氏、大阪大学名誉教授 肥塚隆氏、大阪大学名誉教授江口太郎氏、大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館長 永田靖、大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学会館アセンブリーホール) |
| 5月12日 | 「第19回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」【2回目】が開催された。(主催：大阪大学21世紀懐徳堂 協力：大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館) |
| 5月20日 | 特別展関連イベント ワークショップ「ミニ講義と絵画制作『民族音楽を聴きながら（四大文明をイメージして）』」を開催した。(講師：中村貞夫氏 シタール演奏：大阪音楽大学講師 田中峰彦氏 会場：豊中市立文化芸術センター) |
| 5月20日 | 特別展関連イベント ミュージアムコンサートを開催した。(シタール演奏：大阪音楽大学講師 田中峰彦氏 会場：豊中市立文化芸術センター) |
| 6月2日 | 特別展関連イベント ミュージアムレクチャー「四大文明への道」を開催した。(講師：中村貞夫氏、会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 6月16日 | 特別展関連イベント ミュージアムレクチャー「中村貞夫とその周辺」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也氏、会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 7月7日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：演出家 伊藤拓也氏、散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、伊藤麻希氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：神戸大学) |
| 7月8日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：演出家 伊藤拓也氏、散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、伊藤麻希氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 会場：神戸大学) |
| 7月28日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動①「記憶の劇場Ⅲ オープニング講座」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学文学研究科 連携機関：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪新美術館建設準備室、公益財団法人吹田市文化振興事業団(メイシアター)、豊中市都市活力部文化芸術課、能勢淨るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)、公益財団法人益富地学会館 助成：平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：美術家 前田剛志氏 会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館) |
| 7月29日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」を開催した。(講師：株式会社カンカラ社 清水翼氏、Arts&Theatre → Literacy 亀田恵子氏 担当：大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子 会場：大阪大学中之島センター) |

| 期間 | 主な活動 |
|-------|---|
| 8月4日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」を開催した。(講師：ケイスリー株式会社・最高執行責任者 落合千華氏、株式会社カンカラ社 清水翼氏 担当：大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子 会場：大阪大学中之島センター) |
| 8月5日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」を開催した。(講師：大阪大学知的基盤総合センター・客員教授 甲野正道氏、知的基盤総合センター特任研究員 中山良平氏、立川晋輔氏 担当：大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子 会場：大阪大学中之島センター) |
| 8月5日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 橋爪節也 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学中之島センター) |
| 8月5日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師：アート・コーディネーター／AO Architects and Arts／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当：大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場：大阪大学豊中キャンパス) |
| 8月5日 | 適塾ダヴィンチプロジェクト・シンポジウム「アートの『これから』を語る」が開催された。 (主催：2018 適塾ダヴィンチプロジェクト・シンポジウム実行委員会 共催：大阪大学知の共創プログラム「適塾ダヴィンチプロジェクト」 協力：イセ文化財団、大阪市立東洋陶磁美術館、静嘉堂文庫美術館、聚美社、日本伝統織物研究所、大阪大学適塾記念センター、大阪大学21世紀懐徳堂、大阪大学社学共創本部総合学術博物館 会場：大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール) |
| 8月11日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。 (講師：アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当：大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場：大阪大学豊中キャンパス) |
| 8月11日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター) |
| 8月20日 | 2018年体験！こどもミュージアム@大阪大学「液晶を楽しもう！」を開催した。 (主催：大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大院理学研究科化学専攻教授 久保孝史氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 8月21日 | 2018年体験！こどもミュージアム@大阪大学「ブロックでレスキュー！ボットを作って動かそう！」を開催した。 (主催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学レゴ部（大阪大学公認学生団体）新井亮氏（基礎工学部3年）他 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 8月22日 | 2018年体験！こどもミュージアム@大阪大学「ジャワガムランであそぼう～うたおどりと音と～」を開催した。 (主催：大阪大学社学共創本部／総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学COデザインセンター准教授 ほんまなほ氏 ジャワ・ガムラングループ ダルマ・ブダヤ 会場：大阪大学大学会館 21世紀懐徳堂スタジオ) |
| 9月1日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：14OB 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学中之島センター) |
| 9月1日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター) |

| 期間 | 主な活動 |
|-------------|---|
| 9月8日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター) |
| 9月1日～9月10日 | 大阪大学美術部 2018年度夏部展「窓を見る～記憶・展望・実存～」を開催した。(主催：大阪大学美術部 共催：大阪大学社学共創本部 / 総合学術博物館 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 9月11日～9月16日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」を開催した。(講師：立川晋輔氏、元維新派・役者 平野舞氏、元維新派・役者 石本由美氏、元維新派・役者 石原菜々子氏、元維新派・役者 金子仁司氏、元維新派・役者 吉本博子氏、元維新派 松永理央氏、元維新派 佐藤武紀氏、Arts&Theatre → Literacy 龜田恵子氏、菱川裕子氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子 担当：大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子 会場：アートエリアB1) |
| 9月16日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～身のまわりの鉱物～」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 吉田瑞希氏 担当：大阪大学総合学術博物館特任講師 伊藤謙 会場：京都造形芸術大学) |
| 9月17日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師：作曲家・編曲家、ピアニスト 渋谷毅氏、音楽プロデューサー 川村年勝氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパス) |
| 9月18日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師：アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当：大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川) |
| 9月22日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動①「記憶の劇場Ⅲ」セミナー「関西のアートシーンと将来・博物館オリエンテーション」を開催した。(講師：益富地学会館 石橋隆氏、ピッコロシアター 尾西教彰氏、アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青島絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当：大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科 永田靖、大阪大学文学研究科 伊東信宏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、大阪大学文学研究科 古後奈緒子、大阪大学文学研究科 渡辺浩司、大阪大学総合学術博物館 横田洋、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 会場：大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ) |
| 9月29日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～身のまわりの鉱物～」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 吉田瑞希氏 担当：大阪大学総合学術博物館特任講師 伊藤謙 会場：京都造形芸術大学) |
| 10月6日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：大阪大学豊中キャンパス) |
| 10月6日 | 「第20回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」【1回目】が開催された。(主催：大阪大学21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館) |
| 10月7日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム」活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：大阪大学豊中キャンパス) |

| 期間 | 主な活動 |
|---------------|---|
| 10月7日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師: 映画監督 遠藤協氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 神戸映画資料館) |
| 10月8日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師: 映画監督 遠藤協氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 神戸映画資料館) |
| 10月13日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師: 14OB 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場: 大大阪藝術劇場) |
| 10月14日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師: 散歩家 古川友紀氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: JR 六甲道駅) |
| 10月20日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師: 能勢人形淨瑠璃鹿角座、能勢町郷土芸能保存会、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 能勢淨るりシアター) |
| 10月22日～12月21日 | 大阪大学総合学術博物館 第12回特別展「The Mineral World 人と鉱物のつむぐ物語」を開催した。(主催: 大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館 後援: 産経新聞社 協力: 石見銀山資料館、公益財団法人益富地学会館、有限会社翠宝堂、国立極地研究所、宇宙航空研究開発機構、京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室、大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター、京都造形芸術大学、平賀源内記念館、株式会社海洋堂、大阪大学21世紀懐徳堂 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 10月27日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師: 14OB 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場: 株式会社 14OB、船上見学(中之島～道頓堀)) |
| 10月28日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師: 散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: JR 六甲道駅) |
| 11月1日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師: アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当: 大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場: 神戸アートビレッジセンター) |
| 11月1日～11月22日 | 2018年度実習展「阪大生がつくった展覧会 2018ベスト「水と大阪—織田一磨が描いた大正ー」を開催した。(主催: 大阪大学共創機構社学共創本部／総合学術博物館 会場: 大阪大学会館 歴史展示室) |
| 11月3日 | 大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「“石”と人との物語—鉱物の活用と人類の発展—」を開催した。(講師: 公益財団法人益富地学会館 研究員 大阪大学総合学術博物館 研究員 石橋隆氏 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 11月4日 | 大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「石を見つけよう!!—鉱物ハンティングの楽しみー」を開催した。(講師: 鉱物ハンター／産経新聞大阪本社編集企画室企画担当部長 藤浦淳氏 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |

| 期間 | 主な活動 |
|------------------|---|
| 11月8日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」を開催した。(講師:元維新派・役者 平野舞氏、元維新派・役者 石原菜々子氏、元維新派 松永理央氏、元維新派 佐藤武紀氏、大阪大学文学研究科 古後奈緒子 担当:大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子 会場:アートエリアB 1) |
| 11月15日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師:声楽家 さかいれいしう氏、アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当:大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場:豊中市立文化芸術センター) |
| 11月17日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師:散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:六甲道駅北地区集会所 風の家) |
| 11月17日 | 大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「鉱物コレクションと展示—日本、欧米、中国の博物館を例として—」を開催した。(講師:元産業技術総合研究所 地質標本館館長／地球科学者／理学博士 豊 遙秋氏 会場:大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 11月24日 | 大阪大学総合学術博物館・新興出版社啓林館コラボレーション企画「2018～繋げる・拡げる～わくわく学習教室 with Osaka University」を開催した。(主催:株式会社新興出版社啓林館 大阪大学総合学術博物館 コース①「スーパーボールロケット」コース②「DNAを観察しよう」講師:箕面自由学園中学校・教育顧問 十河 秀敏氏 コース③「冷やしてわかる?ものの正体」講師:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 宮久保 圭祐 会場:大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 11月24日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師:映像作家、IAMS 前田真二郎氏、アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当:大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場:豊中市立文化芸術センター) |
| 11月25日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師:14OB 中島淳氏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場:アルハイム 千里中央店) |
| 11月25日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑥「TELESOPHIAと芸術・文化・生活」を開催した。(講師:阿波木偶箱まわし保存会、能勢人形浄瑠璃鹿角座、能勢町郷土芸能保存会、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:能勢淨るりシアター) |
| 11月29日 ～12月9日 | 展覧会「朝日会館と京阪神モダニズム—戦前・戦中・戦後—」が開催された。(主催:朝日会館・会館芸術研究会 共催:大阪大学文学研究科、大阪大学総合学術博物館 会場:大阪大学会館 歴史展示室・セミナー室) |
| 12月1日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師:劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当:大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場:ピッコロシアター) |
| 12月1日 ～12月8日 | 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展サテライト展示」を開催した。(主催:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館、豊中市教育センター 共催:豊中市教育委員会 協力:大阪大学21世紀懐徳堂 後援:豊中市 会場:大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 12月2日 | シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム—戦前・戦中・戦後—」が開催された。 主催:朝日会館・会館芸術研究会 共催:大阪大学文学研究科、大阪大学総合学術博物館 協力:東京大学駒場博物館、大阪大学文学研究科演劇学研究室、神戸映画資料館、国立映画アーカイブ 会場:大阪大学会館アセンブリーホール) |

| 期間 | 主な活動 |
|--------|--|
| 12月5日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・エキジビションを開催した。(講師:美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:大阪大学中之島センター) |
| 12月8日 | 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展 受賞者による発表会」を開催した。(主催:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館、豊中市教育センター 共催: 豊中市教育委員会 協力: 大阪大学 21世紀懐徳堂 後援: 豊中市 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 12月15日 | 大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「美術に見る石—素材以上に魅力を放つ存在感と力—」を開催した。(講師:大津市歴史博物館学芸員 横谷 賢一郎氏 会場:大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館) |
| 12月15日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・エキジビションを開催した。(講師:美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:大阪大学中之島センター) |
| 12月22日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動④「モノローグ・オペラ『新しい時代』上映会の制作」を開催した。(講師:作曲家、IAMAS 三輪眞弘氏、アート・コーディネーター／AO Architects and Arts 青嶋絢氏、大阪大学文学研究科 伊東信宏 担当:大阪大学文学研究科教授 伊東信宏 会場:豊中市立文化芸術センター) |
| 12月23日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師:鳥取大学 稲津秀樹、散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:湊川公園) |
| 2019年 | |
| 1月4日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師:大阪大学総合学術博物館 橋爪節也 担当:大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場:空堀地域) |
| 1月6日 | シンポジウム<具体>再考「第3回 大阪と前衛美術」を開催した。(主催:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 シンポジスト:同志社大学社会学部教授 竹内幸絵氏、美術家、成安造形大学名誉教授 今井祝雄氏、大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 大阪大学総合学術博物館招へい准教授 加藤瑞穂 会場:大阪大学中之島センター) |
| 1月12日 | サイエンスカフェ@待兼山 No.148 「左右非対称の生物学」を開催した。(主催:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催: 豊中市立中央公民館 協力: 大阪大学 21世紀懐徳堂 講師: 大阪大学大学院理学研究科 松野健治氏 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室) |
| 1月12日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師:劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当:大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場:大阪大学中之島センター) |
| 1月12日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師:鳥取大学 稲津秀樹、散歩家 古川友紀氏、追手門学院大学 富田大介氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:湊川公園) |
| 1月13日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・エキジビションを開催した。(講師:美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当:大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場:前田剛志ギャラリー・アトリエ) |

| 期間 | 主な活動 |
|-------------|--|
| 1月15日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、大阪大学総合学術博物館橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：株式会社 140B) |
| 1月15日～1月27日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～身のまわりの鉱物～」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 吉田瑞希氏 担当：大阪大学総合学術博物館特任講師 伊藤謙 会場：京都造形芸術大学) |
| 1月19日 | サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-7 「素粒子ミュオンで考古学資料を透視する」を開催した。(主催：大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学理学研究科 二宮和彦氏 会場：豊中市立中央公民館) |
| 1月20日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動①「記憶の劇場Ⅲ クロージング・エキジビション」を開催した。(講師：美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：前田剛志ギャラリー・アトリエ) |
| 1月31日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：メイシアター) |
| 2月1日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：メイシアター) |
| 2月2日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：メイシアター) |
| 2月2日 | サイエンスカフェ@待兼山 No.149 「樹から下りたサル、地上を歩く」を開催した。(主催：大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院人間科学研究科 中野良彦氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室) |
| 2月3日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.3 「関西新劇史を上演する」」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館・文学研究科 永田靖、大阪大学総合学術博物館 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・文学研究科教授 永田靖、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋 会場：メイシアター) |
| 2月3日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、大阪大学総合学術博物館橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学中之島センター) |
| 2月8日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動⑥「TELESOPHIA と芸術・文化・生活」を開催した。(講師：小澤昔ばなし研究所、口承文芸学者 小澤俊夫氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター) |

| 期間 | 主な活動 |
|------------|--|
| 2月9日 | サイエンスカフェ @ 豊中市立中央公民館 No.C-8 「吸着～私たちの生活を支える古くて新しい科学技術～」を開催した。(主催:大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催: 豊中市立中央公民館 協力: 大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師: 大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 上田貴洋 会場: 豊中市立中央公民館) |
| 2月26日～3月9日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・エキジビション「展覧会—記憶の劇場Ⅲ「前田剛志展—明日の記憶」」を開催した。(講師: 美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科 永田靖、大阪大学文学研究科 伊東信宏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、大阪大学文学研究科 古後奈緒子、大阪大学文学研究科 渡辺浩司、大阪大学総合学術博物館 横田洋、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 大阪大学総合学術博物館待兼山修学館) |
| 2月26日～3月9日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・シンポジウムを開催した。(講師: 美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科 永田靖、大阪大学文学研究科 伊東信宏、大阪大学総合学術博物館 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館 伊藤謙、大阪大学文学研究科 古後奈緒子、大阪大学文学研究科 渡辺浩司、大阪大学総合学術博物館 横田洋、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館長・大阪大学文学研究科教授 永田靖、大阪大学文学研究科教授 伊東信宏、大阪大学総合学術博物館教授 橋爪節也、大阪大学総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師 伊藤謙、大阪大学文学研究科准教授 古後奈緒子、大阪大学文学研究科准教授 渡辺浩司、大阪大学総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 大阪大学総合学術博物館待兼山修学館) |
| 3月2日 | 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅲ」—大学博物館における文化芸術ファシリテーター育成プログラム 活動①「記憶の劇場Ⅲ」クロージング・エキジビション「展覧会—記憶の劇場Ⅲ「前田剛志展—明日の記憶」」を開催した。(講師: 美術家 前田剛志氏、大阪大学総合学術博物館 山崎達哉 担当: 大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場: 大阪大学総合学術博物館待兼山修学館) |
| 3月2日 | サイエンスカフェ @ 待兼山 No.150 「グローバルな人の移動の経済学」を開催した。(主催: 大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催: 豊中市立中央公民館 協力: 大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師: 大阪大学共創機構社学共創本部 佐伯康考氏 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室) |
| 3月9日 | サイエンスカフェ @ 豊中市立中央公民館 No.C-9 「働くことの研究—意欲・能力・幸福—」を開催した。(主催: 大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催: 豊中市立中央公民館 協力: 大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師: 大阪大学全学教育推進機構 柿澤寿信氏 会場: 豊中市立中央公民館) |
| 3月16日 | サイエンスカフェ @ 待兼山 No.151 「対話型調停の核心」を開催した。(主催: 大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館 共催: 豊中市立中央公民館 協力: 大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師: 大阪大学法学院研究科 仁木恒夫氏 会場: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階セミナー室) |

入館者数及びアンケート集計結果一覧

- ・2018年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

第11回特別展

会期：4月27日(金)～7月21日(土)

入館者数：5,010人

第12回特別展

会期：10月22日(月)～12月21日(金)

入館者数：4,450人

休館日：日曜・祝日

ただし、下記の日は開館

4月29日(日)、30日(祝)、11月3日(祝)・4日(日)

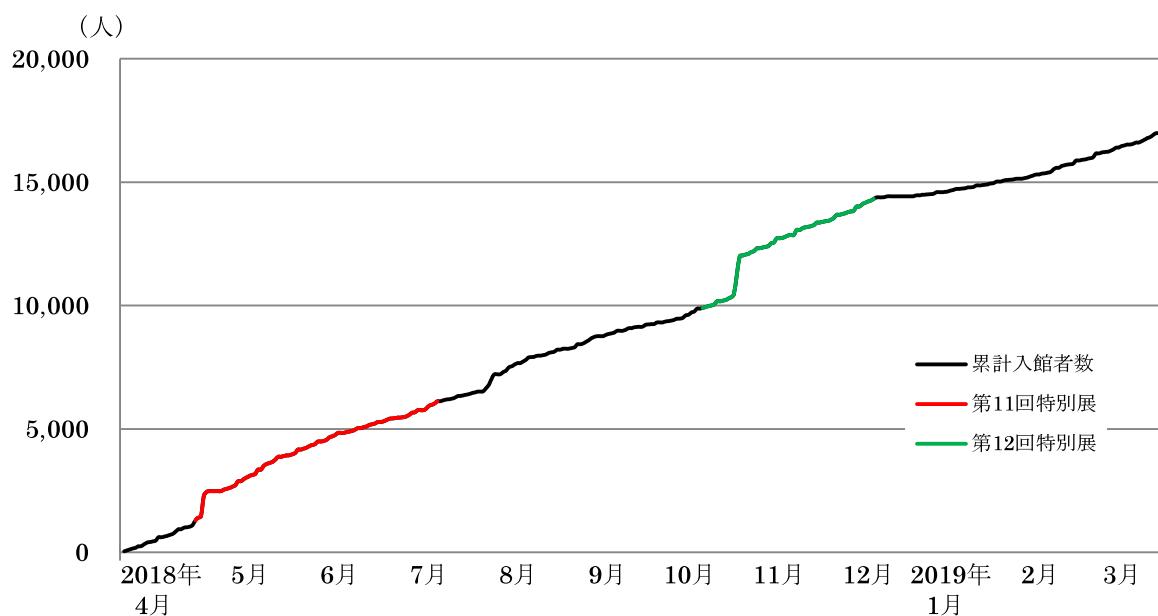
年末年始休業およびメンテナンス休館：

12月27日(木)・28日(金)

～2019年1月4日(金)

(単位：人)

| | 入館者数 |
|---------|--------|
| 2018年4月 | 2,293 |
| 5月 | 1,678 |
| 6月 | 1,306 |
| 7月 | 1,110 |
| 8月 | 1,741 |
| 9月 | 1,008 |
| 10月 | 1,148 |
| 11月 | 2,980 |
| 12月 | 1,164 |
| 2019年1月 | 519 |
| 2月 | 777 |
| 3月 | 1,261 |
| 合計 | 16,985 |



※以下の内容のアンケート（任意記入）を実施した。

大阪大学総合学術博物館－待兼山修学館 アンケート

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。今後の参考のため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。以下の項目の該当する欄にチェック をつけてください。

- 来館日 _____年 _____月 _____日 ()
- 年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代
 50代 60代 70代以上
- 住所 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県
 その他 ()
- 学年 小学生未満 小学生 中学生 高校生 大学生・大学院生（阪大）
 大学生・大学院生（阪大以外） 専門学校生 一般 ()
- 大阪大学総合学術博物館－待兼山修学館についてお尋ねします。

Q 1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

- 通りがかり パンフレット ホームページ ガイドブック等
 友人・知人より その他 ()

Q 2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

- 1階 玄関ホールのマチカネワニ 世界にはばたく研究者
 コンピュータの黎明期
- 2階 大阪大学の系譜 みる科学
- 3階 待兼山に学ぶ
- R階 自然教室
 その他 ()

Q 3 来館は何回目ですか？

- はじめて 2回目 3回目 4回目以上

Q 4 その他ご意見・ご感想などをお書き下さい。

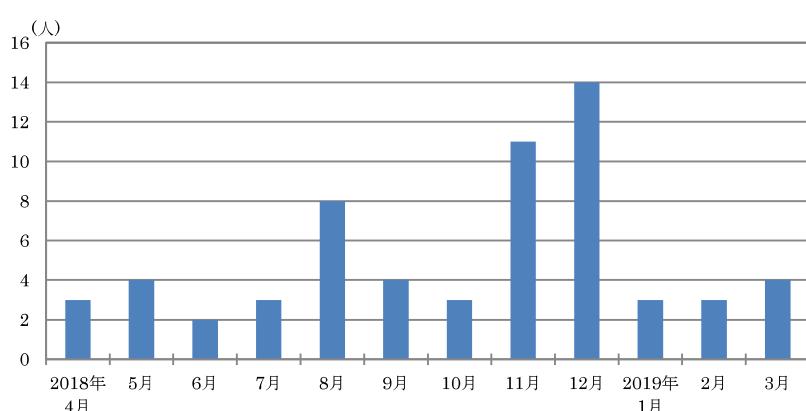
アンケートにお答え頂きありがとうございました。

貴重なご意見・ご感想などを今後の総合学術博物館発展のため、参考とさせて頂きます。

大阪大学総合学術博物館

・アンケート集計結果

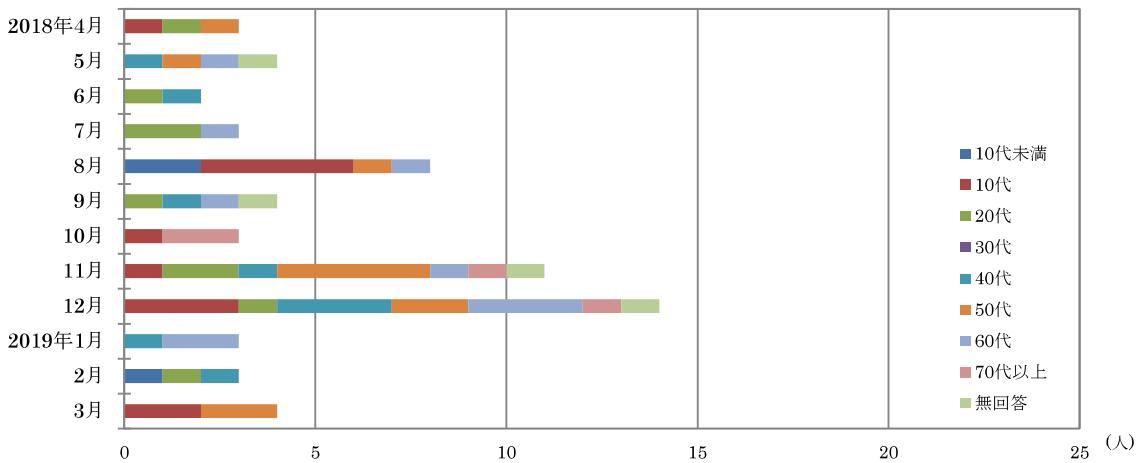
◆ アンケート回答総数



| (単位：人) | |
|---------|----|
| 2018年4月 | 3 |
| 5月 | 4 |
| 6月 | 2 |
| 7月 | 3 |
| 8月 | 8 |
| 9月 | 4 |
| 10月 | 3 |
| 11月 | 11 |
| 12月 | 14 |
| 2019年1月 | 3 |
| 2月 | 3 |
| 3月 | 4 |
| 合計 | 62 |

■ 年齢分布

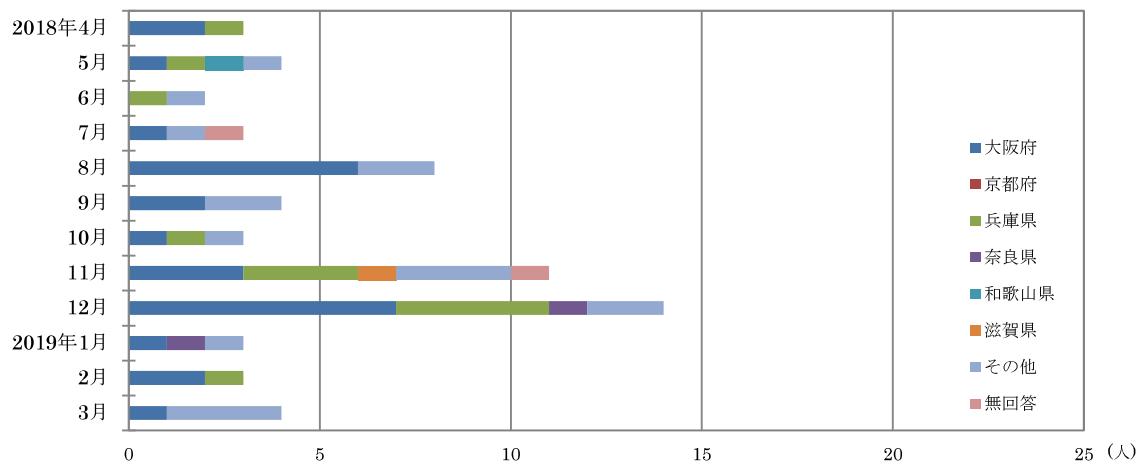
| | 10代未満 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 | 無回答 |
|---------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
| 2018年4月 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 6月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 8月 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 9月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 11月 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 |
| 12月 | 0 | 3 | 1 | 0 | 3 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 2019年1月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 2月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 3 | 12 | 9 | 0 | 9 | 11 | 10 | 4 | 4 |



■ 住所分布

(単位：人)

| | 大阪府 | 京都府 | 兵庫県 | 奈良県 | 和歌山県 | 滋賀県 | その他 | 無回答 |
|---------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 2018年4月 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 6月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 7月 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 8月 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 9月 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 10月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 11月 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 |
| 12月 | 7 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 2019年1月 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 2月 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 合計 | 27 | 0 | 12 | 2 | 1 | 1 | 17 | 2 |



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2018年5月

- ・岡山県

6月

- ・茨城県

7月

- ・東京都

8月

- ・神奈川県
- ・ハーバード

9月

- ・岐阜県
- ・佐賀県

10月

- ・神奈川県

11月

- ・富山県
- ・長野県
- ・三重県

12月

- ・福岡県
- ・埼玉県

2019年1月

- ・愛知県

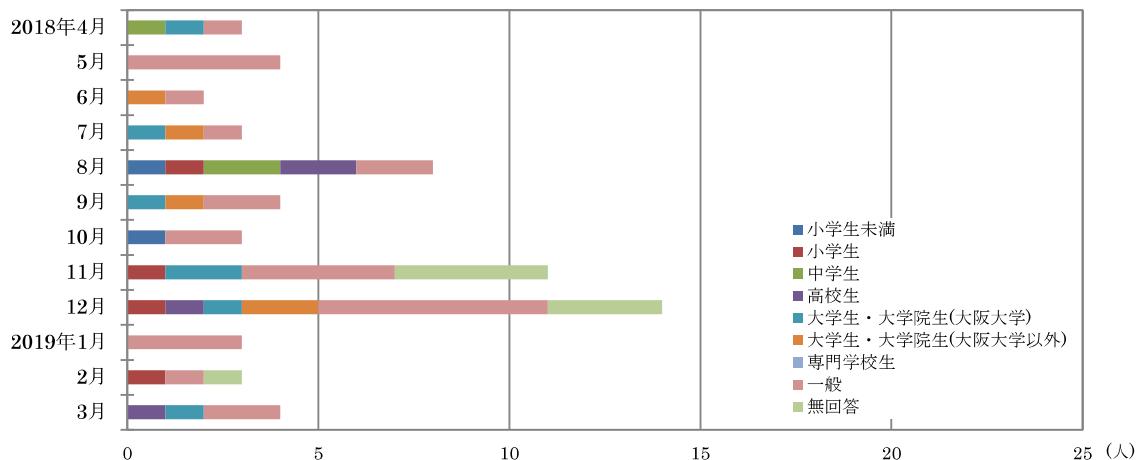
3月

- ・千葉県
- ・静岡県
- ・三重県

■ 入館者学年分布

(単位：人)

| | 小学生未満 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 大学生 大学院生 (大阪大学) | 大学生 大学院生 (大阪大学以外) | 専門 学校生 | 一般 | 無回答 |
|---------|-------|-----|-----|-----|-----------------------|-------------------------|-----------|----|-----|
| 2018年4月 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 5月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 |
| 6月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 7月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 8月 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 9月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| 10月 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 11月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| 12月 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 6 | 3 |
| 2019年1月 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 2月 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 3月 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 0 | 2 | 0 |
| 合計 | 2 | 4 | 3 | 4 | 7 | 5 | 0 | 29 | 8 |



● 一般 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2018年5月

・会社員

9月

・大学非常勤講師

10月

・阪大卒業生

11月

・会社員

12月

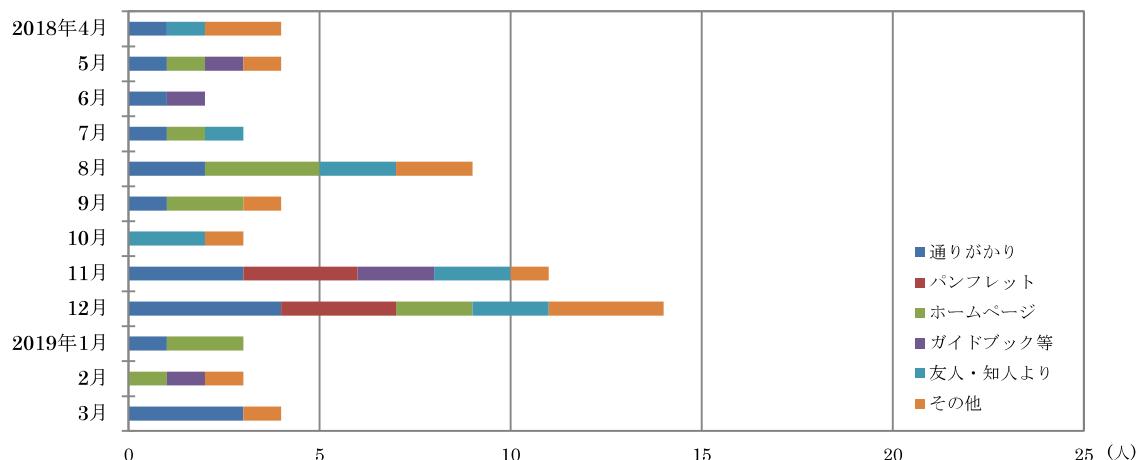
・阪大 OB 1978 卒業 人間科学科

■ 大阪大学総合学術博物館 — 待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

(単位：人)

| | 通りがかり | パンフレット | ホームページ | ガイドブック等 | 友人・知人より | その他 |
|---------|-------|--------|--------|---------|---------|-----|
| 2018年4月 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 5月 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 6月 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 7月 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 8月 | 2 | 0 | 3 | 0 | 2 | 2 |
| 9月 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 10月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 11月 | 3 | 3 | 0 | 2 | 2 | 1 |
| 12月 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 | 3 |
| 2019年1月 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 3月 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 18 | 3 | 12 | 6 | 10 | 13 |



2018年4月

- ・阪急高塚沿線観光あるき能勢海道コース
- ・家族
- 5月
- ・マチカネワニについて調べているうちに…

8月

- ・My home

9月

- ・昔から

10月

- ・来てみたかった

11月

- ・貴大より送付にて

12月

- ・以前より
- ・新聞の展覧会ガイド
- ・ぶらぶらしてたら見つけた

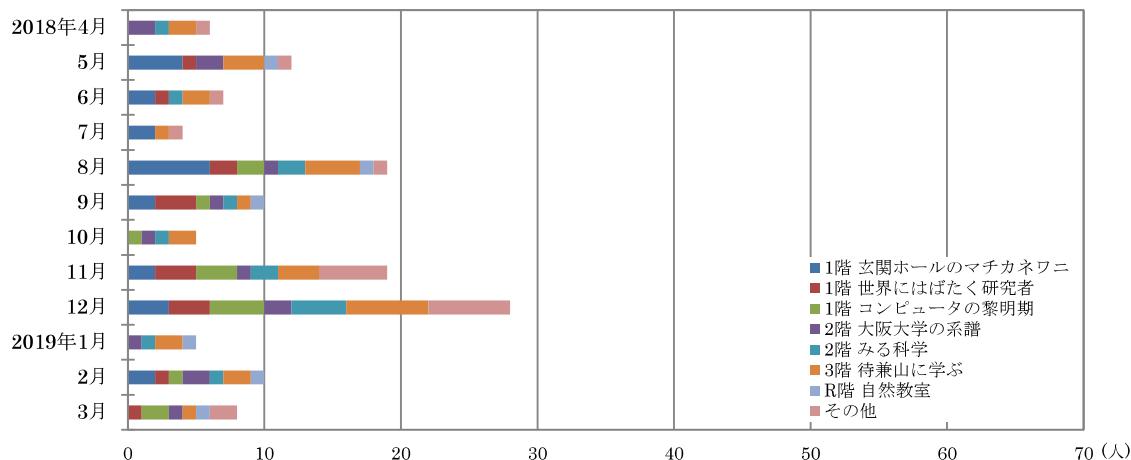
2019年2月

- ・阪大の入口のカンパン
- 3月
- ・子供がつれてってくれた

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

(単位：人)

| | 1階 | | | 2階 | | 3階 | R階 | その他 |
|---------|--------------|------------|------------|---------|------|--------|------|-----|
| | 玄関ホールのマチカネワニ | 世界にはばたく研究者 | コンピュータの黎明期 | 大阪大学の系譜 | みる科学 | 待兼山に学ぶ | 自然教室 | |
| 2018年4月 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| 5月 | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 | 1 | 1 |
| 6月 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| 7月 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 8月 | 6 | 2 | 2 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 |
| 9月 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 10月 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 11月 | 2 | 3 | 3 | 1 | 2 | 3 | 0 | 5 |
| 12月 | 3 | 3 | 4 | 2 | 4 | 6 | 0 | 6 |
| 2019年1月 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| 2月 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| 3月 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 23 | 15 | 14 | 14 | 14 | 29 | 6 | 18 |



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2018年4月
・エントランス

5・6月
・中村貞夫展

7月
・マチカネワニ
・古墳の体積

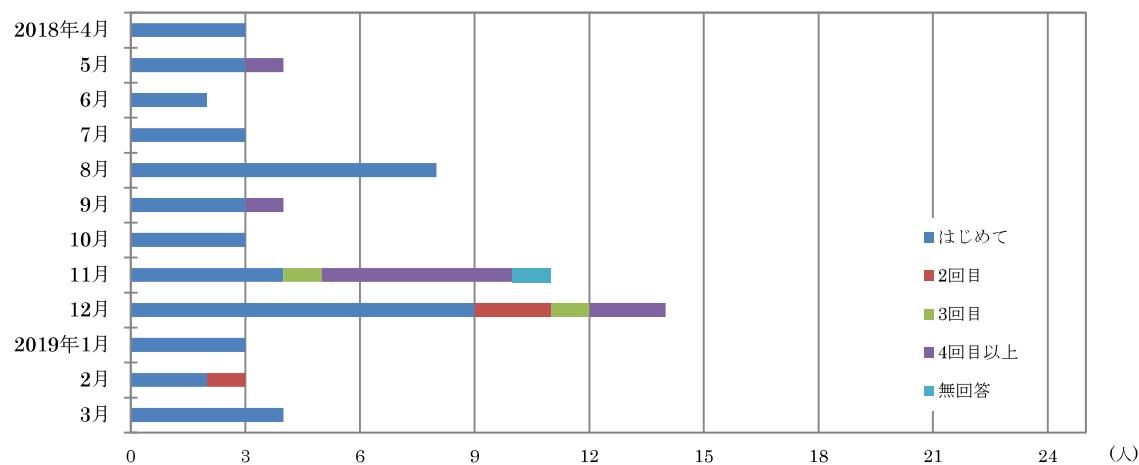
11・12月
・人と鉱物展

3月
・屋上
・テラス

Q3 来館は何回目ですか？

(単位：人)

| | はじめて | 2回目 | 3回目 | 4回目以上 | 無回答 |
|---------|------|-----|-----|-------|-----|
| 2018年4月 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 6月 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9月 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 10月 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11月 | 4 | 0 | 1 | 5 | 1 |
| 12月 | 9 | 2 | 1 | 2 | 0 |
| 2019年1月 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 47 | 3 | 2 | 9 | 1 |



Q4 その他ご意見・ご感想などを書きください。

◎ アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

● 2018年4月

- ・もう少し、数を増やしてほしい！
- ・友人といっしょに歩くコースを下見したくて来ました。
里山にとても関心があり、以前は吹田に住んでいました。
丹波の方までひろくとりあげてくださっていたのでとても面白かったです。
本物の化石もみれてうれしかったです また来たいと思います。
- ・案外楽しかったです。来て良かったです。

● 5月

- ・一度見に行きたいと思っていました。
他でレプリカは見たことがあります。
- ・阪大のこれまでの歩みを初めて知った。
地域・世界とつながり、伸びるという精神がすばらしいですね。
また 寄せていただきます。
- ・中村先生の絵が、素晴らしかったです。
先生の作品のポストカードが買えたらもっとよかったです。
- ・3Fの展示説明が聞けて大変よかったです。

● 6月

- ・非常に立派で素晴らしい展示でした。
風あたりが強くて大変だと思いますが頑張ってください。

● 7月

- ・大変よくわかる展示です。マチカネワニ、古墳の事 半夏の事など。
- ・わにの化石が、思ったよりも大きかったです。

● 8月

- ・みる科学写真のタンパク質結晶
タンパク質で知っていたのはチトクロムだけ
GPF、アボトーシス、一般の人にわかるの？
よりていねいかつわかり易い表示を
- ・無料なのが良い。何回も来たい。
・私はハーバード大学に通う6歳のマイケルと申します。
この博物館は非常に洗練されており、将来が有望である私からしても良い博物館だと思います。
- ・もっと化石を見たい。

● 9月

- ・鹿大博物館と共同研究して欲しい
- ・実物のタイガー計算器が見られてよかったです。
- ・小生は、名古屋大学医療短大部の元教官でした。
この建物が阪大医短大ということにも何かの縁を感じました。
湯川秀樹博士の阪大時代を知ることも見学訪問の目的であります。参考になりました。
- ・大学の博物館とは思えないくらい充実していてよかったです

● 10月

- ・けんぴきょうのピントを合わせるのが楽しかった。カの頭を近くで見る機会がなかったからみれてよかったです。
- ・とてもおもしろかったです。3Fの展示の仕方はとてもよいと思います。

● 11月

- ・小川琢治が京大に来て、瀬戸内海で大きなホネができると京大文科へもちこまれ理学へもってこられたとか、パリ万博に双水晶をもっていって経費にかえたとか、鉱物や化石について出てきたことを思い出しました。学史の展示も、江戸の学問とつながりがあるとか、京、大阪の歴史的土産と関係があるという方面でおもしろくなげないでしょうか
- ・いつも案内、送って頂きありがとうございます
- ・次のとくべつ会に期待しています。宇宙のことをやってほしい。
- ・毎回 素敵な特別展示をありがとうございます。今回もとても面白かったです
- ・結晶展のときとちがう切り口でおもしろかったです 兼葭堂のところ(本)に谷川士清の名があり、石亭と仲良しの石好きで子持勾玉を研究していたの思い出しました。宣長には勾玉考がありますし、歴や望遠鏡などいろいろ思い出して、1Fの展示を見ました。
- ・大阪大学が考える仏教(親鸞上人)を学科がないのでイベントを通して教えてもらいたいです。例えば「数行信証」などの書物の内容の説明など 大学が考えている仏教を教えてもらいたいです。よろしくお願ひします。
- ・「The Mineral World」大変面白かったです。展示リスト etc がなかったのが残念。
- ・メチャメチャ綺麗、目あきない。面白い。

- 12月
 - ・変体仮名でかいてある所がよめてよかったです。
 - ・zone3「大阪大学鉱物標本のルーツ」の左手前の「燐灰石」の展示ですが、裏側にきれいな結晶が折出しており、前後を逆にした方が良いと思います。
 - ・勉強になりました。
 - ・①・テーマがユニークで楽しかった。あんなに細かなカケラをよく識別できますね。
 - ②・前回(青銅の仏像?)には気付かなかったが、今回マチカネフニ君の骨片一つにひとつにQRコードが貼布してあったのが面白かった。
 - ・歴史ある展示の数々を見ることができてよかったです。
 - ・ありがとうございました。
 - ・展示している多田鉱山(個人蔵)は多田の物ではない。生野あたりのもの。
常設展の鉱石と展示されているものと比べ吟味した展示すべし。
 - ・たまたま立ちより、素敵な博物館とおどろきました。
40数年ぶりに石橋キャンパスを散策でき、うれしい思いです。
 - ・また、機会があればきます。ありがとうございます。
 - ・まとまりがあり、とてもおもしろかったです。
 - ・展示ケースに手をついて、ずっとメモをしている老男性がいて見れなかった。
→ケースが油でべトべト
メモをとる時のマナーを守ってほしいものです。
又、声の大きい人がいてビデオがきこえなかった。
- 2019年1月
 - ・81年経済の卒業生です。大学キャンパスの変貌ぶりに目を見張ります。
 - ・京大総合博物館をイメージして來たのですが・・・
- 2月
 - ・精緻ですばらしいです
常設展の図録がほしいです
また時間をつくって細部をみます
アンケートにも再び答えます
- 3月
 - ・とても面白かったです。
 - ・屋上にイートインスペースがあると尚良いかなと思います。
 - ・無料ですいませんという感じです。
昔の学者の苦労、努力、才能が少しは理解できました。

団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

| No. | 月日 | 曜日 | 団体名 | 人数 | 説明館員 |
|-------|--------|----|---|----|--------|
| 2018年 | | | | | |
| 1 | 4月9日 | 月 | 共通教育「大阪大学の歴史」 | 39 | |
| 2 | 4月10日 | 火 | 大阪大学新人職員研修 | 39 | 上田・高橋 |
| 3 | 4月14日 | 土 | 大阪大学理学部化学科 | 79 | 上田・半田 |
| 4 | 4月20日 | 金 | 岡山理科大学付属高等学校 | 39 | |
| 5 | 4月21日 | 土 | 植物探検隊@春の待兼山を訪ねて / 大阪大学 21世紀懐徳堂 | 21 | |
| 6 | 4月23日 | 月 | 共通教育「考古学基礎 A」 | 61 | |
| 7 | 4月26日 | 木 | (株)ツムラ東洋医学推進課 | 4 | 高橋・高浦 |
| 8 | 4月26日 | 木 | 春の待兼山で植物観察会 / (株)自然総研 | 23 | |
| 9 | 4月27日 | 金 | 京都両洋高校 | 98 | |
| 10 | 5月7日 | 月 | 兵庫教育大学 地球科学 A | 51 | |
| 11 | 5月12日 | 土 | 植物探検隊@春の待兼山を訪ねて / 大阪大学 21世紀懐徳堂 | 17 | |
| 12 | 5月19日 | 土 | 岡山県立倉敷青陵高等学校 | 85 | 宮久保 |
| 13 | 5月21日 | 月 | 常翔学園高等学校一貫コース4期生 | 67 | |
| 14 | 5月21日 | 月 | 阪神シニアカレッジ園芸学科4年生 | 33 | 伊藤 |
| 15 | 5月22日 | 火 | 広島市立大塚中学校2学年 | 7 | 豊田 |
| 16 | 5月26日 | 土 | NPO 法人とよなか・歴史と文化の会 | 13 | |
| 17 | 5月26日 | 土 | 兵庫県阪神シニアカレッジ歩こう会16期OB会 | 19 | |
| 18 | 5月31日 | 木 | 高知県立牧野財団・水上元理事長 & 東京農業大学・妙田准教授 | 2 | 高橋・高浦 |
| 19 | 6月1日 | 金 | NPO 法人とよなか・歴史と文化の会 | 20 | |
| 20 | 6月2日 | 土 | NPO 法人とよなか・歴史と文化の会 | 18 | |
| 21 | 6月4日 | 月 | ニア city カレッジ・総合文化研究科 グループ「博物館に行く」 | 16 | |
| 22 | 6月6日 | 水 | 宇宙地球の考え方 | 45 | |
| 23 | 6月13日 | 水 | 宇宙地球の考え方 | 40 | |
| 24 | 6月22日 | 金 | 高槻市ニアカレッジ歩く会 | 4 | |
| 25 | 6月22日 | 金 | (株)サムスン日本研究所 PE-Lab | 16 | |
| 26 | 6月27日 | 水 | 宇宙地球科学の考え方 | 36 | |
| 27 | 7月3日 | 火 | 株式会社 NRXRISE | 20 | |
| 28 | 7月4日 | 水 | 宇宙地球科学の考え方 | 35 | |
| 29 | 7月11日 | 水 | 宇宙地球科学の考え方 | 24 | |
| 30 | 7月12日 | 木 | 金光八尾高等学校 | 28 | |
| 31 | 7月17日 | 火 | 理学部サマースクール特別聴講学生(留学生) | 18 | 高浦 |
| 32 | 7月18日 | 水 | 上宮高等学校 | 69 | 豊田・宮久保 |
| 33 | 7月28日 | 土 | コスマ鶴見 | 10 | |
| 34 | 8月7日 | 火 | 大阪大学理学部生物(生物学野外実習) | 20 | 高浦 |
| 35 | 8月15日 | 水 | 榮輝教育 | 85 | |
| 36 | 8月17日 | 金 | 基礎工学研究科尾方研究室西安交通大学 | 16 | |
| 37 | 8月29日 | 水 | 昭和薬科大学付属高等学校 | 35 | 伊藤 |
| 38 | 9月8日 | 土 | 平成30年X線の会「角戸先生のご誕生100年を記念して」 | 61 | 豊田 |
| 39 | 9月11日 | 火 | デイサービス豊中千寿園 | 5 | |
| 40 | 9月12日 | 水 | 大阪高齢者大学「大阪の歴史を学ぶ会」 | 11 | |
| 41 | 9月12日 | 水 | デイサービスセンター豊中千寿園 | 8 | |
| 42 | 9月13日 | 木 | デイサービスセンター豊中千寿園 | 13 | |
| 40 | 9月14日 | 金 | デイサービスセンター豊中千寿園 | 9 | |
| 41 | 9月18日 | 火 | とよなか粹遊会 | 18 | 半田 |
| 42 | 9月19日 | 水 | バストラール尼崎 | 12 | |
| 43 | 9月21日 | 金 | とよなか歴史と文化の会 | 27 | |
| 44 | 9月26日 | 水 | バストラール尼崎 | 12 | |
| 45 | 10月2日 | 火 | さくらサイエンス「北京航空航天大学」 by 阪大核物理研究センター、理学研究科物理学専攻 | 11 | |
| 46 | 10月6日 | 土 | 第20回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて | 25 | |
| 47 | 10月16日 | 火 | 島根県立隠岐高等学校 | 80 | |
| 48 | 10月20日 | 土 | 第20回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて | 25 | |
| 49 | 10月31日 | 水 | 大阪信愛学院高等学校 | 24 | |

| No. | 月日 | 曜日 | 団体名 | 人数 | 説明館員 |
|-------|--------|----|-------------------------------|----|--------|
| 50 | 11月15日 | 木 | 兵庫県立宝塚北高等学校グローバルサイエンス科 | 42 | |
| 51 | 11月15日 | 木 | 開智高等学校 | 42 | |
| 52 | 11月17日 | 土 | 打上自治会「打上みんなで歩こうかい」 | 13 | |
| 53 | 11月17日 | 土 | 公益財団法人益富地学会館 | 15 | |
| 54 | 11月20日 | 火 | 大阪歴史散歩の会 | 26 | MA(横田) |
| 55 | 11月24日 | 土 | 桜井谷地区社会福祉協議会 | 30 | 上田 |
| 56 | 11月26日 | 月 | 奈良市立一条高等学校 数理科学科 | 41 | 上田 |
| 57 | 11月30日 | 金 | 中国教育部、上海交通大学、西南大学 | 4 | 伊藤 |
| 58 | 12月6日 | 木 | ボランティアグループ櫻輪 | 11 | 半田 |
| 59 | 12月7日 | 金 | 高岡龍谷高等学校 | 41 | |
| 60 | 12月12日 | 水 | 池田・人と自然の会 | 11 | |
| 61 | 12月17日 | 月 | 土佐塾中学校・高等学校 | 40 | |
| 2019年 | | | | | |
| 62 | 1月17日 | 木 | 朝日カルチャーセンター・京都「京のまちウォッキングB」講座 | 21 | |
| 63 | 1月31日 | 木 | 国立大学法人10大学理学部事務長会議 | 24 | 宮久保 |
| 64 | 2月15日 | 金 | ヒューマンアカデミー日本語学校大阪校 | 13 | 宮久保 |
| 65 | 2月22日 | 金 | ヒューマンアカデミー日本語学校大阪校 | 13 | 宮久保 |
| 66 | 3月11日 | 月 | 西宮市生涯学習大学／宮水学園「宮水ウォーク」 | 20 | 豊田 |
| 67 | 3月15日 | 金 | 兵庫県立豊岡高等学校 | 13 | |
| 68 | 3月18日 | 36 | 認定NPO法人大阪府高齢者大学同窓会北部 | 36 | 宮久保 |
| 69 | 3月27日 | 14 | 福岡県八幡高等学校 | 14 | |

年間件数、参加のべ人数（事前に見学申込があった団体のみ）

- ・阪大の授業での見学件数 12 件
 - ・高校関係者による見学件数 16 件、参加のべ人数 758 人
 - ・中学校関係者による見学件数 1 件、参加のべ人数 7 名
 - ・小学校関係者による見学件数 0 件、参加のべ人数 0
 - ・全体の解説件数 22 件、参加のべ人数 664 人
- パンフレットを配ったオープンキャンパスの開催日(8/7～10)来館者数合計：684 人

関連記事一覧

新聞

※教員関連の記事は「12. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

| No. | 掲載日 | 曜日 | 掲載紙名 | 内容 |
|-------|--------|----|----------|----------------------------|
| 2018年 | | | | |
| 1 | 4月7日 | 土 | 毎日新聞社 | 第11回特別展「洋画家 中村貞夫」 |
| 2 | 4月26日 | 木 | 毎日新聞社 | 〃 |
| 3 | 7月14日 | 土 | 毎日新聞社 夕刊 | 〃 |
| 4 | 5月31日 | 木 | 毎日新聞社 | 記憶の劇場Ⅱ 受講生募集 |
| 5 | 10月17日 | 水 | 産経新聞社 夕刊 | 第12回特別展「The Mineral World」 |
| 6 | 12月13日 | 木 | 毎日新聞社 夕刊 | |
| 2019年 | | | | |
| | | | | |

その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

| No. | 掲載誌 / 発行 | 発行日 / 卷 / 号 他 | 内容 |
|-----|---------------------------|----------------------------------|--|
| 1 | 広報とよなか | 2018年4月号/Vol.816 | 4月のお知らせ（文化・にぎわい） 四代文明 中村貞夫展 |
| 2 | 広報いけだ / 池田市 | 2018年4月1日/ 第1169号 | ミュージアムガイド 第11回特別展「洋画家 中村貞夫」 |
| 3 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年4月10日 No.422 | おおさかKEY わーど 第89回“天下の台所”とは違うロマンチックな響き |
| 4 | 考古学研究(代)4巻第4号 (通巻256号) | 2018年3月 | 「勾玉及び管玉製作順序」模型標本 |
| 5 | 広報とよなか | 2018年5月号/Vol.817 | 5月のお知らせ（文化・にぎわい） 四大文明 中村貞夫展 |
| 6 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年5月10日 No.423 | おおさかKEY わーど 第90回デカルトに触発された洋画家 |
| 7 | City Life 北摂 West 版 | 2018年6月号 Vol.184 | 北摂イベント 特別展 洋画家 中村貞夫 |
| 8 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年6月10日 No.424 | おおさかKEY わーど 第91回壮麗な店舗を見あげ、お買い物から文化催事まで |
| 9 | リビング北摂 | 2018年7月7日 2002号 | 体験！こどもミュージアム |
| 10 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年7月10日 No.425 | おおさかKEY わーど 第92回上を向いて煙突の数を数へると同時に下を見て、下層労働者の成果多雨状態を察せねばならない。 關一 |
| 11 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年8月10日 No.426 | おおさかKEY わーど 第93回新しいものを発見するのがミュージアム「大大阪記念博覧会」の謎が解けるか |
| 12 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年9月10日 No.427 | おおさかKEY わーど 第94回リアリズムも鳥瞰図の魅力 時空を越えたノスタルジー散歩をどうぞ |
| 13 | 大学時報 2018 9月号 | 平成30年9月20日発行 第67巻382号(通巻396号) | 特集 自然史と大学博物館（橋爪教授） |
| 14 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年10月10日 No.428 | おおさかKEY わーど 第95回中央公会堂から「なにわの企業が集めた絵画の物語」展 |
| 15 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年11月10日 No.429 | おおさかKEY わーど 第96回開館百周年記念に、中央公会堂八景を勝手につくってみた |
| 16 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2018年12月10日 No.430 12・1月合併号 | おおさかKEY わーど 第97回メモリアルイヤーオンパレード「キンカ」近畿化学協会も100周年 |
| 17 | 広報とよなか | 2019年1月号/Vol.825 | 1月のお知らせ（文化・にぎわい） サイエンスカフェ (No.150、C-7) |
| 18 | City Life 北摂 West 版 | 2019年2月号 Vol.192 | 北摂イベント サイエンスカフェ (C-9) |
| 19 | 広報とよなか | 2019年2月号/Vol.826 | 2月のお知らせ（文化・にぎわい） サイエンスカフェ (No.151、C-9) |
| 20 | いちょう並木 / 大阪市教育委員会 | 2019年2月10日 No.431 | おおさかKEY わーど 第98回エスカラーターも世界基準なのに…ローカルに思われるのはなぜ |

ラジオ・テレビ 等

| No. | 番組名 / 放送局 | 放送日時 | 内容 |
|-----|-------------------------|------------|------------|
| 1 | 関西テレビ「報道ランナー・兵頭大樹の今昔散歩」 | 2018年5月18日 | マチカネワニについて |

インターネット

| No. | 掲載ホームページ | 内容 |
|-----|----------|--------------------------|
| 1 | 関西文化.com | 第11回特別展 洋画家 中村貞夫 4月27日より |
| 2 | 阪急電鉄 | 〃 |
| 3 | 豊中市 | 〃 |

寄贈図書一覧

| No. | 寄 贈 者 | 書 名 |
|-----|--------------------|-----------------------------------|
| 1 | 真田宝物館 | 真田家の姫たち |
| 2 | 東京芸術大学 | H29年度東京芸術大学 卒業・修了作品集 |
| 3 | 茨木市教育委員会 | 茨木のキリシタン遺物 |
| 4 | 上郡町郷土資料館 | 赤松氏のふるさとをゆく |
| 5 | 堺市博物館 | 図録「堺縦通ものがたり」 |
| 6 | 関西大学博物館 | 山本竜山の書と学問 |
| 7 | サントリー美術館 | サントリー美術館プレミアム・セレクション |
| 8 | 国立民族学博物館 | 太陽の塔から民博へ 70年万博収集資料 |
| 9 | 懐徳堂研究センター | 懐徳堂研究第9号 |
| 10 | 姫路科学館 2018年3月 | 姫路市科学館収蔵資料目録 第7号 クワガタムシ科 |
| 11 | 立命館大学国際平和ミュージアム | 立命館平和研究－立命館大学国際平和ミュージアム紀要－ |
| 12 | 大阪城天守閣 | 大阪城天守閣紀要 |
| 13 | 小樽市総合学術博物館 | 小樽市総合博物館紀要 |
| 14 | 静岡県博物館協会 | 研究紀要 |
| 15 | 東北大学総合学術博物館 | 東北大学総合学術博物館紀要 |
| 16 | 金沢大学資料館 | 金沢大学資料館紀要 |
| 17 | サントリー美術館 | サントリー美術館研究紀要 |
| 18 | 根津美術館 | 根津美術館紀要 此君 特集「双羊尊」研究の現在 |
| 19 | 熊本大学工学部研究資料館 | 熊本高等工業学校 図録 |
| 20 | ユニバーシティ・アート・リソース研究 | ユニバーシティ・アート・リソース研究Ⅲ H29報告書 |
| 21 | 國學院大學博物館 | 國學院大學博物館研究報告 |
| 22 | 岩手県立博物館 | 岩手県立博物館研究報告第35号 |
| 23 | 大阪市立歴史民俗資料館 | 進化系アーケイプと旅するミュージアム H29年度事業報告書 |
| 24 | 龍谷大学文学部博物館実習室 | 2017年度博物館実習報告第36号 |
| 25 | 堺市博物館 | 堺市博物館研究報告 第37号 |
| 26 | ふくおか博物館人材育成事業実行委員会 | H29年度文化庁事業実施報告書 |
| 27 | 長野県埋蔵文化財センター | 松本市井出川南遺跡 |
| 28 | 東大阪市率埋蔵文化財センター | 東大阪市立埋蔵文化財センター 2016年度 |
| 29 | 東大阪市率埋蔵文化財センター | 東大阪市立埋蔵文化財センター 2017年度 |
| 30 | 大阪城天守閣 | 大阪城代記録(八) |
| 31 | 和歌山市立博物館 | 和歌山市立研究 |
| 32 | 九州産業大学美術館 | H28-29年度報告書 |
| 33 | 鹿児島大学総合研究博物館 | 年報 鹿児島大学総合研究博物館 2016 |
| 34 | 東北学院大学博物館 | 年報 東北学院大学 2016 |
| 35 | 山口大学埋蔵文化財資料館 | 年報 山口大学埋蔵文化財資料館年報 H25年度 |
| 36 | 伊丹市立美術館 | 館報 2015～2016 伊丹市立美術館 |
| 37 | 茨木市立文化財資料館 | 館報 H28年度 茨木市立文化財資料館 |
| 38 | 熊本大学五高記念館 | 館報 H25～H28 熊本大学五高記念館 |
| 39 | 大阪大学図書館 | 館報 大阪大学図書館 |
| 40 | 大阪歴史博物館 | 特別展 渡來人いづこより |
| 41 | 京都国立近代美術館 | さわるコレクション |
| 42 | 京都造形芸術大学 芸術館 | 浮世絵 |
| 43 | 大阪市立大学 垣藤記念室 | 垣藤恭「商大学長時代日記／講演等レジュメ」(1946・1947年) |
| 44 | 大阪府教育庁文化保護課 | 第47回 日本伝統工芸近畿展 |
| 45 | 佐賀大学芸術地域デザイン学部 | SMAART 2017記録集 |
| 46 | 安田町教育委員会 | 石田英吉 年譜 勤王の志士から明治政府の官僚へ |
| 47 | 福井県立歴史博物館 | ミュージアムスタイル Vol.9 特別展再会ふくいゆかりの名宝たち |
| 48 | 帝塚山大学考古学研究所 | 帝塚山大学考古学研究所研究報告 |
| 49 | 帝塚山大学付属博物館 | 帝塚山大学付属博物館報 xIII |
| 50 | 山口大学連携事業事務局 | 山口大学ML(Museum・Library)連携事業報告 |
| 51 | 大阪市立東洋陶磁美術館 | 韓国陶磁研究報告 11「元と高麗」2018 |
| 52 | 名古屋市博物館 | 名古屋市博物館研究紀要 第41巻 2018 |

| No. | 寄 贈 者 | 書 名 |
|-----|----------------------------|--------------------------------------|
| 53 | 國學院大學 | 國學院大學博物館事業 報告書 |
| 54 | 関西大学なにわ大学研究センター | 関西大学千里山キャンパスの景観変遷と可視化 |
| 55 | 茨木市教育委員会 | H29年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査報告 |
| 56 | 島本町教育委員会 | 島本町文化財調査報告書 第32集 |
| 57 | 島本町教育委員会 | 島本町文化財調査報告書 第33集 |
| 58 | 公共圏における科学技術・教育研究拠点 | 大阪大学・京都大学 公共圏における科学技術 活動報告 2016 |
| 59 | (株)テレビせとうちクリエイト | 大相撲と日本刀 |
| 60 | 吹田市立博物館 | H30年度春季特別展 西村公朝 芸術家の素顔 |
| 60 | 名古屋市博物館 | 企画展 博物館イキ |
| 61 | 武田化学振興財団 | 杏雨 KYOU-U 第21号 |
| 62 | きしわだ自然資料館 | きしわだ自然資料館研究報告第5号 |
| 63 | 関西大学博物館 | 関西大学博物館紀要 第24号 |
| 64 | 滋賀大学経済学部付属資料館 | 滋賀大学経済学部付属資料館 研究紀要第51号 |
| 65 | 多摩美術大学芸術人類学研究所 | Art Anthropology |
| 66 | 九州国立博物館 | 対馬 遺宝にみる交流の足跡 |
| 67 | 九州国立博物館 | 世界遺産 ラスコー展 |
| 68 | 九州国立博物館 | タイ～仏の国の輝き～ |
| 69 | 九州国立博物館 | 大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～ |
| 70 | 九州国立博物館 | 大航海時代の日本美術 |
| 71 | 九州国立博物館 | 王羲之と日本の書 |
| 72 | 九州国立博物館 | 白隱さんと仙庵さん |
| 73 | 九州国立博物館 | 東風西声 九州国立博物館紀要 |
| 74 | 九州国立博物館 | 水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－ |
| 75 | 八尾市立歴史民俗資料館 | 豊作への祈り－大阪府内の農耕儀礼－ |
| 76 | 関西学院大学博物館 | ポスターでたどる戦前の新劇 |
| 77 | 和歌山市立博物館 | 和歌山城再発見！ |
| 78 | 吹田市立博物館 | ニュータウン誕生 |
| 79 | 公益財団法人 美術院 | 美術院紀要 第十号 |
| 80 | 新修宗像市編集委員会 | 宗像市史研究 創刊号 |
| 81 | 神戸大学大学院海事科学研究科 | 海事博物館研究年報 2017 |
| 82 | 八尾市立歴史民俗資料館 | 館報 平成29年度 |
| 83 | 熊本市熊本博物館 | 熊本博物館館報 2017年度報告 |
| 84 | 関西大学博物館 | 2018年度 夏季企画展 地図畳にみる世界と日本 |
| 85 | 日本財団 海の学びミュージアムサポート | 知ってる貝！見てみる貝！貝のヒミツ |
| 86 | 三重総合博物館 | 第20回企画展 おもちゃ大好き！郷土玩具とおもちゃの歴史 |
| 87 | 三重総合博物館 ミュージアム・パートナー民族グループ | 伊賀の農具たち 旧上野農業高校所蔵資料解説 |
| 88 | 西宮市立郷土資料館 | 八十塚古墳群の時代～武庫平野における群集墳の成立と展開～ |
| 89 | 三重県総合博物館 | 三重県総合博物館資料叢書 |
| 90 | 三重県総合博物館 | 三重県総合博物館研究紀要 |
| 91 | 三重大学 博学連携推進室 | 2015年度 博学連携シンポジウム 大学の学芸員養成教育と博物館 記録集 |
| 92 | 広島大学総合博物館 | 総合博物館研究報告9 |
| 93 | 刈谷市 | 中条遺跡発掘調査報告書3(平成11年度調査) |
| 94 | 仙台市博物館 | 仙台市博物館調査研究報告 第38号 |
| 95 | 西宮市教育委員会 | 徳川大坂城東六甲採石場詳細分布調査報告書 |
| 96 | 大東市立歴史民俗資料館 | 2017大東市立歴史民俗資料館 館報 第2号 |
| 97 | 三重県総合博物館 | 2015三重県総合博物館 年報 |
| 98 | 三重県総合博物館 | 2016三重県総合博物館 年報 |
| 99 | 西宮市立郷土資料館 | 西宮歴史調査団 年報 |
| 100 | たばこと塩の博物館 | 2017年度 たばこと塩の博物館 年報 |
| 101 | 松代文化施設等管理事務所 | 松代〈付・年報〉第31号(2017年) |
| 102 | 国立歴史民俗博物館 | 平成30年度 国立歴史民俗博物館 要覧 |
| 103 | 和歌山市立博物館 | 特別展 お殿様の宝箱 南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術 |
| 104 | 大阪くらしの今昔館 | 大大阪モダニズム 片岡安の仕事と都市の文化 |

| No. | 寄 贈 者 | 書 名 |
|-----|------------------|-------------------------------------|
| 105 | 大阪府立 狹山池博物館 | 平成 30 年度特別展 王者のひつぎ 狹山池に運ばれた古墳石棺 |
| 106 | 国立民族学博物館 | 特別展 工芸継承 |
| 107 | 帝京大学総合博物館企画展 | 「カビ展」医真菌学研究への誘い |
| 108 | 金沢大学資料館 | 平成 30 年度金沢大学資料館特別展 石の博誌 |
| 109 | 柏原市立歴史資料館 | 今町 -三田家・寺田家からみた柏原村- |
| 110 | 柏原市立歴史資料館 | 市制 60 周年記念 鍛冶の郷 大県と田辺 |
| 111 | 柏原市立歴史資料館 | 水野家文書 |
| 112 | 大阪狭山市教育委員会 | 城郭から考える近世社会と技術 |
| 113 | 大阪府立狭山池博物館 | 大阪府立狭山池博物館研究報告 |
| 114 | 長野県埋蔵文化財センター | 栄村 ひんご遺蹟 |
| 115 | 大阪大学大学院言語文化研究科 | 言語文化研究 44 |
| 116 | 熊本大学文書館 | 新聞に見る明治熊本の高等教育 2 |
| 117 | 帝京大学総合博物館 | 帝京大学総合博物館 館報 |
| 118 | 吹田市立博物館 | 吹田市立博物館 館報 |
| 119 | 柏原市立歴史資料館 | 柏原市立歴史資料館 館報 |
| 120 | 総合地球環境学研究所 | 総合地球環境学研究所 要覧 2018 |
| 121 | 京都・大学ミュージアム連携 | 京都・大学ミュージアム連携 案内 |
| 122 | 京都市芸術文化協会 | 京文藝 特集京都の近代 |
| 123 | 大阪大谷大学博物館 | 博物館だより |
| 124 | 国立歴史民俗博物館 | 紀州徳川家伝来の楽器 -琵琶Ⅱ- |
| 125 | 国立歴史民俗博物館 | 冬の華・サザンカ |
| 126 | アジア太平洋研究所 | Policy Brief No.3 |
| 127 | 國學院大學・西南学院大学 | 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 特別展 キリシタン |
| 128 | 西南学院大学博物館 | 東方キリスト教との出会いー祈りのかたちとその拡がり |
| 129 | 福井県立若狭歴史博物館 | うきたつ人々 -幕末若狭の祭礼・風俗・世相- |
| 130 | 京都府立丹後郷土資料館 | H30 特別展 天橋義塾と自由民権運動～人は人たるの本文を尽くす～ |
| 131 | 吹田市立博物館 | 東洋一の夢の跡 -吹田操車場遺跡展- |
| 132 | 滋賀大学経済学部付属資料館 | H30 年度企画展 菅浦文書国宝指定記念 中世近江の惣村文書 |
| 133 | 大阪城天守閣 | 特別展 幕末・維新の人とことば |
| 134 | 泉大津市教育委員会 | いずみおおつの近代漁業 -時代とともに変容する漁業の記録- |
| 135 | 泉大津市教育委員会 | おほつ研究 Vol. 11 |
| 136 | 関西学院大学博物館 | 美術と文芸 -関西学院大学が生んだ作家たち- |
| 137 | 福井県立若狭歴史博物館 | 館報 H29 年度 |
| 138 | 京都大学総合博物館 | 京都大学総合博物館年報 H29 年度 |
| 139 | 西南学院大学博物館 | 西南学院大学博物館研究紀要 第 6 号 |
| 140 | 大阪市立大学大学史資料室 | 大阪市立大学史紀要 |
| 141 | 仙台市 | 市史 せんだい |
| 142 | 香川県立ミュージアム | 高松松平家歴史資料目録 VI 武器・武具（甲冑・鉄砲・馬具等） |
| 143 | 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 | 掌のなかの図案ー近代京都と染織図案 II 展覧会図録 |
| 144 | 公益財団法人 アイヌ民族文化財団 | キムンカイムとアイヌ -春夏秋冬- |
| 145 | 茨木市文化財資料館 | 総持寺 |
| 146 | 大阪商業大学商業史博物館 | 大阪商業大学商業史博物館紀要 |
| 147 | 大阪歴史博物館 | 大阪歴史博物館年報 平成 29 年度 |
| 148 | 公益財団法人 阪急文化財団 | 阪急文化研究年報 |
| 149 | 大阪大学大学院情報科学研究科 | 自己評価・外部評価報告書 |
| 150 | 岐阜県博物館 | 理科室からふるさとの自然を見つめて ～知れば知るほど面白い標本の世界～ |
| 151 | 岐阜県博物館 | 兼定 刀都・関の名工 |
| 152 | 大山崎町歴史資料館 | 行基と山崎院 |
| 153 | 松原市民ふるさとびあプラザ | 村上騒動と松原 |
| 154 | 南山大学人類学博物館 | 南山大学人類学博物館紀要 第 37 号 |
| 155 | 東北福祉大学 芹沢銓介美術工芸館 | 東北福祉大学 芹沢銓介美術工芸館 年報 9 2017 |
| 156 | 静岡県博物館協会 | 静岡の博物館 静岡県博物館協会会報 |
| 157 | 国立科学博物館 | ミルシル 特集 恐竜から鳥へ-進化の軌跡 |
| 158 | 大山崎町歴史資料館 | 行基と山崎院 |

| No. | 寄 贈 者 | 書 名 |
|-----|------------------|---------------------------------------|
| 159 | 根津美術館 | 新・桃山の茶陶 |
| 160 | 根津美術館 | 特別展 光琳と乾山 芸術家兄弟響き合う美意識 |
| 161 | 真田宝物館 | 松代藩の戊辰戦争 |
| 162 | 東京藝術大学美術学部 | 東京藝術大学 卒業・修了作品集 第67回美術学部／大学院美術研究科修士課程 |
| 163 | 東京工業大学 | 東京工業大学百年記念館 設立30年記念誌 |
| 164 | 和歌山大学地域活性化総合センター | 加太・友ヶ島の信仰と歴史 －葛城修験二十八宿の世界 |
| 165 | 公益財団法人 根津美術館 | 根津美術館紀要 此君 特集 円山応挙 |
| 166 | 和歌山大学紀州経済史文化史研究所 | 紀州経済史文化史研究所紀要 第39号 |
| 167 | 鹿児島県歴史資料センター | 特別展 NHK 大河ドラマ特別編 西郷どん |
| 168 | 大阪歴史博物館 | 特別展 大阪の米騒動と方面委員の誕生 |
| 169 | 大阪歴史博物館 | 特別展 はにわ大行進 長原古墳群と長原遺跡 |
| 170 | 和歌山県立博物館 | 企画展 きのくに縁起絵巻の世界 －開かれる秘密の物語－ |
| 171 | 和歌山県立博物館 | 特別展 紀伊徳川家 やきもの新時代 －富国と榮華の19世紀－ |
| 172 | 上郡町郷土資料館 | 世を開く道しるべとならん ～明治を創った男・大鳥圭介～ |
| 173 | 佐賀大学芸術地域デザイン学部 | 佐賀モバイルアカデミーオブアート2018記録集 |
| 174 | 和歌山県立博物館 | 和歌山県立博物館研究紀要24号 |
| 175 | 大阪市立東洋陶磁美術館 | 韓国陶磁研究報告12 |
| 176 | 國學院大學博物館 | 國學院大學博物館 研究報告 |
| 177 | 筑波大学芸術系 | 石井コレクション研究6 池田龍雄 |
| 178 | 大阪市立美術館 | 大阪市立美術館紀要 第19号 |
| 179 | 西宮市立大谷記念美術館 | 年報2015～2017 |
| 180 | 宮崎大学農学部附属農業博物館 | 宮崎大学農学部附属農業博物館年報第18号 |
| 181 | 宮崎大学農学部附属農業博物館 | 宮崎大学農学部附属農業博物館年報第19号 |
| 182 | 同志社大学歴史資料館 | 同志社大学歴史資料館 館報第21号 |
| 183 | 島本町立歴史文化資料館 | 島本町立歴史文化資料館 館報第10号 |
| 184 | 文化庁 | 大阪のミュージアムの「いま」 |



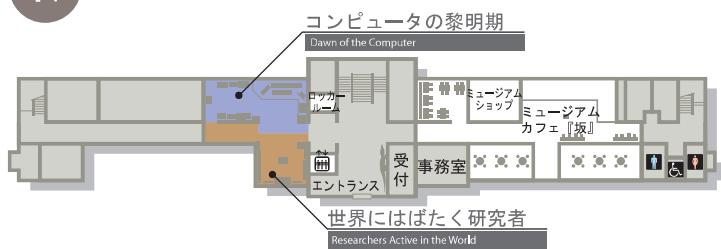
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 MOU



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World
ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懇徳堂、適塾といった大阪市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

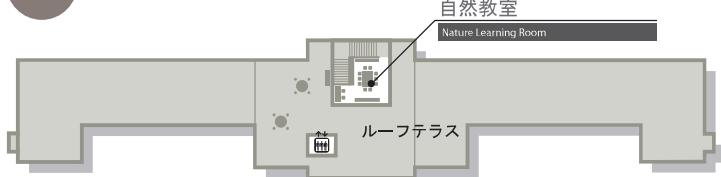
3F



待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室 & ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館
年報 2018

2019年9月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13

印 刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子（アトリエツジムラ）

